

第Ⅲ章 出土遺物の分析

第1節 土器

1. 1類土器の分類

マツノト遺跡出土遺物は各区分毎に出土数を示している。但しここに記載されている数字は3 cm以下の土器片と無文の胴部土器片を除いている。今回の資料は器形、文様の特徴をよく表している土器片950点を抽出し、実測・記録等のデーター入力を行った報告である。その内訳は第3表土器出土区部種別分類個数データー1, 2で示している。内訳は口縁部と口縁直下資料535点、胴部資料19点、底部資料377点の合計950点である。この数字が示すように口縁部と底部資料が大半を占め、その数に109点の開きがあるが底部資料は残存部が1個体または半個体分がほとんどである。これに対して口縁部は復元資料および同固体と思われるものを除いて、その大きさから残存部が半分以下を下回る個体数などを考慮すると口縁部と底部の割合はほぼ同固体数を示していると思われる。今回の資料に使われなかった3 cm以上の無文土器片等については出土区ごとにその数字を第4表調査区別遺物出土表として示した。

2. 胎土による形式分類

抽出された出土資料は土器形式分類 (form) を行い、さらに口縁部と底部の胎土分析を行い甕形、壺形の特徴をもとめた。胎土分析ははっきり判りやすく、粒子の粗い砂質と粒子の細かい泥質の2タイプを手で触った感触と質感、そして色調などの目視で行った。

その結果、形式は甕と壺に大別される。第5表が示すように甕が638点で、壺が218点でその数は甕が多いことを示している。これを層位別に分類を行い第5表の円グラフが示すように甕形土器（深鉢）は白砂層下、白砂層から少量が出土しており、第1文化層において580点で全体の92%を占有していることがわかる。これに対し、壺形土器は第2文化層、白砂などの下層からの出土は2, 3点と少なく、第1文化層から207点、全体の95%、そして第1文化層上で10点、の5%で第1文化層と第1文化層上で約100%を占有していることがわかる。このデーターから壺型土器のほとんどは第1文化層から出現していることがわかる。壺形土器の器形は口縁部に特徴があり細口壺と広口壺、方形注口壺に分類され、第5表が示しているように大多数の196点が細口壺である。その他に碗形と思われる土器が第1文化層から1点出土している。

甕形、壺形土器の出土層位は甕形土器が白砂層下、白砂層、白砂層上から28点、4%が出土し、第1文化層、第1文化層上から607点、96%が出土している。壺形土器は第1文化層以下の下層からの出土例がなく、すべて第1文化層、第1文化層上の層を占有していることがわかる。甕と壺の胎土分類は5表2に示してある。甕については砂質91%、泥質9%を示し、壺は泥質が87%、砂質13%と甕と壺の胎土は明らかに違うことをここでも示している。

3. 土器の型式分類

土器分類基準を作成し分類を行う、分類では突帯の有無、突帯・突帯刻目の位置、突帯刻目+沈線文の有無と位置などを示し、兼久式土器の型式分類を行う（第6表土器型式分類基準表）。大枠分類の1類から3類を占めるパーセントは1類291点51%を占め、2類205点37%、3類18点3%、不明38点7%の結果を得た。2類土器205点の中にはC無文土器が113点を数え、1, 2, 3類全体の中でも無文土器が20%を占有していることがわかる（第7表1類土器出土区別型式分類表、第8表F無文、2・3類土器出土区別型式分類表）。

以上のことから河口が示した兼久式土器の定義である1類土器に無文土器を加えると1類土器が90%を占めていることがわかるがここでは無文土器は兼久式土器の再定義を行いあえてはずしている。

1類Aの横突帯の位置を示す291点の資料からは第6表が示すようにA横突帯の位置が中についているのが123点と1, 2, 3類全体の中でも22%を占有しており、続いて下についているのが54点、10%、上についているのが27点5%の数値を示している。その結果、横位の貼付突帯文は口縁部分から3, 4cmの中の位置についているのが圧倒的な割合を占めていることが2枚、3枚の分類結果から読み取ることができる。

2, 3枚で得られた結果をさらに4枚口唇部刻目の有無、5枚突帯刻目の有無、6枚沈線の有無と位置のデータは第8表に示した。その結果、口唇部に刻目を有する土器は第1文化層に9点と少なかった。刻目口唇を有さない土器が白砂層下4点、白砂層5点、第1文化層247点と大多数を占め、口唇部に刻目を有する土器は第1文下層においてわずかに限られていることがわかる。

5枚の刻目突帯文の有無は刻目突帯を有する土器は201点、刻目突帯を有さない土器が61点である。層位別に刻目突帯を有する土器は白砂層下1点、白砂層6点、第1文化層201点、第1文化層上6点の結果を得た。刻目突帯を有しない土器は第1文化層から始まり61点、第1文化層上から3点の結果を得た。

6枚の沈線の有無と位置は突帯文+沈線を有する土器は白砂層から1点、第1文化層で40点、第1文化層上から2点出土し、突帯文のみで沈線を有さない土器は白砂層した1点、白砂層3点、第1文化層123点、第1文化層上から5点出土している。第1類土器は第2文化層からの出土がなかった。白砂層下から6点、白砂層から17点の出土であり、他はほとんど第1文化層、第1文化層上層に限られていることがわかる。

4. 底部の分類

底部は5つに分類を行いその出土パーセントを下記のとおり示す事が出来た（第10表底部出土区別型式分類表）。

A - I は平底タイプ32%

A - II はくびれ平底タイプ38%

B - III は丸み平底23%

C - 不明 3 %

D - 特殊 4 %

その結果各区別のA～D類までの出土数は口縁部同様にA - 1が15・16区に集中しており、A - 2が3・4区当たりに集中しているのがわかる。底部における甕形と壺形の比率は甕形72%、壺形23%、不明、特殊5%の結果を得た。この甕、壺の比率は口縁部の比率と同じ傾向を示しているのがわかる。底部の実測図は出土区ごとに特徴を示す資料を出来るだけ多くの実測図で現している（第30図から43図まで）。

次に今度は分類対象388点からA - 1・2、B、C類に分類を行い、胎土分析を行った（第10図A 底部胎土分析表）。A - 1類平底タイプで砂質の甕形土器は73%、泥質の甕形土器は24%を示した。A - 2類くびれ平底タイプで砂質の甕形土器は90%、泥質の甕形土器は8%を示した。B類丸み平底タイプで泥質の壺形土器は75%、砂質の壺形土器は25%を示した。

以上のこのことはAの平底、くびれ平底と丸み平底に大きく分類され、A249点、B102点、不明37点に分けられる。口縁部における甕と壺の胎土分析においてAは甕形を示し、Bは壺形を示している。この結果は底部においても形式、胎土とも同様な数値を示しており、胎土によって甕と壺の分類が可能であることを表している。

上記のように安良川遺跡においても同様な胎土分析を行っており第11表安良川遺跡底部胎土分類が報告書に

において A - 1 平底砂質が73%、泥質27%、A - 2 くびれ平底砂質81%、泥質19%、B 丸み平底泥質67%、砂質33%の数値を示している。マツノト遺跡、安良川遺跡の胎土による分析は同様な傾向を得ることができ、口縁部、底部ともに胎土による器種分類が可能であることを示している。

A - 1 の平底底部には底面がやや上がるタイプもあり、スセン當式土器にみられる中空上げ底土器の系統を思わせるものもある。いずれも底面に葉痕を有している。

5. 底部の層位的検証

底部による形式と胎土分類の結果が示され、今度はそれぞれのタイプが層位的な差異がどのように示すのか362点の資料を第12表底部層位別表、第13表底部層位別棒グラフに表した。

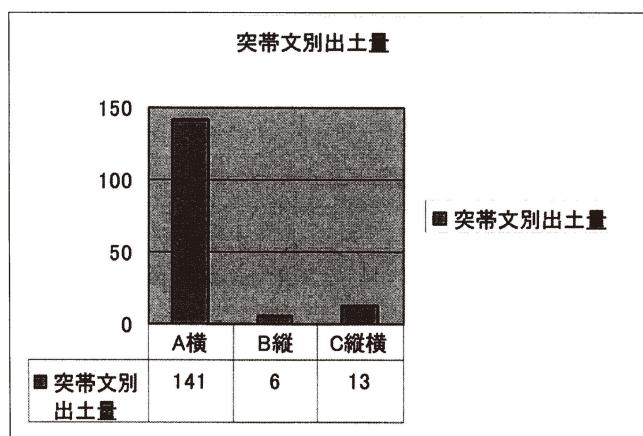
その結果第1文化層において A - 1 平底106点、A - 2 くびれ平底127点、B 丸み平底80点、D - 特殊16点で A - 2 のくびれ平底が多いことを示している。白砂上、白砂、白砂下をまとめて白砂層としてとらえると A - 1 平底 8 点、A - 2 くびれ平底 3 点、D なしで平底が古い傾向を示している。この数値は口縁部から底部まで復元された資料は含まれていない。その復元された白砂層出土の土器はすべて平底をなしていることから同様に古い傾向を示している。

6. I類土器型式分類の検証

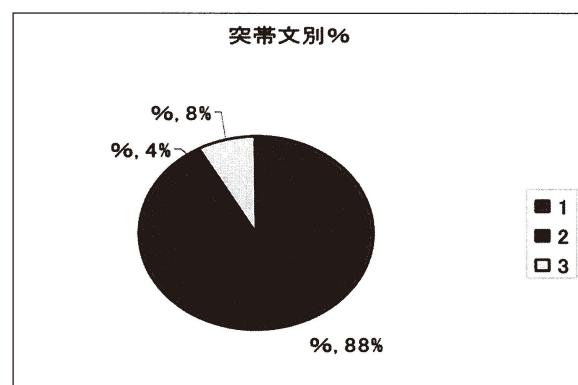
マツノト遺跡出土の兼久式土器形式分類対象総数950点は調査区別ごとに第3表1・2に底部、口縁部、口縁直下、胴部、その他、外来別の数を記して各区の数を記した総数である。その結果3区64点、4区61点をはじめ、その周辺に集中し、15・16区にも78点、A区に50点と調査区域の中でも遺物が集中する箇所があることを示している。一括遺物の廃棄のあり方は岡村道雄が鳥浜貝塚において貝の1回分の廃棄量や貝種などの同時間性を表す資料として扱った資料のとらえ方を参考にした。奄美大島においては長浜金久遺跡、用見崎遺跡、フワガネク遺跡等でこのような資料の出土状が検出されている。今回のマツノト遺跡における遺物の集中箇所も同様な視点と同じ兼久式土器で兼久式土器型式の変化などにも相違が見られるのか今後検討すべき課題である。それは大枠型式分類の2類土器、3類土器、そして、貝製品、鉄製品等の全体的出土遺物を含めた考察も必要となる。

7. 口縁部の型式分類

口縁部から胴部にかけて特徴ある土器は第3表1・2出土区部種別個数データーの950点から選別された160



第47図 突帯文別出土



第48図 突帯文別出土パーセント

点の型式分類を行いその特徴を抽出した。型式分類を行う中で突帯の有無や沈線、刻目などがはっきりしないものは不明とし、不明とされた資料は最終的に型式、層序別データーから削除して下記のような結果を得た。

(1) 兼久式土器の主流をなす甕形、壺形土器の特徴は第47・48図が示すように A, B, C それぞれの突帯文別出土数で示している。その結果、1条の横貼付突帯文が141点、88%、縦突帯文6点4%、縦横突帯文13点8%になる。Aエの横貼付突帯文、刻目ありが圧倒的主流を占めていることがわかる。

(2) 兼久式土器の大半を占める A 横貼付突帯文に刻目の有無を対象とする資料は141点から分類を行った。その結果、第49・50図の出土数と出土パーセントは刻目有り128点90%、刻目無し13点10%を示している。横位貼付突帯文はその93%が刻目を有する結果でこれも兼久式土器の特徴を示しているといえる。

A, C にある全体（刻目有り、無しを含める）の突帯文+沈線の組み合わせについては第51・52図が示すように沈線あり62点39%、沈線無し98点61%を示している。このことからマツノト遺跡出土の兼久式土器については貼付突帯文土器+沈線文を有さないものが多く、貼付突帯文+沈線を有するものは39%と少なることがわかる。

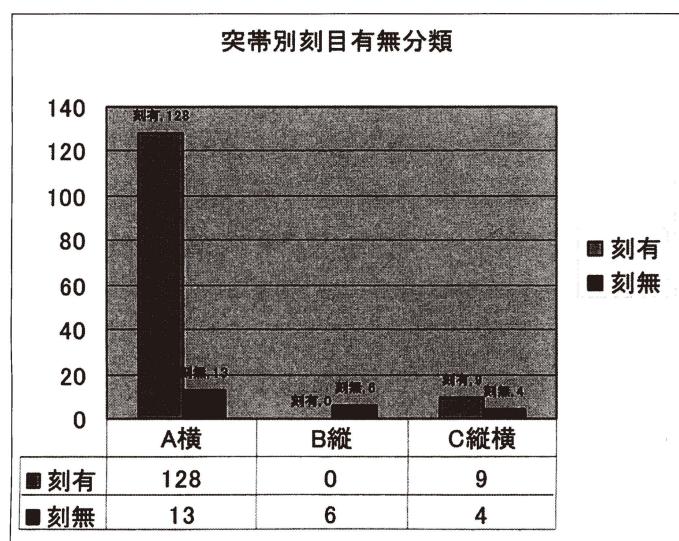
(3) 刻目突帯文+沈線の有無については沈線無し74点58%、有り54点42%である。沈線文無しは白砂層下、白砂層から4点出土している。沈線文ありは貼付突帯文の上に施されているのが33点を数え、白砂層下、白砂層から2点出土している。突帯文下に施されているのはわずか2点である。突帯文の上下に施されているのは19点を数える。ここでも刻目突帯文に沈線を有さない特徴を現している。

AC の全体でも刻目突帯文+沈線は59点43%、刻目突帯文だけで沈線を有さないものは78点57%を示していることがわかる（第53・54・55図）。

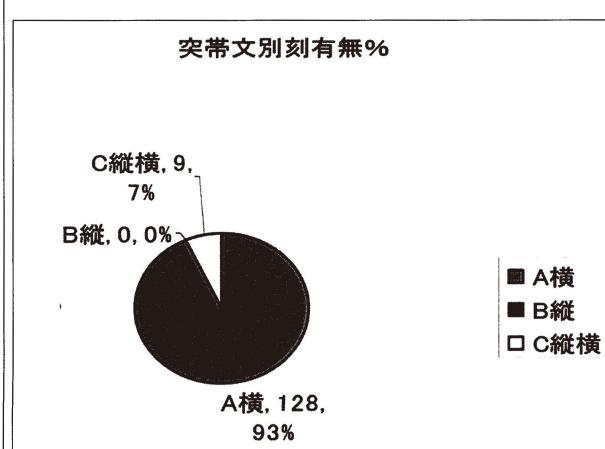
層位的には A 横位刻目突帯の上に沈線を有するもの、横位刻目だけで沈線を有しないもの、縦横刻目、斜突帯刻目の4タイプが白砂層下、白砂層から出土しており、第1文化層から壺形土器が加わっていることがわかる。

C 無文土器は前述したように113点を数え1, 2, 3類全体の中でも20%を占有している。ここで取り扱う資料は口縁部の形態を明らかに示している資料106点について分類を行った。

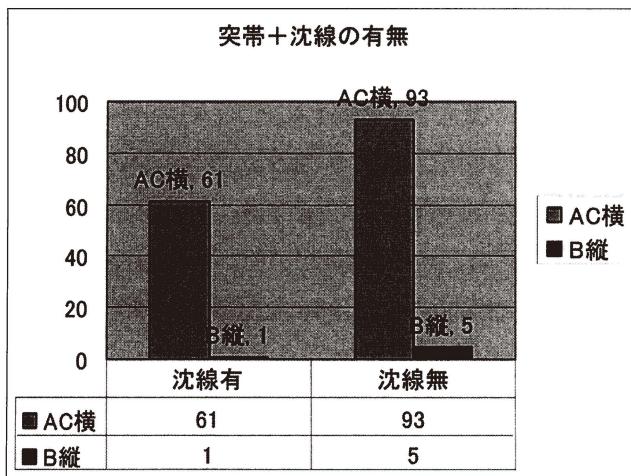
無文土器は甕と壺に分類され、甕68点、65%、壺38点35%の割合を示す。口縁部の形状は外反64点、62%、直口36点、35%、内径3点、3%に分類される。層位別には第1文化層、第1文化層上が104点、白砂層から



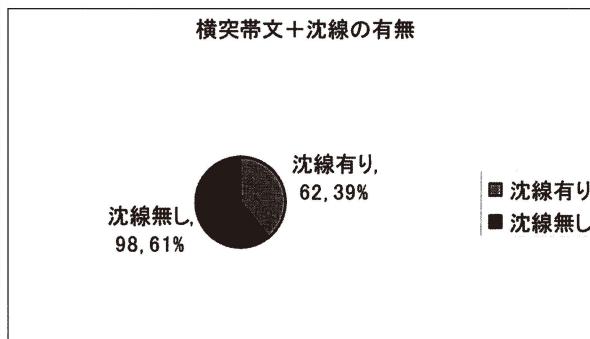
第49図 突帯刻目有無分類



第50図 突帯刻目有無分類パーセント



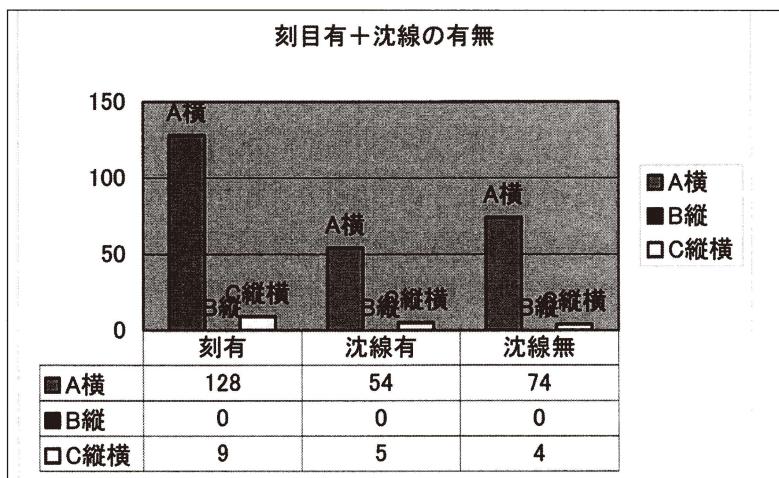
第51図 突堤 + 沈線の有無



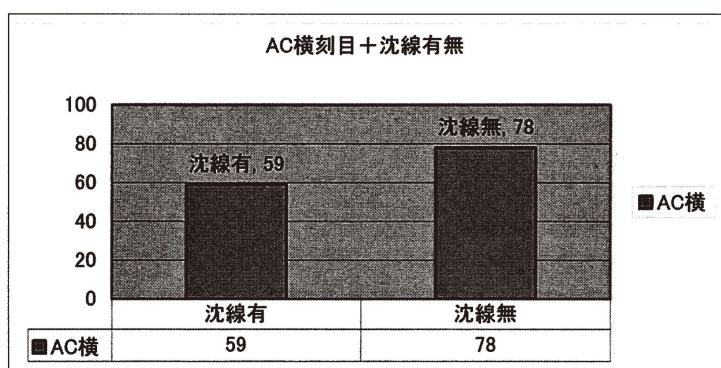
第52図 突帶+沈線の有無パーセント

甕形土器 2 点、壺形土器 1 点の計 3 点の出土である。

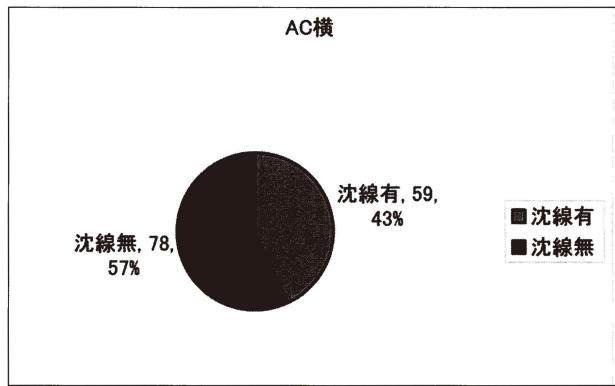
無文土器の底部については口縁部から底部まで復元された資料がある。口縁部はやや外反し、底部は平底をなしている。小形土器であるが形状は兼久式土器から貼付突帯文を外した器形で、白砂層からの出土である。底部による観察は兼久式土器同様に平底、くびれ平底、丸みを帯びた底の3タイプと同様である。着眼されるのは白砂層から平底甕と無文壺形土器が出土していることである。無文土器は兼久式土器の古い段階から伴っていることがわかる。



第53図 刻目有 + 沈線の有無



第54図 Ac 横刻目 + 沈線有無



第55図 Ac 横刻目 + 沈線の有無パーセント

これまでの文様によるデーターから（第23表兼久式土器文様型式分類、出土層位表）マツノト遺跡における土器型式の主流は刻目突帯文を有する土器であり、次に刻目突帯文土器に沈線を有する土器、刻目のない突帯文土器、無文土器が1類土器の中に含まれる。これらと共に伴する土器は外耳・弧状突帯文土器、沈線文土器、外来土器などがある。外耳・弧状突帯文土器はサウチ遺跡で弥生時代後期相当の土器と一緒に出土しており、この時期から登場している。沈線文土器については弥生土器の特徴を示す弧状沈線文から直線沈線文の系統があり、弥生土器の特徴をもつ要素が中村分類においてみることができる。以上のことから器面に沈線文のみの文様構成は弥生土器に共通する古い系統の要素を示し、外耳・弧状突帯文を主体とする土器は弥生土器の新しい要素を示すことになる。

以上のことからマツノト遺跡第1文化層から出土する土器は1、弥生系統の要素が残る沈線文土器系統、2、外耳・弧状突帯文系統、3、無文土器系統、4、貼付突帯文を有する系統の様式で構成されていることがわかる。

8. マツノト遺跡の兼久式土器型式分類結果

A. 特徴

マツノト遺跡出土の兼久式土器型式分類からは下記のような特徴を示していることがわかった。

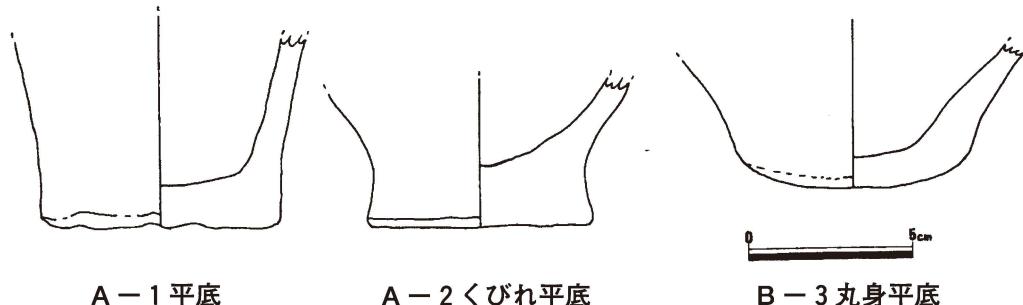
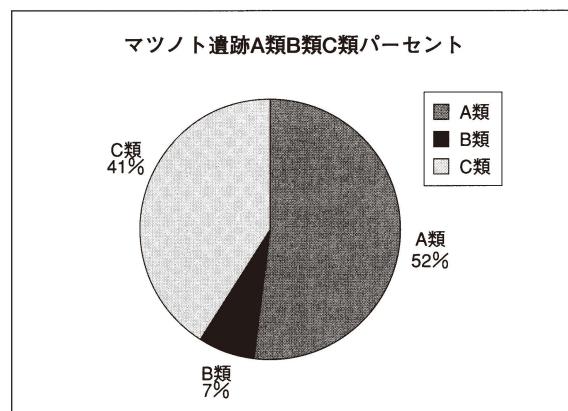
- 1、一条の貼付突帯文をめぐらす特徴は91%を示している。
- 2、1の一条貼付突帯文は90%が刻目を有している。
- 3、全体（刻目有り、無しを含める）の突帯文と沈線の組み合わせについては沈線あり65点41%、沈線無し94点59%を示し、沈線無しが多い。
- 4、刻目突帯文を有する土器でも刻目突帯文+沈線は59点43%、刻目突帯文だけで沈線を有さないものは78点57%を示しており、3と同様に沈線を有さないものが多いことがわかる（第15表マツノト遺跡出土土器層位別分析表）。
- 5、層位的には兼久式土器を示す土器の大半が圧倒的に第1文化層に集中し一括資料を示していることがわかる。
- 6、甕形土器と壺形土器の比率は甕形75%、壺形25%で甕形が多くを占めている。
- 7、無文土器も1, 2, 3類全体の20%を占めており、兼久式土器と共に伴関係を示している。
- 8、無文土器以外にも沈線文土器、外耳土器、弧状突帯文土器など2類に含めた土器も第25表口縁部1, 2, 3類層位別分類表が示すように第1文化層からの出土がある。
- 9、底部の特徴は基本的に平底、くびれ平底、丸身平底をなす3タイプに分類される。

第15表 マツノト遺跡出土土器層位別分析表

突帯の種類	刻目有無	沈線の位置	記号	第1文化層上	第1文化層	白砂層上	白砂層	白砂層下	合計
A 横 突 帶	工 刻 目 有 り	a. 沈線有上	A 工 a	1	30		1	1	33
		b. 沈線有下	A 工 b		2				2
		c. 沈線有上下	A 工 c		19				19
		d. 沈線なし	A 工 d	3	67		3	1	74
	才 刻 目 な し	a. 沈線有上	A 才 a		1				1
		b. 沈線有下	A 才 b						
		c. 沈線有上下	A 才 c		1				1
		d. 沈線なし	A 才 d		11				11
B 縦 横 斜 突 帶	工 刻 目 有 り	a. 沈線有上	B 工 a		2	2			3
		b. 沈線有下	B 工 b		2				2
		c. 沈線有上下	B 工 c						
		d. 沈線なし	B 工 d		1	3			4
	才 刻 目 な し	a. 沈線有上	B 才 a						
		b. 沈線有下	B 才 b						
		c. 沈線有上下	B 才 c						0
		d. 沈線なし	B 才 d	1	4				5
C 無 文 土 器	1 直 口		C 1		39			1	40
	2 外 反		C 2		64		2	1	67
	3 内 径		C 3		4				4
合 計				5	247		10	4	266

A 類	141
B 類	19
C 類	111.6

A 工	128
A 才	13
B 工	9
B 才	10
C 1	40
C 2	67
C 3	4



第56図 底部分類タイプ

10、底部は胎土分類から砂質は平底、くびれ平底の甕形土器を示し、丸身平底は壺形土器を示すパーセントが圧倒的である。

以上の特徴から型式分類は層位的時間差をあらわす資料が少なく層位的検証で A 類横突帶、B 類縦横斜突帶、

C類無文土器においてそれぞれの層位出土表第25表のような結果を出している。A類は横突帯刻目有沈線上(Aエa)と横突帯刻目有沈線無(Aエd)が白砂層下から出土していることがわかる。B類は縦横突帯刻目有沈線上(Bエa)と縦横斜突帯刻目有沈線無(Bエa)が白砂層から始まっている。C無文土器等が白砂層下、白砂層から出土しており、全体的にわずかであるが兼久式土器の時間差を示している。

一括遺物として型式組列を行いA類とB類の2系統が同様に並行し共存していることになる。これは刻目のある突帯文に沈線が上にあるものとないものが同様に並行している。型式設定、形式組列の編成と並行関係の検証という手続きのなかで試みた結果である。

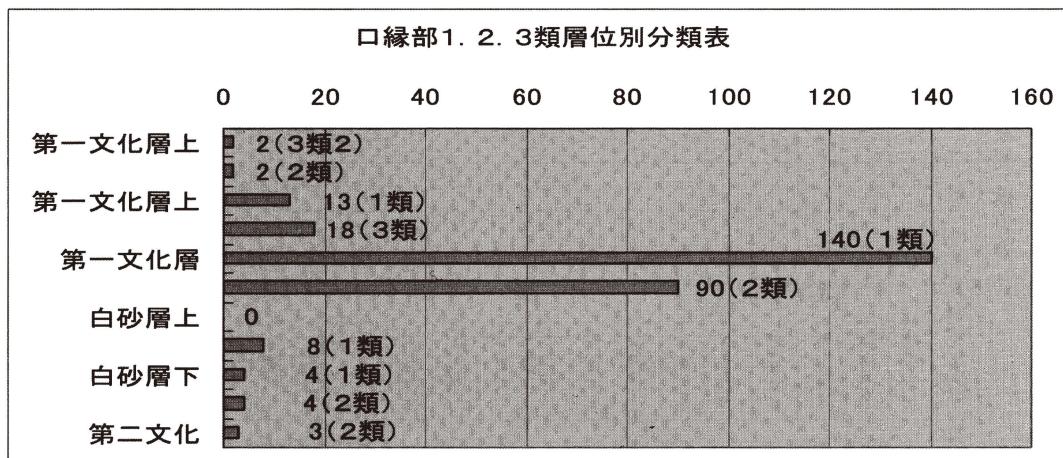
マツノト遺跡の土器は型式概念ではっきり編年を示すことが出来ないが、単独遺跡から2系統の組列をあて他遺跡から出土する兼久式タイプ(マツノトABC)との対比によってその編年が可能と考えられる。

さらに、これらの特徴を様式概念から捉えるとA類、B類、C類ともセット関係で捉えることができる。それは前述したA類、B類、C類の特徴に現れており、突帯文を有する土器と無文土器の形態的特徴は共通している。A類B類は第1文化層において同じ様式にあてはまることがわかる。

B、型式組列

型式分類を行うにあたりマツノト遺跡出土土器全体の層位を示すデーターを第57、58図底部1、2、3類層位別表に示した。これは先に示した大枠分類1～3類までの層位関係を確認するためでもある。表には1類土器の兼久式土器を挟んで上層に移入土器を含めた3類土器、下層に兼久式土器に入らない土器が兼久式土器を挟んでおり新旧関係がわかる。

今回第50図マツノト遺跡出土兼久式土器層位による型式組列に示した結果は型式概念でなく、型式組列と様式概念で提示した。その結果層位的検証も含めて古、中、新に分けることも可能である。古、中・新は層位的にも時間差を示す傾向にあるが中、新においては白砂層からの系統と第1文化層から始まる土器で分けられよう。その結果は第15表をもとに第50図を作成して兼久様式の型式組列を示すに止める。



第57図 口縁部1, 2, 3層位別分類表

9. 分類における時間差

様式の甕と壺の層位関係を示すのは第5表に示した。甕と壺の割合は前述したとおり甕75%。壺25%であり各層位にも示されている。壺は白砂層からの出土がわずかに見られるがそのほとんどは第1文化層から始まっていることが示されている。

最終的な基本型式分類の基準は兼久式土器の特徴をよく示す1、貼付突帯文の有無と種類、2、突帯文の刻

目の有無、3、沈線の有無と位置によるものである。物の持っている性質は兼久式土器分類基準で6枠を設けてその性質的特徴を示してきた。その中において型式と組列を行うにあたり上記の3つを選択して資料操作を行ったのは作業過程を進めてきた結果であり、兼久式土器の特徴を最も示すものとして選んだ（第6表A）。前述したように沈線の特徴まで示すことができたらこの組列をさらに補強できるものと思われる。

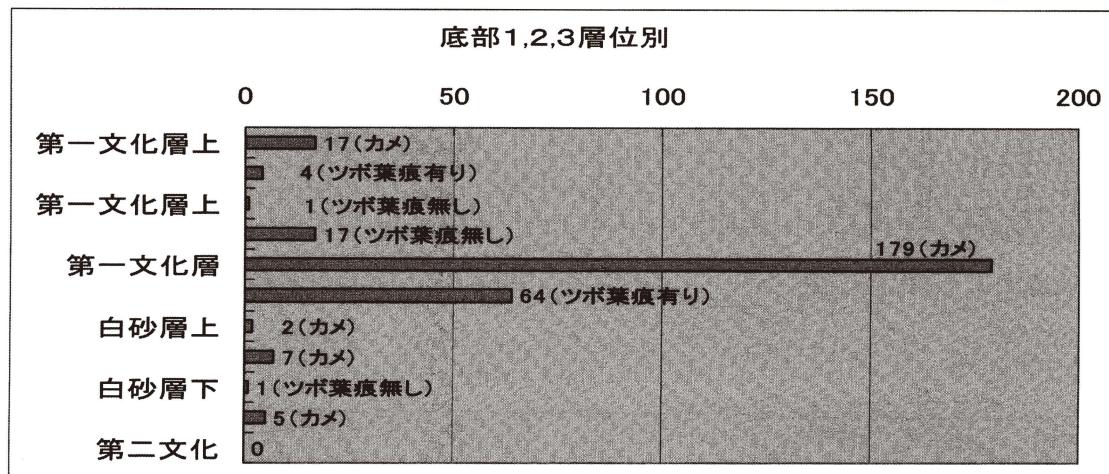
以上マツノト遺跡における兼久式土器の主流はAエd（横貼付突帯文に刻目を有する）土器で次にAエa（刻目横貼付突帯文上に沈線文を有する）が続き、無文土器が加わっていることが判明した。

第16表 兼久式土器文様型式分類、出土層位表

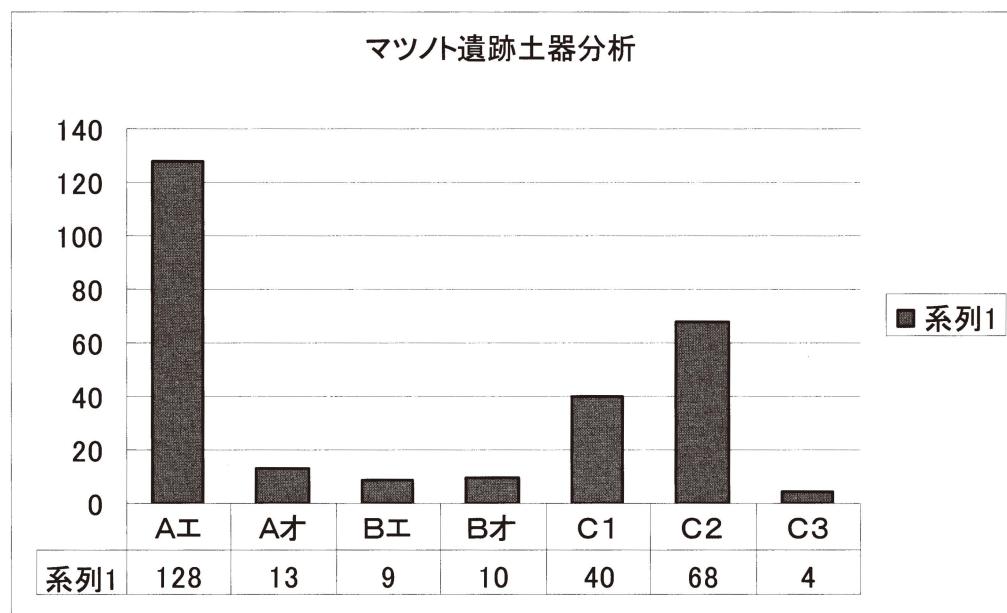
土 器	突 带	刻 目	沈 線 の 位 置	記 号	第 1 文 下 层			第 1 文 下 层			白 砂 层			白 砂 层 下					
					Aエa	1	Aエb	Aエc	2	Aエd	67	Aオa	3	Aオb	1	Aオc	11	Aオd	2
A 横突帶	工 刻 目 有り	a 沈線有上	Aエa	1															
		b 沈線有下	Aエb																
		c 沈線有上下	Aエc																
		d 沈線無	Aエd	3															
	才 刻 目 無	a 沈線有上	Aオa																
		b 沈線有下	Aオb																
		c 沈線有上下	Aオc																
		d 沈線無	Aオd																
B 橫 橫 斜 突 帶	工 刻 目 有り	a 沈線有上	Bエa																
		b 沈線有下	Bエb																
		c 沈線有上下	Bエc																
		d 沈線無	Bエd																
	才 刻 目 無	a 沈線有上	Bオa																
		b 沈線有下	Bオb																
		c 沈線有上下	Bオc																
		d 沈線無	Bオd	1															
C 無 文	C 1 直口																1		
	C 2 外反																1		
	C 3 内径																4		

第一文下層	区5出土	区8出土	8区37出土	4区81出土	E区8出土	3区44出土	区18出土	4区28出土	5区7出土土器	1区111出土	3区43出土	11区18出土	6区39出土	3区50出土	6区33出土	15・16区96出土		
	↑																	
白砂上層																		
	↑																	
白砂層																		
	8区42出土	↑																
白砂下層																		
	14区19出土	↑																
土器型式	a 沈線上	b 沈線下	c 沈線上下	d 沈線なし	a 沈線上	b 沈線下	c 沈線上下	d 沈線なし	a 沈線上	b 沈線下	c 沈線上下	d 沈線なし	a 沈線上	b 沈線下	c 沈線上下	d 沈線なし		
	エ刻目のある突帯文土器				オ刻目のない突帯文土器				エ刻目のある突帯文土器				オ刻目のない突帯文土器					
	C 1 直口 C 2 外反 C 3 内径																	
A 横突帯文土器								B 縦横斜突帯文土器								C 無文土器		

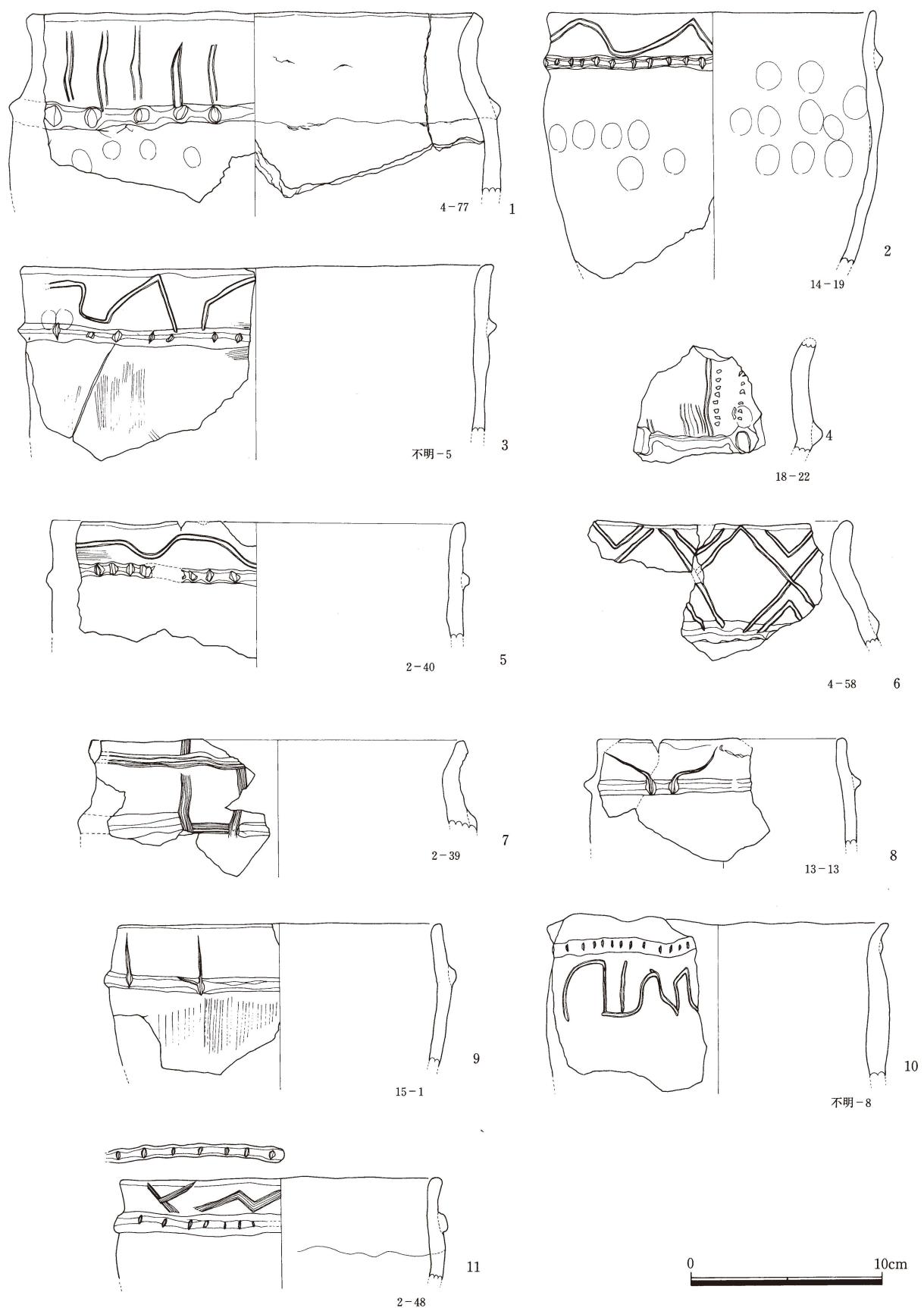
第59図 マツノト遺跡出土兼久式土器層位による型式組列
(■表示列はマツノト遺跡出土土器の主流をなす型式)



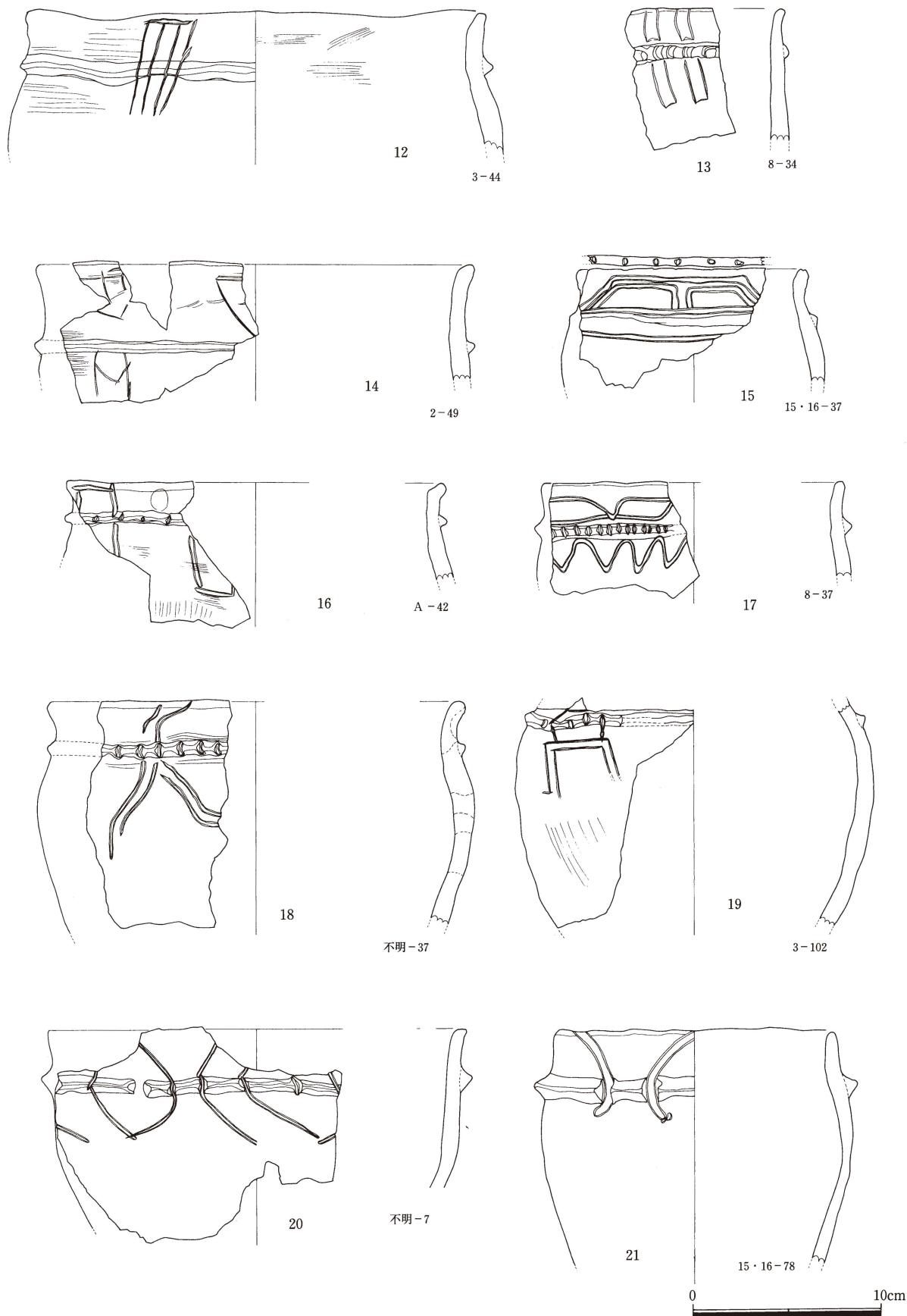
第58図 底部1, 2, 3層位別



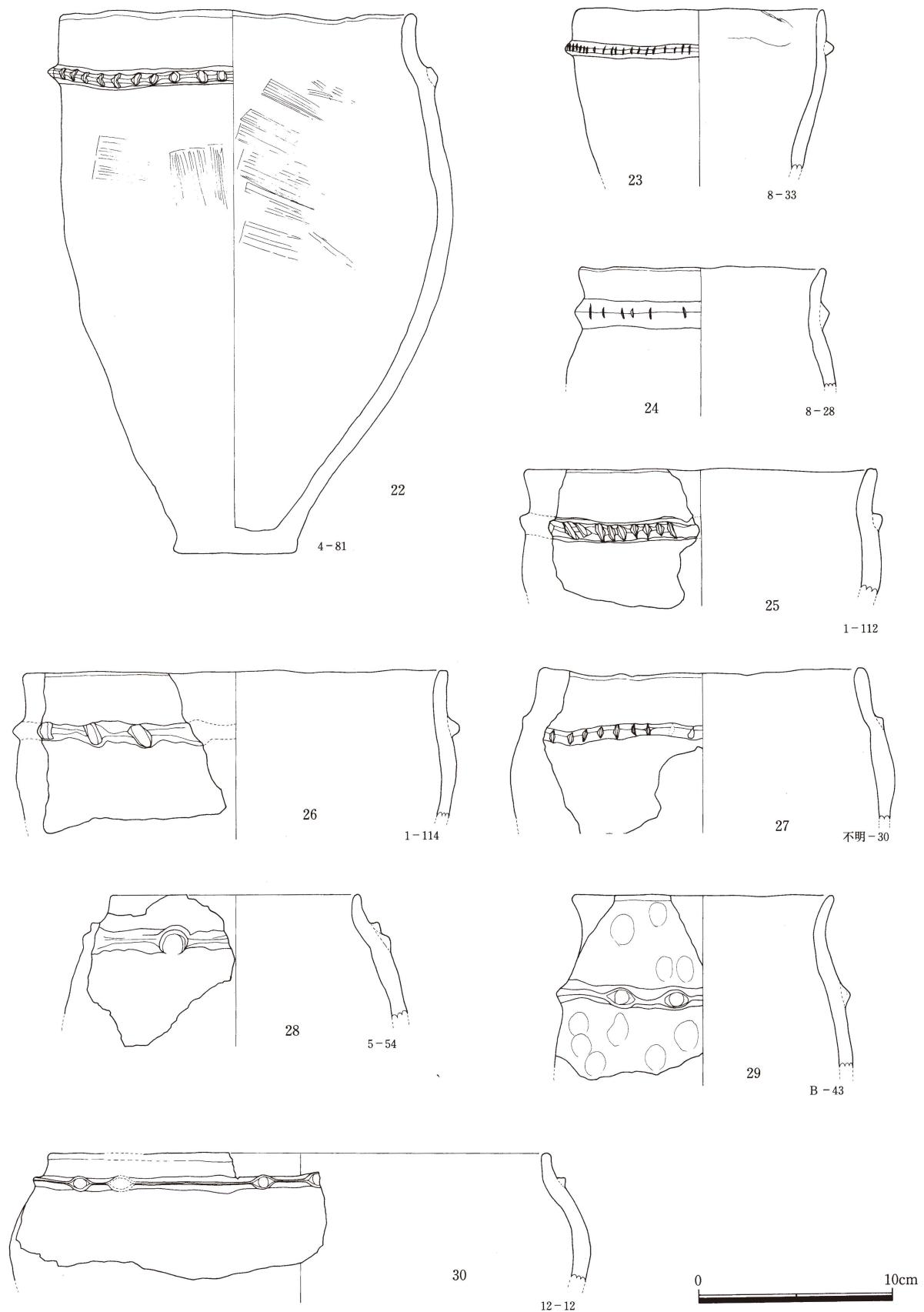
第60図 マツノト遺跡土器分析



第61図 1類土器 A工a 1~9、11 A工b10



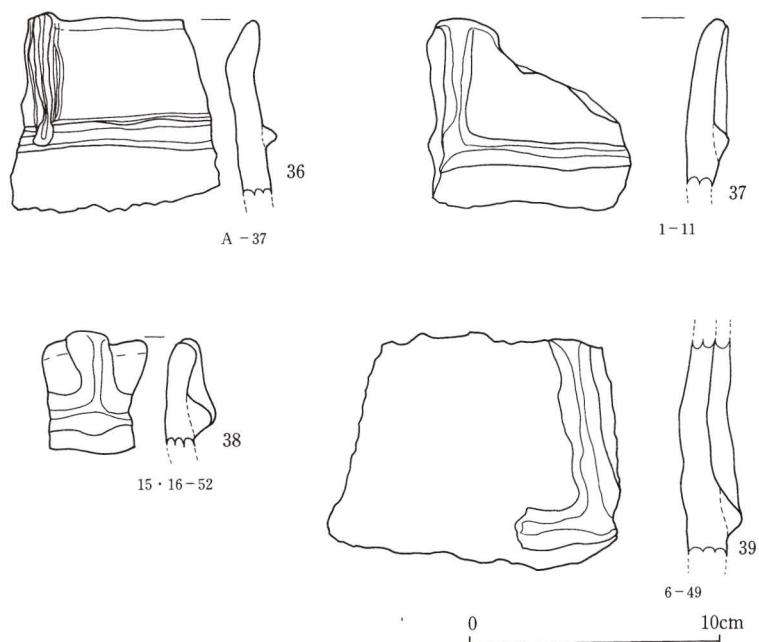
第62図 1類土器 A工 c12・13、16~21 A才 c14・15



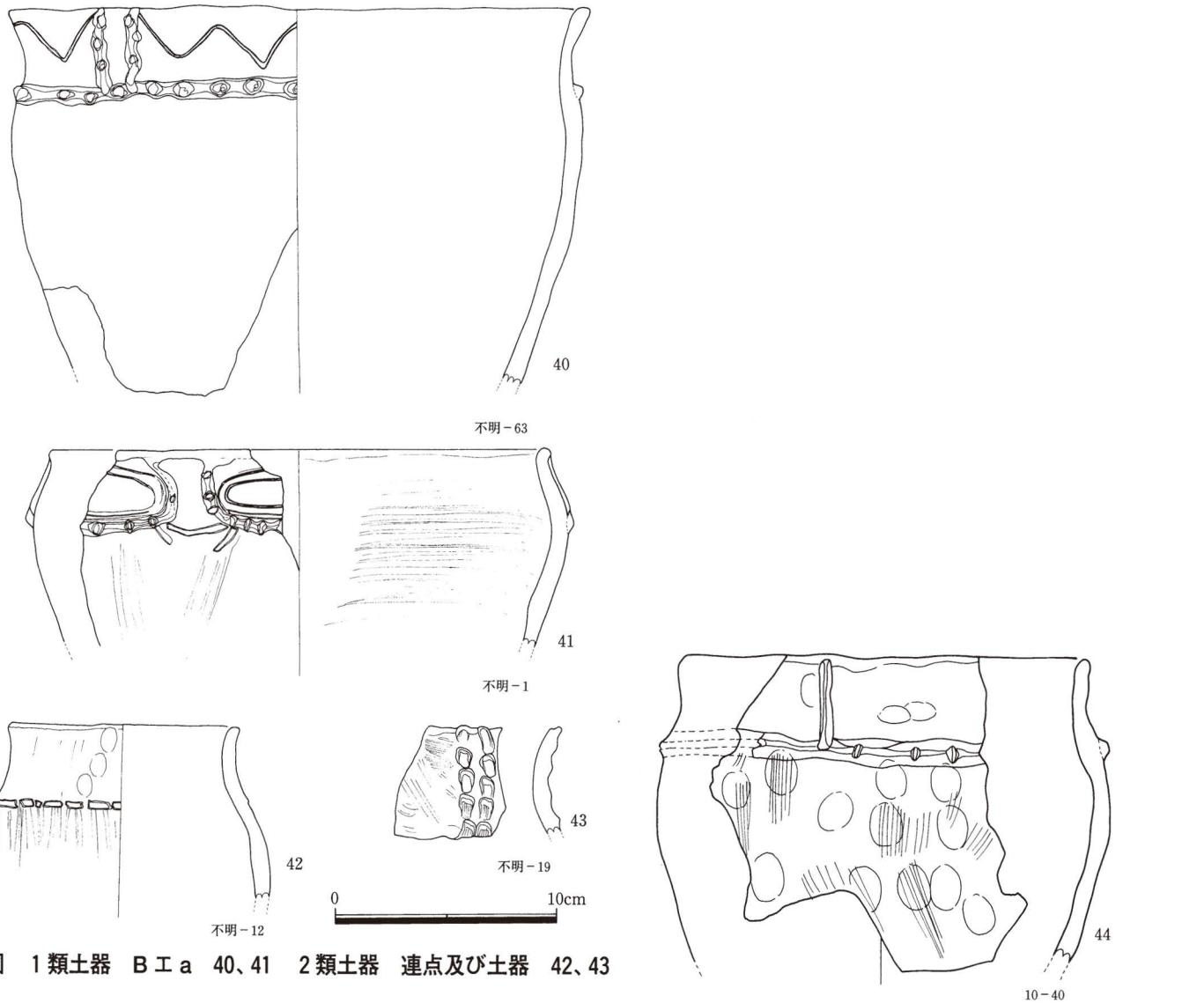
第63図 1類土器 A工d



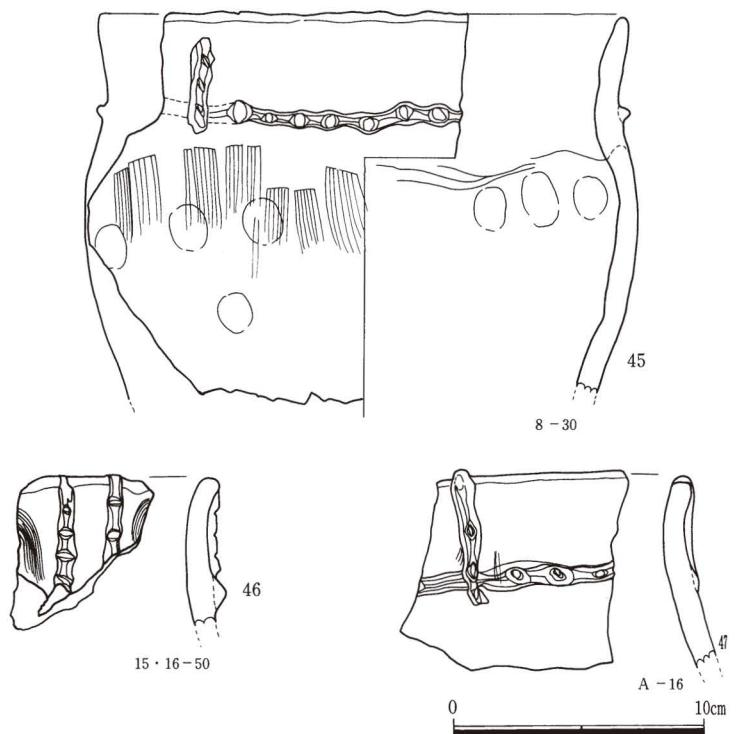
第64図 1類土器 A才d



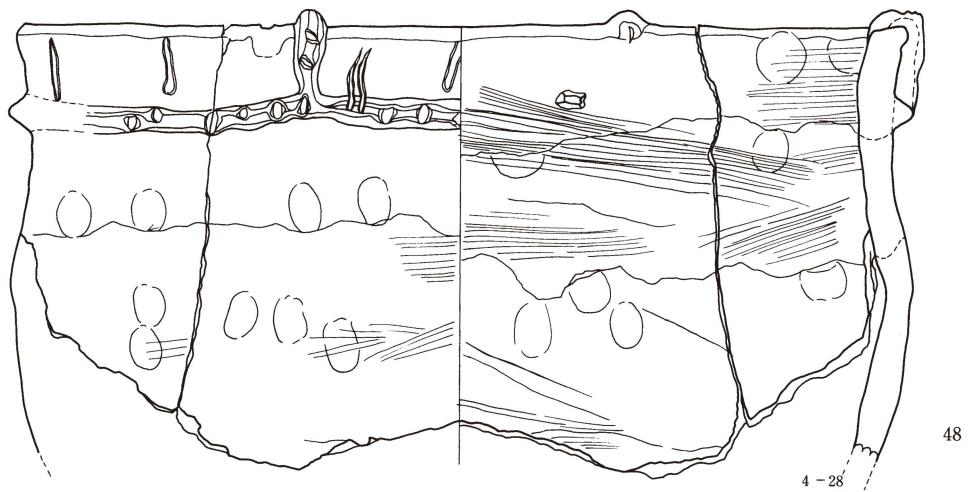
第65図 1類土器 B工d 35 B才d 36~39



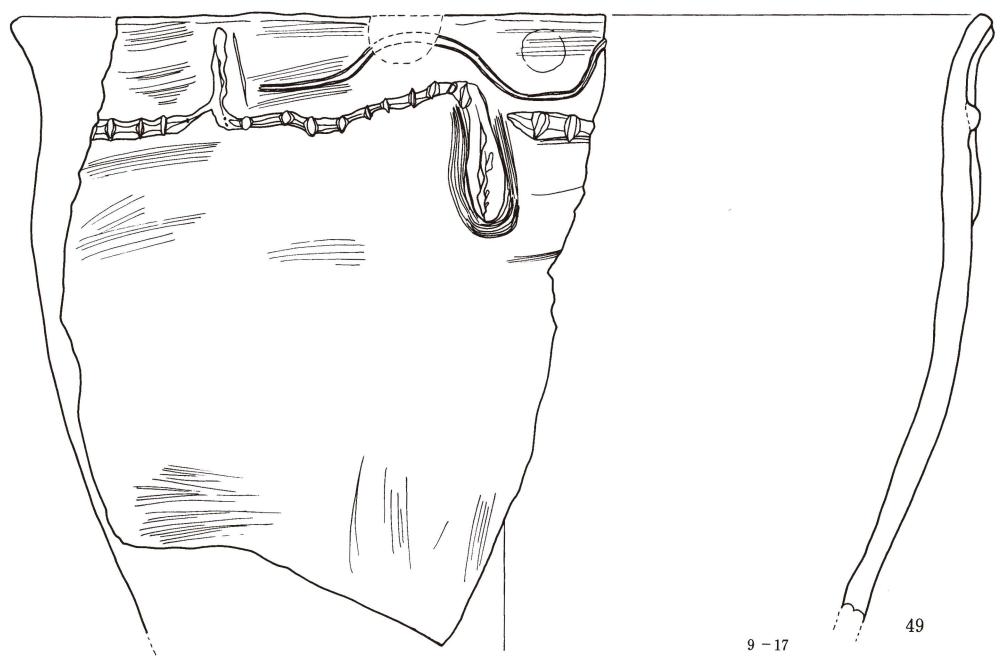
第66図 1類土器 B工a 40、41 2類土器 連点及び土器 42、43



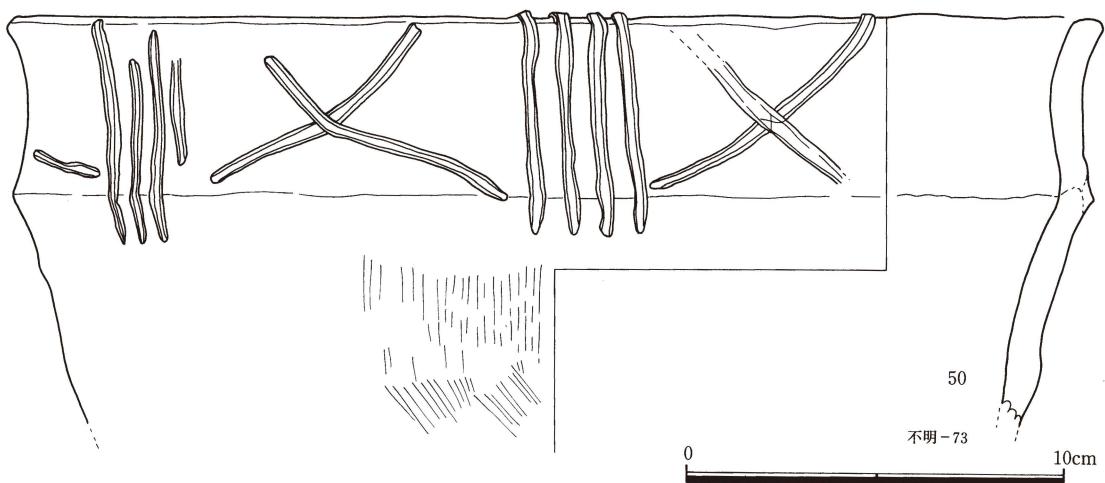
第67図 1類土器 B工d 44、45、47 スセン當タイプ土器 46



48



49

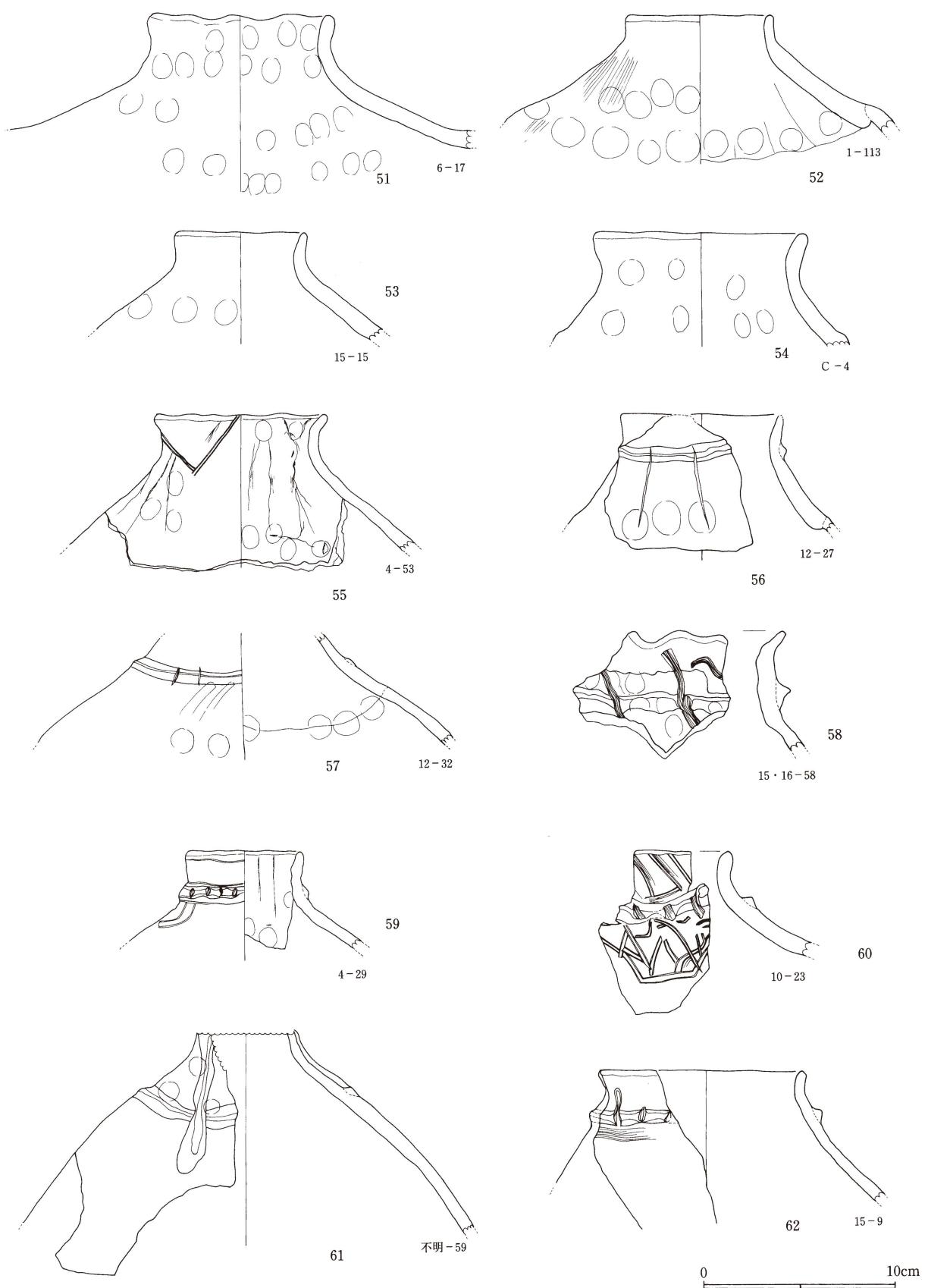


50

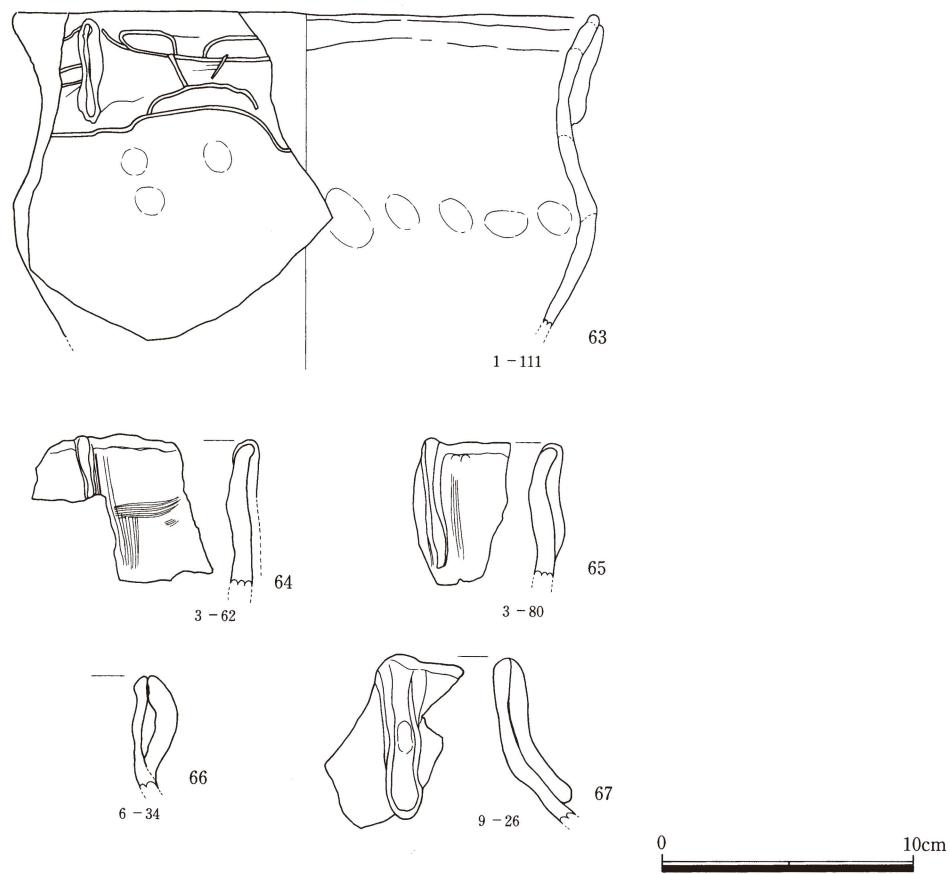
不明 - 73

10cm

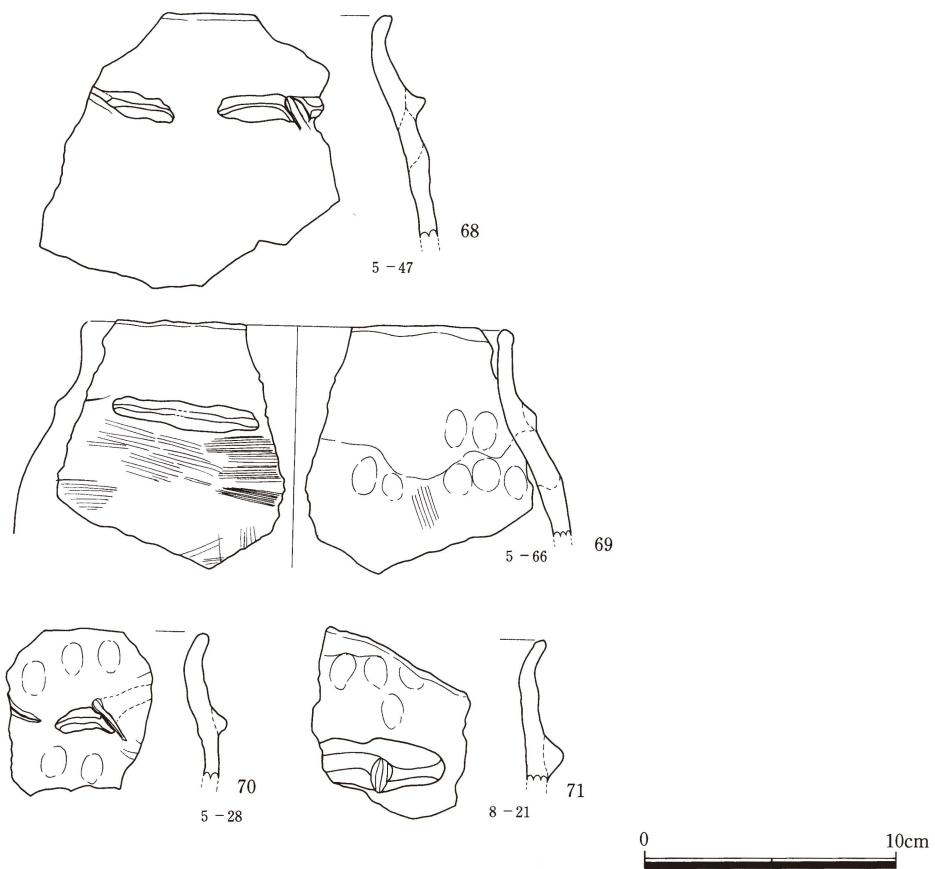
第68図 1類土器 B工a 48、49 センジョトウタイプ土器 50



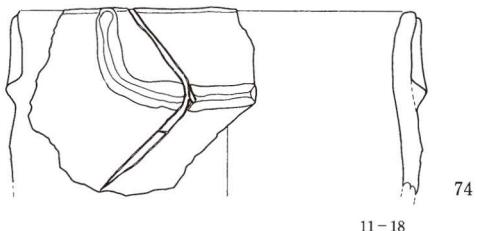
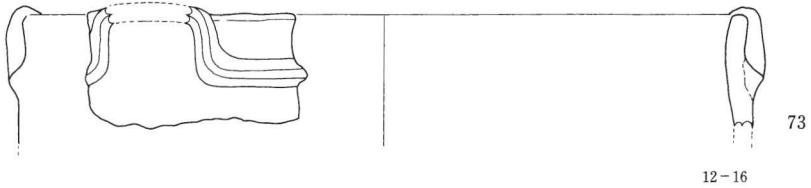
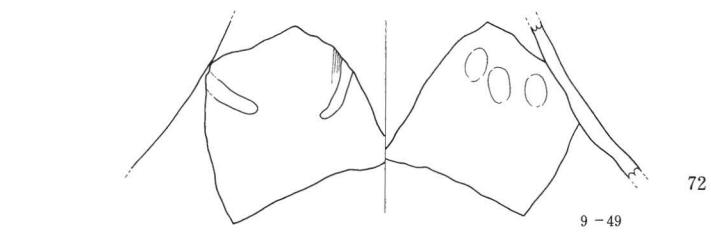
第69図 1類土器壺形土器



第70図 2類土器 直線貼付文土器①

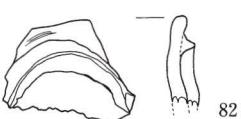
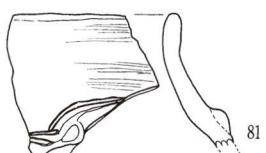
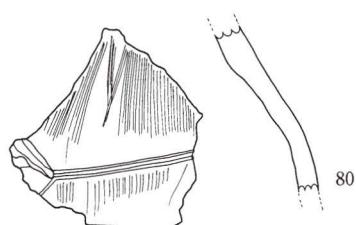
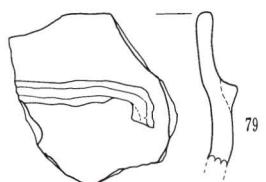
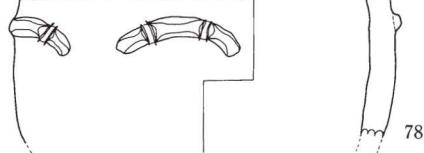
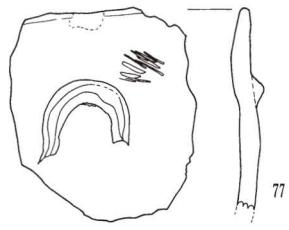
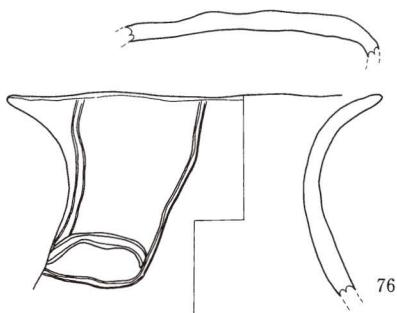
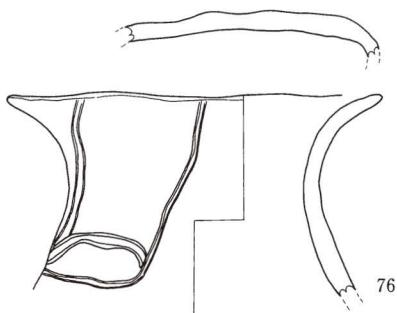


第70図 2類土器 直線貼付文土器②



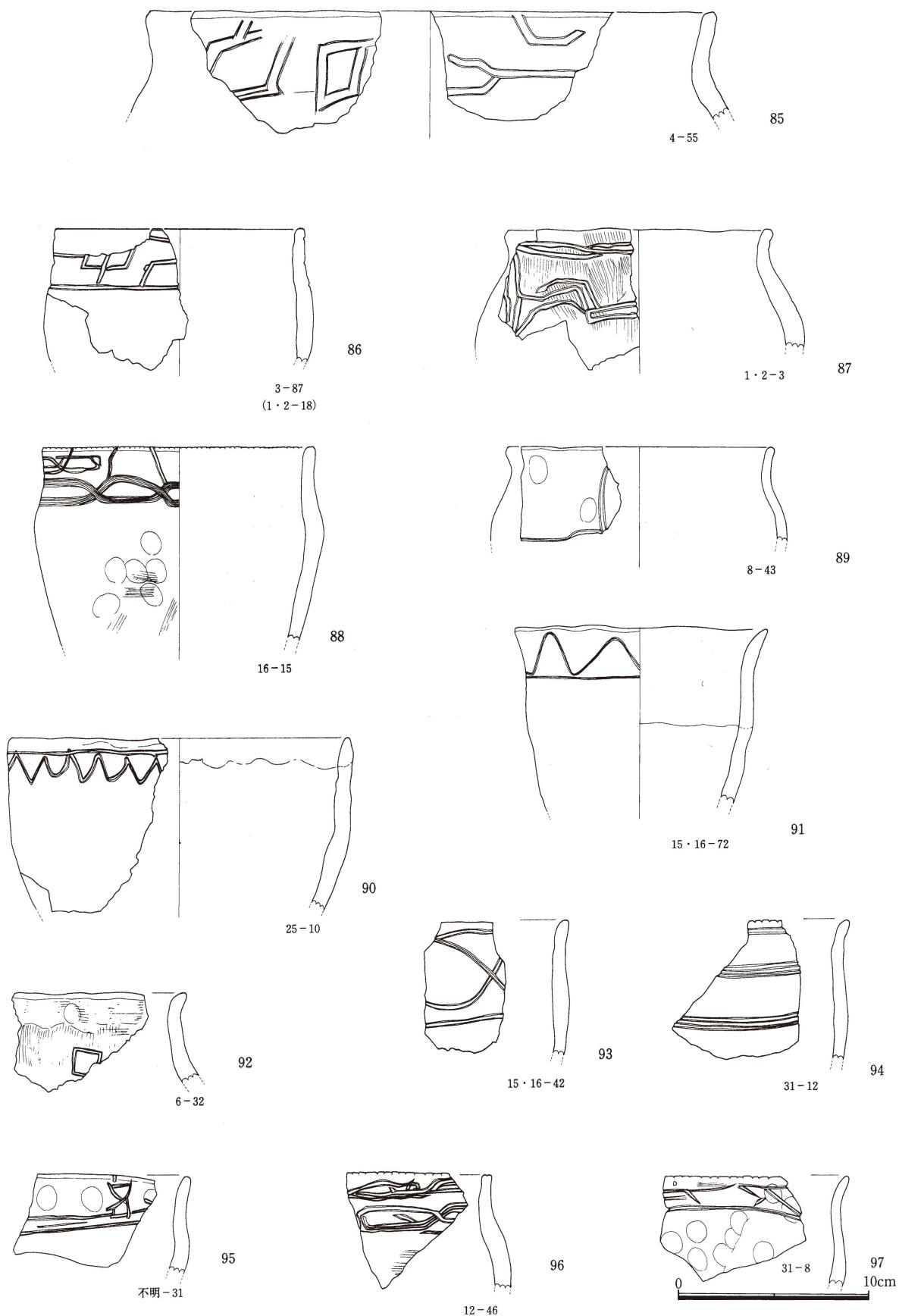
0 10cm

第71図 2類土器 曲線貼付文土器①



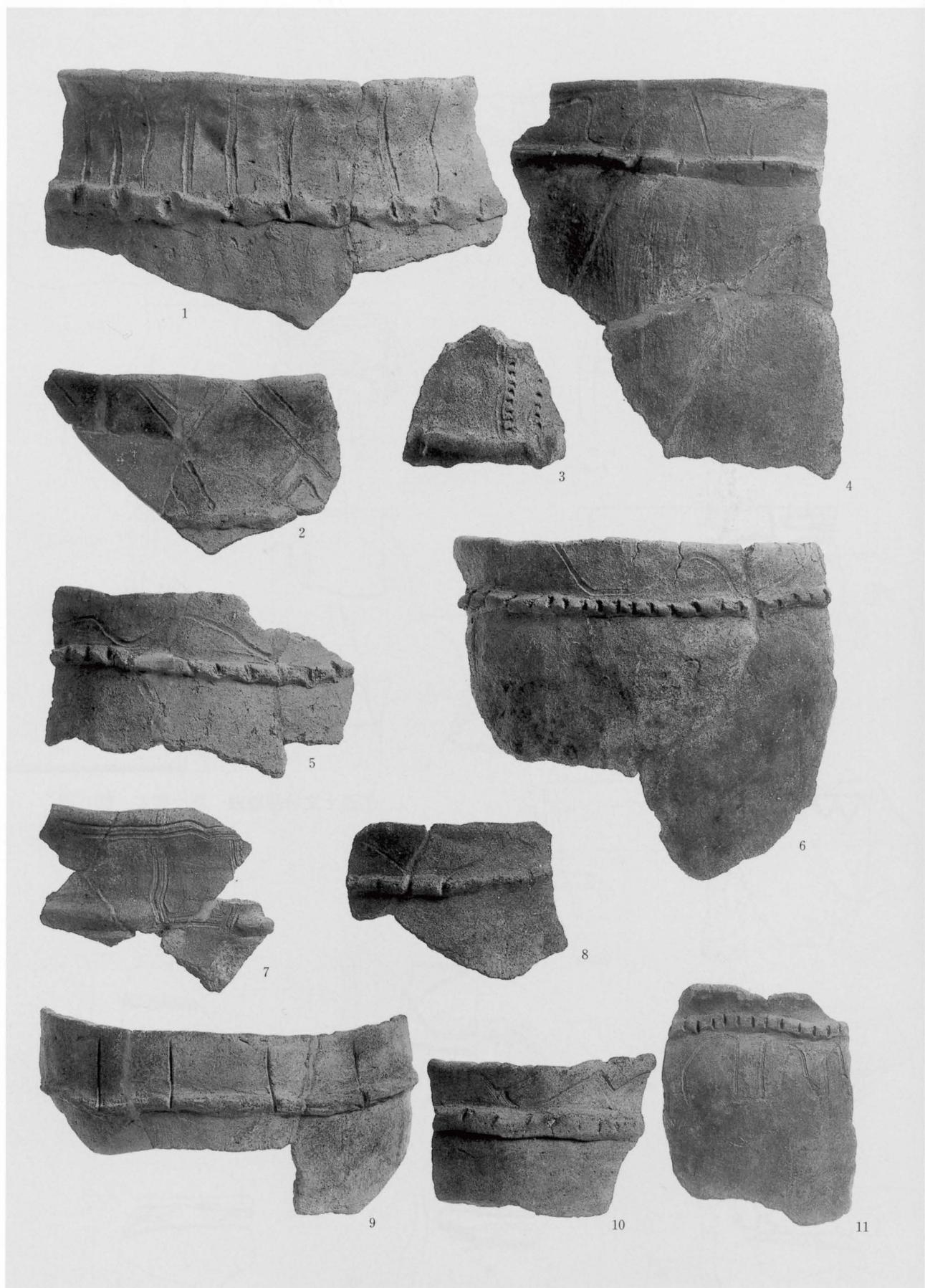
0 10cm

第71図 2類土器 沈線文土器76 曲線貼付文土器② 77~84



第72図 2類土器 沈線文土器

図版 1



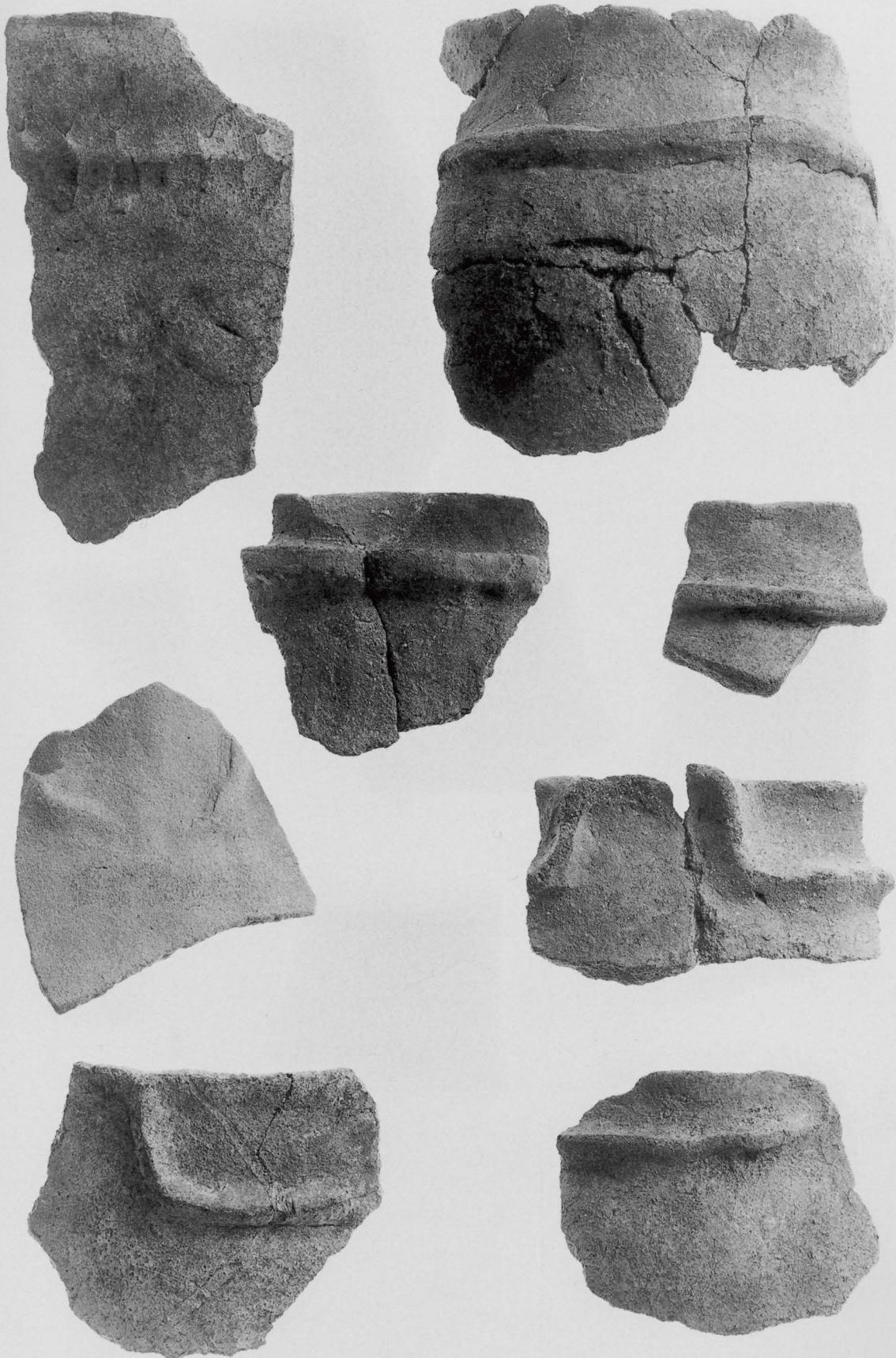
1類土器 (A工 a) 1~11、(A工 b) 11



1類土器 (A工d)

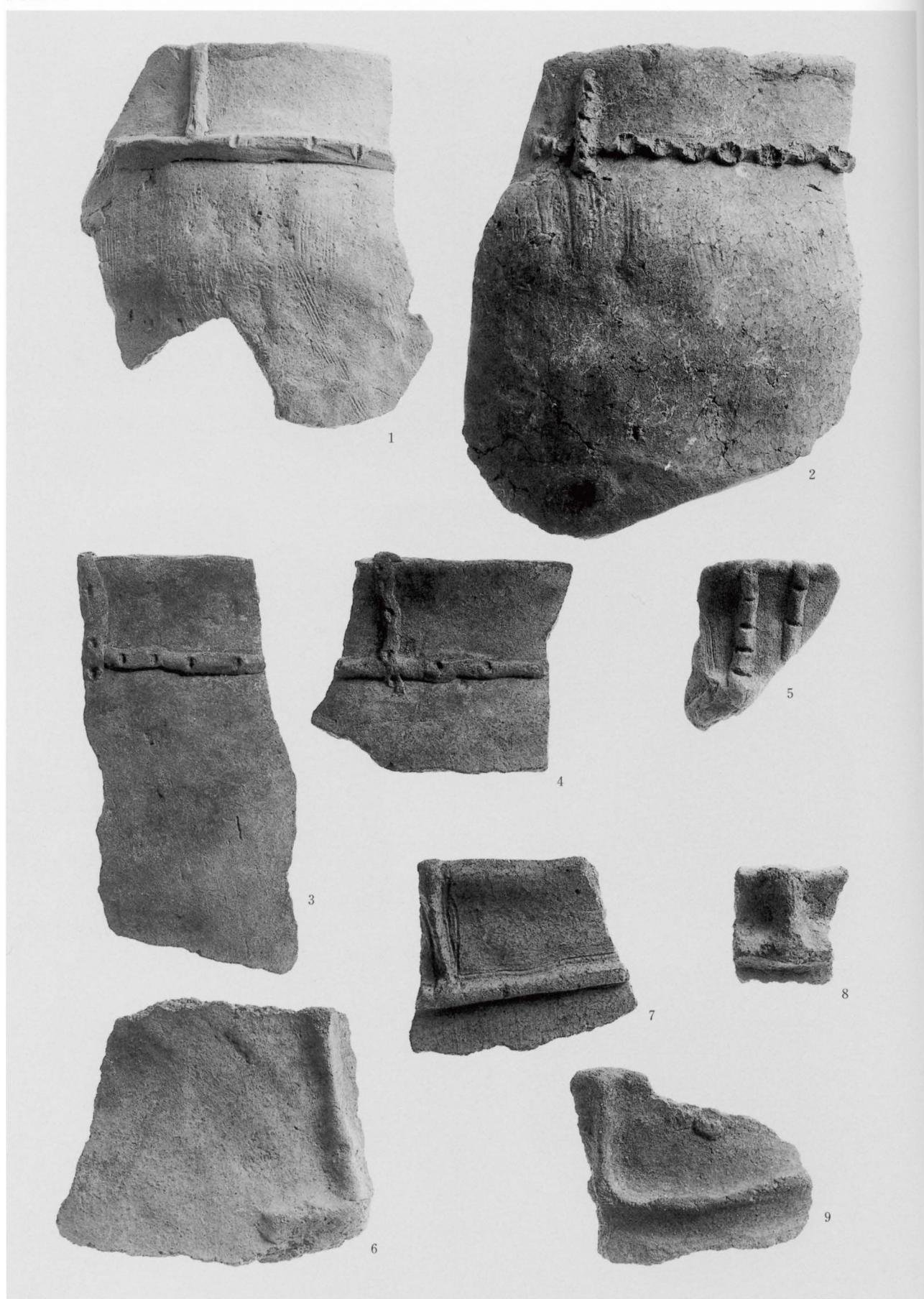


1類土器 (A工c)

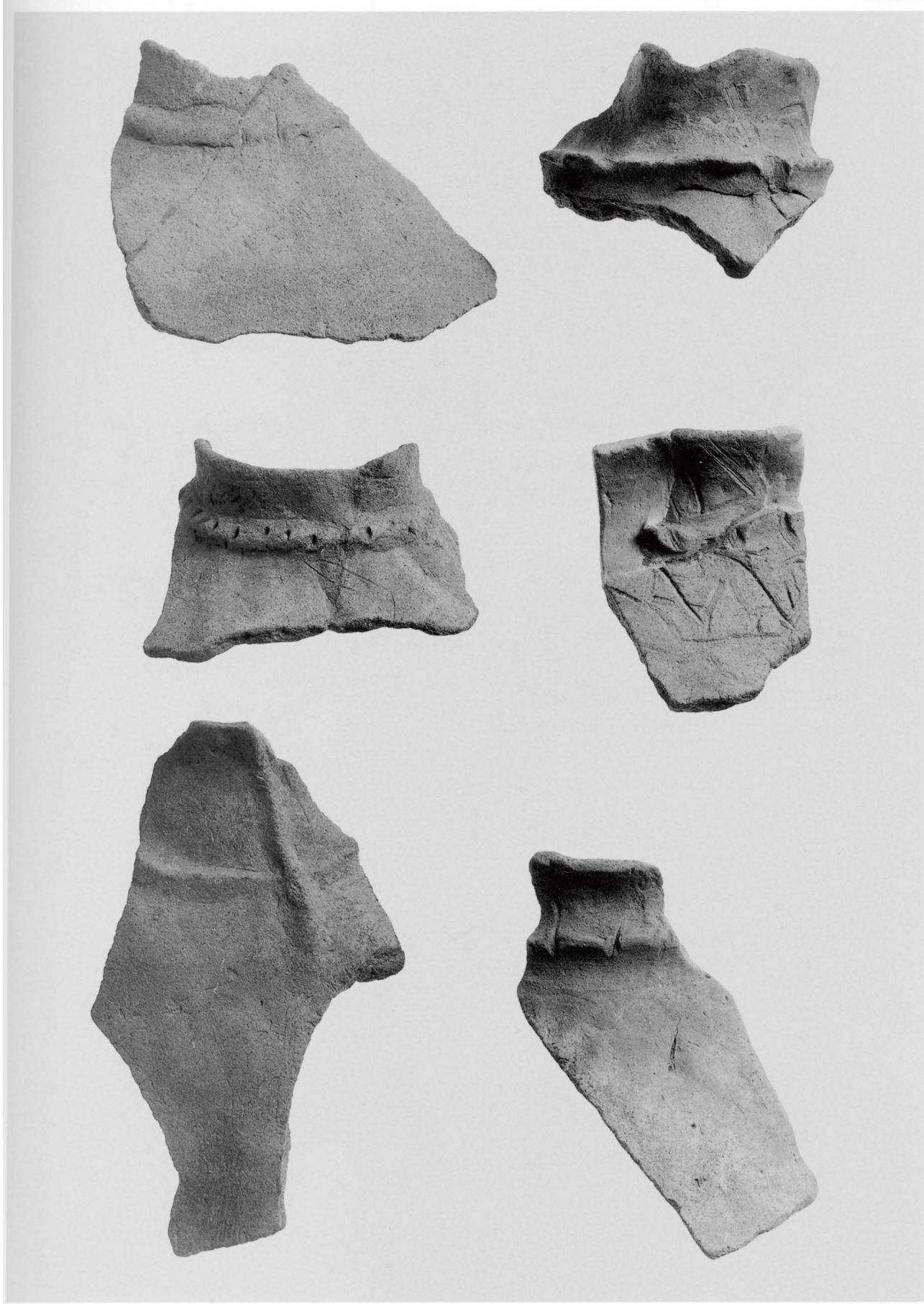


1 類土器 (A 才 d)

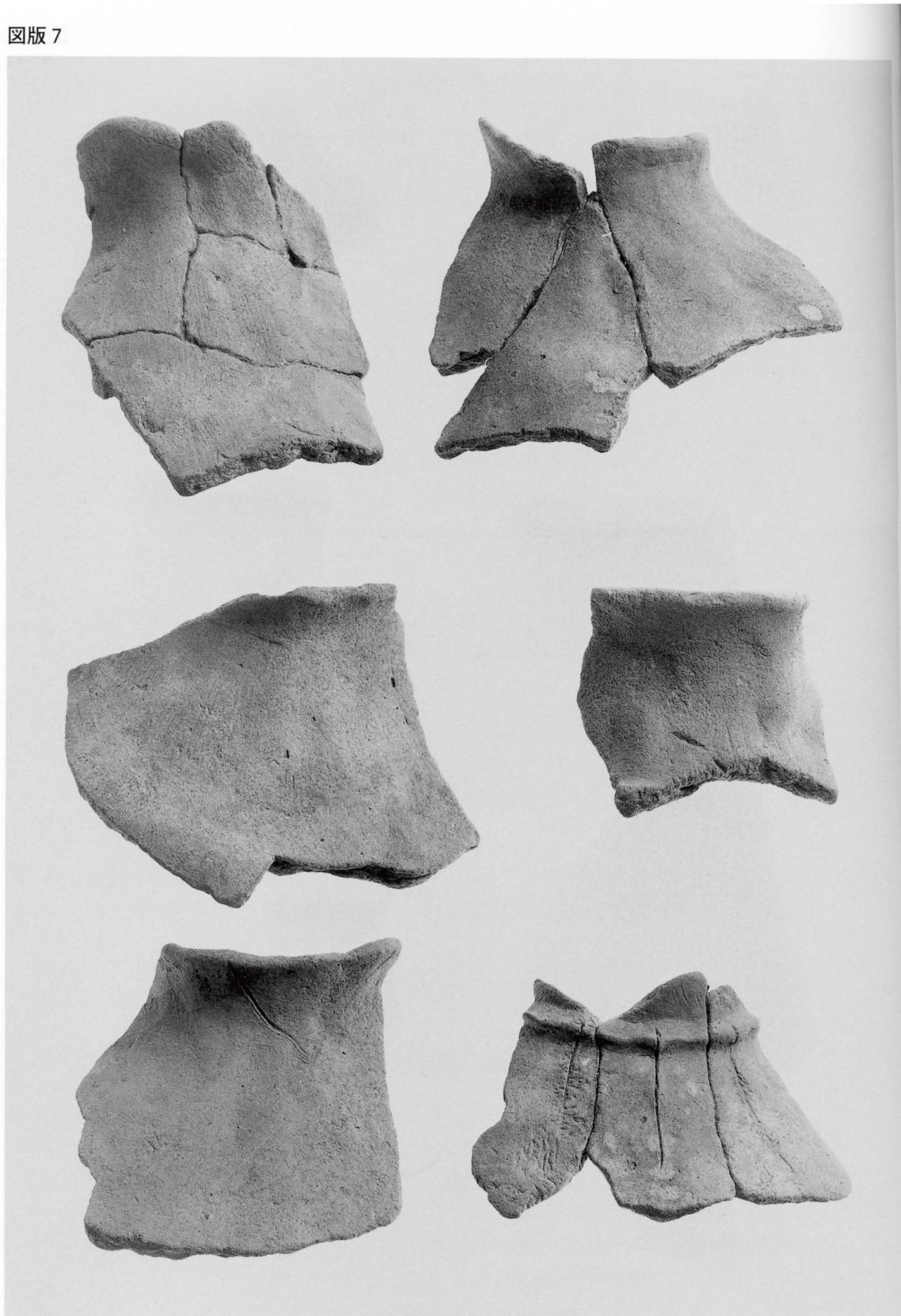
図版5



1類土器 (B工d) 1~5、(B才d) 6、8、9



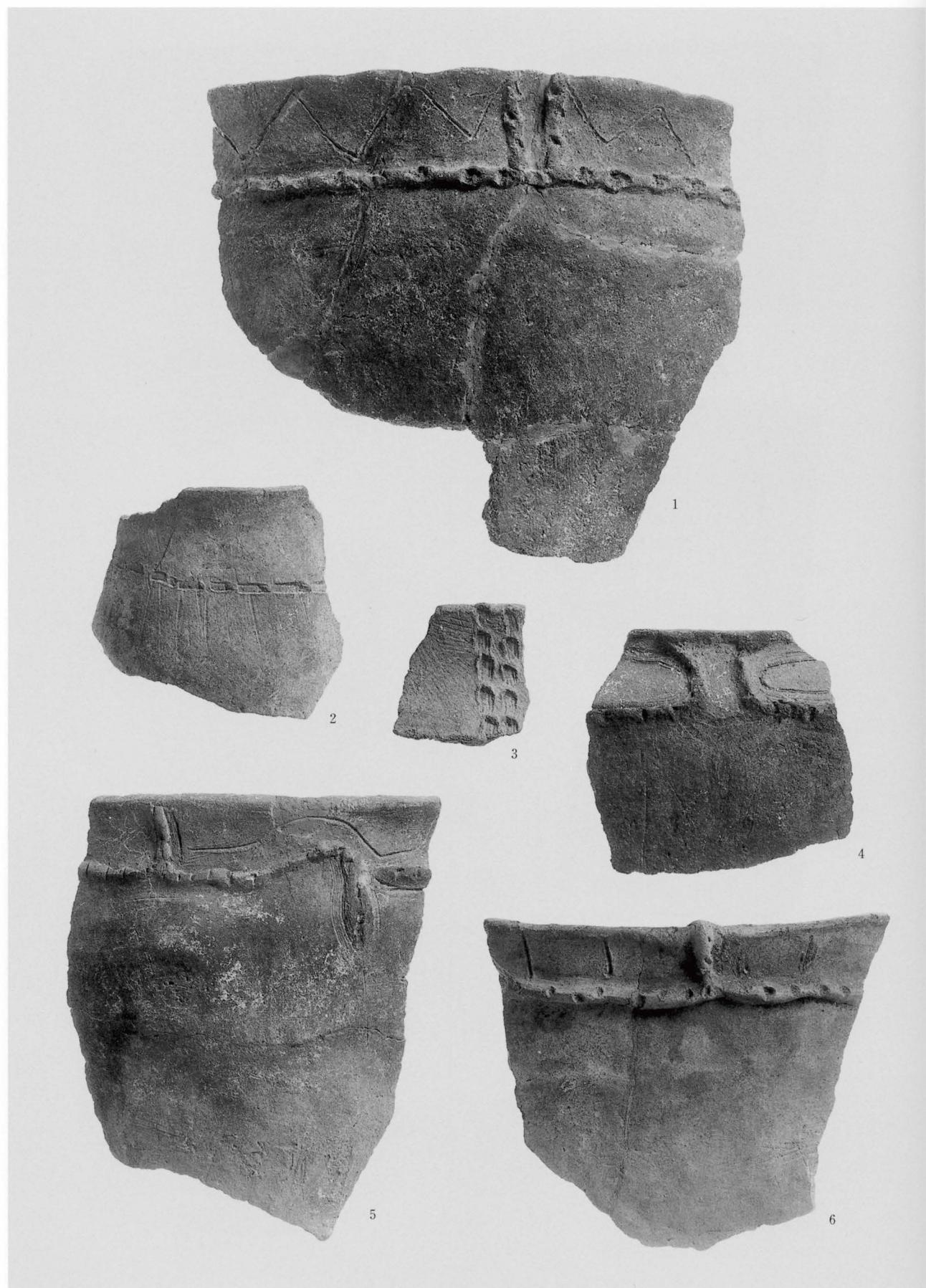
1類土器 壺形土器



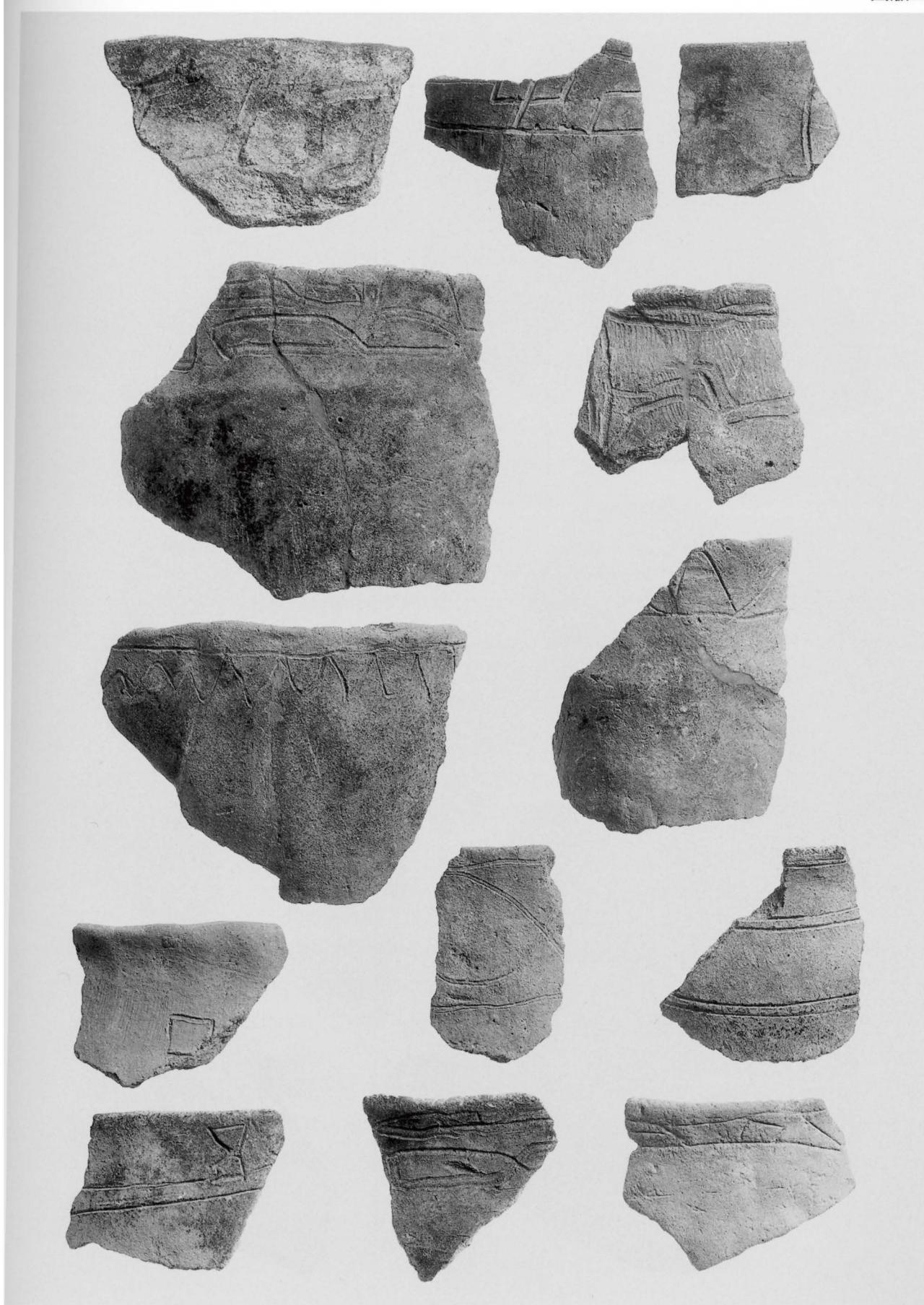
1 類土器 壺形土器



1類土器



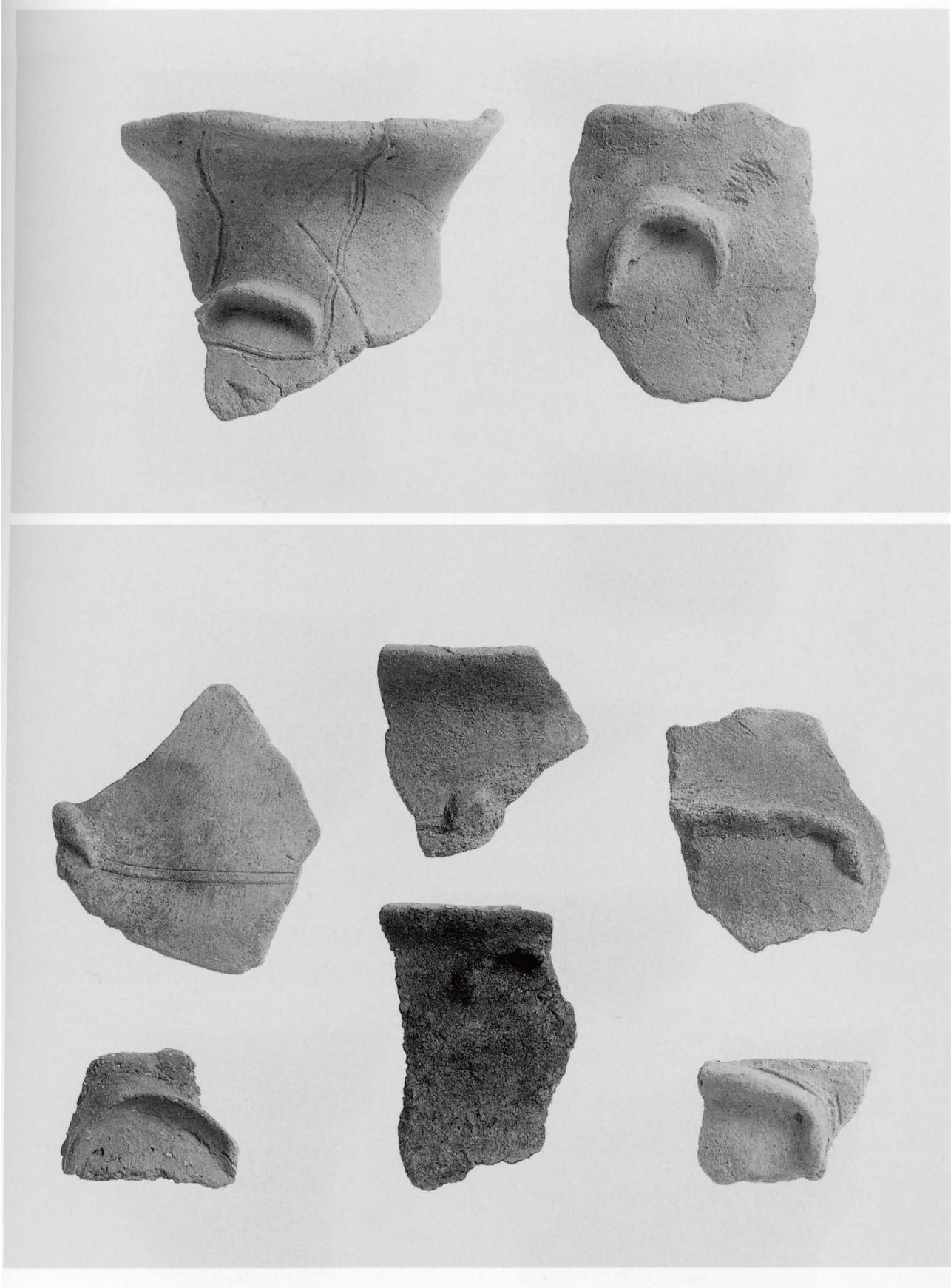
1類土器1、6 2類土器2、3、4、5



2類土器 沈線文



2類土器



2類土器 弧状突帶壺形土器



2類土器（表採）弥生系土器



2類土器底部と口縁部復元土器



波線文土器



無文土器



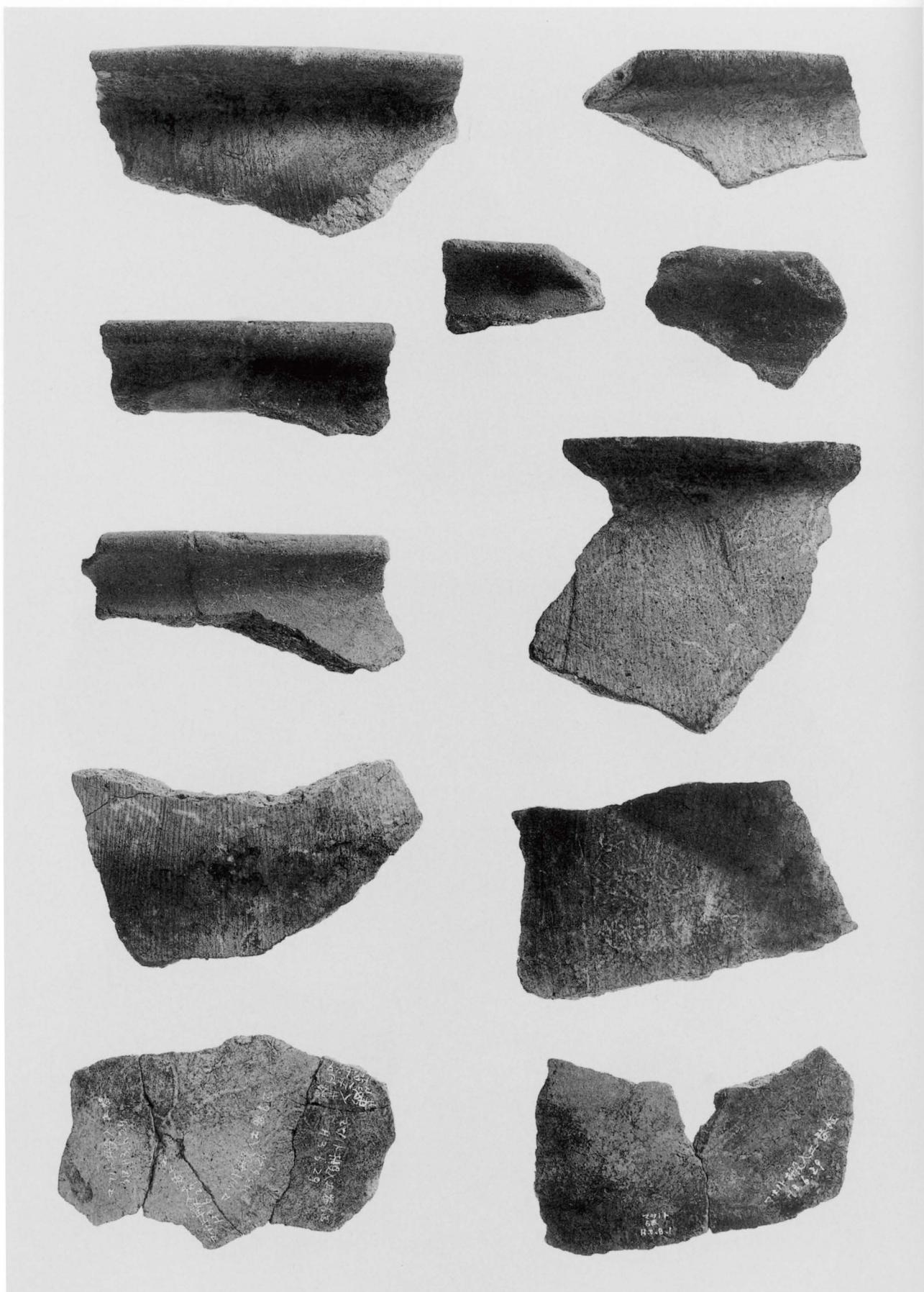
側面

4類土器

底面



3類土器



3類土器



4類土器 注口土器



マツノト遺跡出土土器（第1文化層、白砂層、第2文化層）

第2節 貝製品

本遺跡出土の貝製品は、出土数、種類も多く、その中には用途が明らかでないものも少なくない。よって、貝製品は貝種ごとに報告する。

出土した貝種は、オオツタノハ、オオベッコウガサなどの一枚貝、ヤコウガイ、ホラガイ、ゴホウラ、大形イモガイ、小形イモガイ、タカラガイなどの巻き貝、シャコガイ、メンガイ、リュウキュウマスオなどの二枚貝がある。貝製品の出土総数は829個で最も多く出土したのは二枚貝有孔製品で259個（31%）、次にイモガイbタイプで188個（22.7%）、ヤコウガイ有孔製品120個（14.5%）で二枚貝有孔製品が最も多く出土している。層位別にみると白砂層65個（7.9%）、第一文化層336（40.5%）、層不明294（35.5%）表採134個（16.1%）で、第一文化層で多く得られた。以下、それぞれの製品について貝種別に略述し、詳細は観察一覧に示した。なお、遺物の挿図は紙面の都合上、代表的なもの、写真はさらに説明の都合上必要な遺物を掲載した。従って、図番号と写真番号は必ずしも一致はしない。また本文では、図および写真のあるものについては各々の番号で指示したが、それ以外のものは出土地区・遺物番号で示した。

A. 一枚貝

①オオツタノハ・オオベッコウガサ（第73図・図版20）

第73図に示したのはオオツタノハ・オオベッコウガサなどの一枚貝を利用した製品である。

オオツタノハは非石灰岩地帯の波の荒いところに生息する貝で、沖縄諸島に比べて奄美諸島の方が入手しやすいようである（黒任1994）。

オオツタノハは環状貝輪6個、半環状貝輪2個、未製品3個、有孔製品1個、素材貝1個の計13個出土した。オオベッコウガサは貝輪2個、未製品4個の計6個出土した。以下、主なものについては下記に略述し、詳細は第17表に示した。

第17-1表 オオツタノハ・オオベッコウガサ製品観察一覧

NO.	貝種	製品	完／破	殻長 mm	殻高 mm	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	重さ g	観察事項	区+層	遺 物 番 号	第 図 図版
1	オオツタノハ	貝輪	破片	-	-	-	-	7	幅15mm。外殻は貝色残るが研磨顯著。	31区	15	第73図5、 図版20-4
2	オオツタノハ	貝輪	残3/1	-	-	-	-	7	幅14mm。外殻は研磨顯著。ヘビ貝付着。	表採	104	第73図6、 図版20-2
3	オオツタノハ	貝輪	残3/1 以下	-	-	-	-	18.1	幅12.4mm～18.2mm。殻は大きい、 ヘビ貝付着多し、外殻は貝の稜摩耗、 内縁一成長線に沿って割れる。	15・16区	75	第73図1、 図版20-1
4	オオツタノハ	貝輪	破片	-	-	-	-	2	幅10.4mm、13.4m。端部は刃状に薄く なる。外殻から研磨。外殻に点刻文1 個。	表採	6	図版20-5
5	オオツタノハ	貝輪	残3/1 以下	-	-	-	-	4	一端を研磨。内縁の一部研磨。外殻は 成長線に沿って割れる。外殻にヘビ貝付着。	表採	100	第73図4、 図版20-3
6	オオツタノハ	貝輪	完形	53	66	46.4	29.6	14	内縁一部研磨、他は自然、成長線に 沿って割れる。ヘビ貝付着。	15・16区	7	第73図3、 図版20-7
7	オオツタノハ	貝輪	完形	60	74	37.2	36.7	20.4	幅20mm、外殻はヘビ貝付着、貝殻の 稜の部分は摩耗。内縁は成長線から割 れ、やや摩耗。	表採	99	第73図2、 図版20-8
8	オオツタノハ	有孔	完形	57	72	19	16	22	上縁破損、下縁剥離、ヘビ貝3個付着。 孔は内殻→外殻に打割。孔の位置は殻頂の上位、縦椭円。	11区	4	第73図7、 図版20-6
9	オオベッコウ ガサ	貝輪	完形	57	73	53.1	42.8	10.6	内縁には複数の剥離、内殻→外殻に打 割。	表採	101	第73図8、 図版20-9
10	オオベッコウ ガサ	貝輪	完形	54	68	51.4	36.9	8.6	内縁は数回の剥離。内殻→外殻に打割。	15・16区	76	第73図10、 図版20-11

第17-2表 オオツタノハ・オオベッコウガサ製品観察一覧

NO.	貝種	製品	完／破	殻長 mm	殻高 mm	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	重さ g	観察事項	区+層	遺 物 番 号	第 図 図版
11	オオベッコウ ガサ	貝輪	完形	65	79	40.9	53.8	16.3	内縁は複数の剥離。内殻→外殻に打割。	15・16区	8	第73図9、 図版20-10
12	オオツタノハ	貝輪	完形	-	-	-	-	14	内縁摩耗と剥離、外縁破損、外殻→内 殻に打割。	15・16区	14	
13	オオツタノハ	貝輪	残1/3	-	-	-	-	18.1	殻表および外縁摩耗。殻厚い。ヘビ貝 付着。	15・16区	39	
14	オオツタノハ	未製品	破片	59	69	-	-	17	下縁に大きな剥離	15・16区	97	
15	オオツタノハ	未製品	完形	58	71	-	-	24	ヘビ貝付着。	15・16区	74	
16	オオツタノハ		完形	57	71	-	-	22	自然、ヘビ貝有	15・16区	38	
17	オオベッコウ ガサ	貝輪	残3/2	59	0	0	0	7.7	若干のチッピング、内殻→外殻、内縁 一成長線に沿って剥離、自然か。	表採	102	
18	オオベッコウ ガサ	貝輪	残3/1 以下	-	-	-	-	2.8	内殻→外殻、生長線沿うように剥離、 自然？	表採	103	
19	オオベッコウ ガサ	貝輪	完形	65	87	47.2	39.6	22.8	内殻→外殻、内縁一成長線に沿って剥 離、他加工無。	8区、第 一文化層	1	
20	オオベッコウ ガサ	未製品	残3/1	-	-	-	-	6	幅12.5mm、内殻→外殻、内縁に打割	表採	48	
21	オオツタノハ	他	殻頂部欠	31	36	-	-	5.5	殻に若干の研磨あり	18区	16	
22	オオベッコウ ガサ	他	完形	51	61	42.9	34.7	7.6	内縁一成長線に沿って剥離。	D区	16	

註：「-」は計測不可。

貝輪は外殻を顕著に研磨するもの（第73図5）と外殻の貝の文様を残すもの（第73図1・4）がある。

図版20-5（表採6）、第73図1（表採100）は一端を削るもので、半環状の貝輪かあるいは別の用途に二次利用されるものと思われる。図版20-5はさらに外殻面に点刻文が施されている。

第73図3（15・16区7）、第73図2（表採99）は貝の成長線に沿って殻頂を剥離するもので貝輪の未製品と考えられる。第73図7（11区4）はオオツタノハの殻頂部に15mm前後の粗孔を施すもので、貝輪の未製品か、あるいは有孔製品としてそのまま用いられたものと思われる。これらのオオツタノハには13個のうち9個はヘビ貝が付着している。

第73図8～10はオオベッコウガサの貝輪である。そのうち、同図8と10は内縁に複数の打割を施している。同図9は未製品で貝の成長線に沿うように剥離が認められる。本品は貝の属性から成長線から割れやすく、その結果、輪状を呈する場合が多く、製品との区別が難しい資料であるが、ここでは複数の打割がみられるものを製品とした。

②フジツボ（第73図12、図版28-11）

第73図12（17区3）は内湾の潮間帯の岩や桟橋、岸壁などに生息するフジツボである。側面の形が山形状を呈するもので内部はスポンジのように荒く、ほぼ中央に7mm程度の自然孔がみられる。加工は底面を水平に研磨するものである。外殻にヘビ貝が付着する。本品について類例は無く、用途は不明である。大きさは殻底34mm、殻高23mm、重さ13gを測る。

B 巻き貝

①ヤコウガイ

ヤコウガイは殻高13cm、殻幅20cmにも達する大型種で、グリーンネイルと呼ばれる厚い真珠層を持つのが特徴で、奄美諸島以南の水深30m以浅の岩礁に生息する。また、殻も蓋も厚く堅固である（奥谷 1986）。

製品には貝匙、製品を取った切り取り残存部、リング状製品、有孔製品などがある。以下、各製品について略述する。

a. 貝匙 (第75・76図、図版21・22)

ヤコウガイの外唇から体層の部分を用い、容器状に加工したものである。本品はこれまで様々な名称が与えられているが、本報告では貝匙と仮称した。出土総数43個で層位別には白砂層 - 5個、第一文化層 - 30個、表採 - 8個である。形態から a～f の6種に分類した。

a タイプは身部に対して柄が短く、身部の形状は深く、容量が最も大きくなるものである。外面の螺肋に研磨を施すが、他の部分はほとんど研磨されてない。(図版21-2・3・4)。

b タイプは身部に対して柄部は長く、身部はaタイプより浅く、容量も小くなる。外面は螺肋、外殻とも著しく研磨を施すものである。8個(図版21-1、図版22-4・8)得られ、そのうち1個は未製品である。

c タイプは身部と柄部のバランスがほぼ同じである。2個得られた。

d タイプは基本的には柄のないタイプで、身部は浅く、クツベラ状を呈するもので、外面の螺肋は無加工である。2個(図版22-5)得られた。

e タイプは身部の両側に柄を付けるタイプで、杯状になる。1個(図版22-7)得られた。

f タイプは柄の長いタイプである。3個(図版22-9・10)得られ、うち1個(図版22-11)は未製品である。

各タイプの報告例をみるとaタイプはナガラ西貝塚、清水貝塚、bタイプは渡喜仁浜原貝塚、久米島北原貝塚、eタイプは宇堅貝塚で出土している。

これらの他に、ヤコウガイの体層を荒割りした未製品が出土している。また、各々のタイプに未製品があり、

第18-1表 ヤコウガイ貝匙観察一覧

No.	完／破	分類	重さ g	観察事項	区 + 層	遺物 番号	第 図 図版
1	柄	a	71.8	柄 - 大きな剥離。		39	
2	破	未	93		3区	20	
3	柄	未	64	外殻は加工無、アバタ○。周縁：荒割、外唇：加工無。	3区	21	
4	身	b	29.5	外殻：摩耗。周縁：打割→研磨。	3区	30	
5	柄	a 未	149	螺肋：打割顯著。周縁：荒割、外唇：加工無。石灰付着。	3区、第一文 化層	37	
6	柄	a か b	16	外殻・螺肋は研磨顯著。周縁：研磨。	3区、第一文 化層	108	
7	柄	a	16.8	外殻剥離、外唇：研磨。	3区、第一文 化層	109	
8	完	c 未	21.7	殻表剥離。周縁：荒割。腹面利用、小形。	4区、白砂層	29	
9	身	未	43	色残。周縁：荒割。幼貝。	4区、第一文 化層	34	
10	身	未	21	周縁：摩耗。アバタ有。	4区、第一文 化層	39	
11	柄	a 未	47.9	外殻：加工無。周縁：打割、外唇：僅かに剥離。ヘビ貝、石灰付 着。	5区	68	
12	完	c	127	螺肋：加工無。周縁：打割→摩耗。外唇：加工無。アバタ●。	6区	63	
13	身	a 未	56	螺肋：打割、他は自然。周縁：打割→研磨、荒割部分あり。アバ タ▲。	8区、白砂層	32	
14	完	d	51.3	外殻・螺肋研磨。周縁：研磨。有孔（両面穿孔）	8区	35	第76図7、 図版22-5
15	柄	未	71.8	殻：加工無。周縁：荒割。外唇；加工無。	9区	28	
16	身	b	59	外殻・螺肋：研磨。アバタ有。他と製品の作り方が逆。	9区	30	第76図5、 図版22-8
17	柄	a	54.7	殻：自然。周縁：打割→研磨、外唇：加工無。柄に孔、外殻から 穿孔。	9区	38	
18	完	f	28.9	螺肋：摩耗。周縁：研磨。身が殻口側。	12区	41	第76図8、 図版22-9
19	身	b 未	191	螺肋：打割。周縁：打割。アバタ▲、石灰付着。二次使用か。	12区	88	
20	ほぼ完	b	28.9	外殻・螺肋：研磨顯著。周縁：研磨。アバタ▲。	12区	89	第76図4、 図版22-4

註：「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。「分類」の項、「未」→未製品を示す。

第18-2表 ヤコウガイ貝匙観察一覧

No.	完／破	分類	重さ g	観察事項	区+層	遺物 番号	第 図 図版
21	身	b	35	外殻・螺肋摩耗。周縁：打割→研磨。アバタ▲。	16区	69	
22	身		69	螺肋：わずか研磨。外殻有。アバタ▲。	19区	30	
23	完	e	42.4	次体層利用。周縁：水平に打割。アバタ▲。杯状。字堅貝塚に類似、小降り。	24区、-	2	第76図11、図版22-7
24	完	aかb粗	666	外殻：加工無。周縁：荒割。アバタ●、石灰付着。第一段階か。	31区	29	
25	身	b	65.7	螺肋：研磨、真珠層露出。周縁：研磨・アバタ有。身は浅い。	A区	19	
26	身		78.8	外殻研磨、螺肋：研磨、真珠層露出。周縁研磨。アバタ▲。	A区	31	
27			20	螺肋：研磨。周縁：研磨。アバタ▲。	表採	53	
28	完	a	315	外殻のほぼ中央は外表が剥離、被熱のためか。周縁研磨顯著。外唇打割、穿孔か抉りの痕。	表採	115	第75図3、図版21-3
29	完	a未	233	螺肋：打割→研磨、次体層部分も打割。周縁：細かい打割、外唇：自然。アバタ●、石灰付着。柄は若干破損。	表採	116	第75図4
30	完	粗	185	螺肋：一部打割。周縁：荒割。アバタ無。荒割。	表採	117	
31	ほぼ完	a	41.6	螺肋：研磨。周縁打割→研磨。腹面利用。	表採	118	第76図6、図版22-6
32	完	f未	50	螺肋：加工無。周縁：打割。	表採	119	第76図9、図版22-10
33	柄	a	27	周縁研磨	表採	120	第76図3、図版22-3
34	柄	a	30.8	柄に孔2個、両面穿孔。外唇：有段。螺肋：研磨。周縁：研磨、外唇：加工有。	表採	122	第76図1、図版22-1
35	柄	a	54.2	螺肋：研磨。周縁：研磨、外唇：加工無。	表採	123	
36	身		138	螺肋：研磨、真珠層。周縁：研磨。	表採	175	
37	完	b	87.4	-柄の長いタイプ。螺肋①-研磨、真珠層。螺肋②-研磨、真珠層、周縁研磨、外殻-研磨顯著、真珠。	表採	176	第75図2、図版21-1
38	完	a	147	螺肋：研磨-真珠層。周縁：打割→研磨。アバタ有。	表採	177	図版21-2
39	完	a	126	螺肋：研磨、真珠層。周縁：打割→研磨顯著。	表採	178	図版21-4
40	身		98.7	柄にエグリが残る。螺肋：荒割。アバタ▲。	表採	179	
41	柄のみ	f	8	外殻。螺肋；研磨顯著、真珠層のみ。周縁：研磨。アバタ●。	1・2区	11	第76図10、図版22-11
42	破		8	外殻は一部研磨、色残。周縁：打割→研磨。	15・16a区	37	
43	柄	b	21.8	柄：有孔。外殻・螺肋：研磨顯著。周縁：研磨。	15・16区	101	第76図2、図版22-2
44	完	ゴホウラ	33.8	背面利用。柄の先端部破損。周縁：一部研磨、他は打割。アバタ▲。	15・16区	102	第75図1、図版27-6

註：「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

中には製作工程を示す資料もある。

匙の利用部位はヤコウガイの貝の背面、腹面利用しているが、前者が大きいタイプ、後者が小さいタイプになるようである。背面タイプは伊江島ナガラ原西貝塚など貝塚後期、腹面タイプは久米島カンジン古墓群などグスク～近世で出土している。

b. 製品切り取り残存部（第74図、図版20）

本品は貝匙を取った後の残存部分である。加工が明瞭な6個について略述する。図版20-12・13は外唇部分

第19表 ヤコウガイ切り取り残存部観察一覧

NO.	貝種	重さ g	観察事項	区+層	遺物 番号	第 図 図版
1	ヤコウガイ	304	アバタ●、打割有、螺助は肩部はわずかに残る。	4区、第一文化層	36	図版20-16
2	ヤコウガイ	639	有、螺助に対して平行に打割を施する。臍部は有。	12区、白砂層	82	図版20-17
3	ヤコウガイ	705	臍部にヘビ貝が付着、打割は丁寧。	12区、白砂層	83	図版20-12
4	ヤコウガイ	636	アバタ●、打割は丁寧、臍部有。	表採	95	図版30-13
5	ヤコウガイ	817	アバタ●、ヘビ貝付着、被熱有。打割は丁寧、臍部有。	15・16区	42	図版20-15
6	ヤコウガイ	459	ヘビ貝付着、被熱有、打割は若干あり。	15・16区	71	図版20-14

註：「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

が灰色に変色し被熱したと思われる。また、外殻にヒビが見られるものもある。また、第74図1、図版20-13・14・16は貝匙を取るため、体層部に打割が丁寧に残っているものである。

いずれの貝も臍部や殻頂部にアバタが顕著に見られることから、成貝と思われる。第19表に観察一覧を示した。

c. リング状製品（第77図12・図版20-18）

ヤコウガイの殻口を成長線に平行に切り取り、外縁に打割を加え、平らにリング状に仕上げたものである。

3区(60)白砂層で1個、9区(33)第一文化層で1個、表採(91、92、93、94)で4個の計6個出土している。3区60以外は完形品である。

これらの重量の平均は421.8gで、ほかのヤコウガイ有孔製品よりも数倍も重く、大きい（成貝）ヤコウガイが用いられている。

また、内唇の臍部に近いところに、幅2cm程度の浅い抉りが共通して認められることから使用痕と思われる。浅い抉りは紐を縛るためのものとも考えられ、有孔製品と同様、鍾などに使用された可能性もあるが、これまで報告例はなく、用途については今後の資料の追加を待って、検討したい。

第20表 ヤコウガイリング状製品観察一覧

NO.	貝種	横 mm	縦 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	完破	観察事項	区+層	遺物 番号	第 図 図版
1	ヤコウガイ	100	-	158	-	-	破	殻口破損、外殻有、臍-打割	3区 白砂層	60	
2	ヤコウガイ	119.8	118.2	511	90	95	完	殻口破損、外殻有、臍-打割	9区	33	
3	ヤコウガイ	97	78	363	94		完	殻口破損、外殻有、臍-打割	表採	91	
4	ヤコウガイ	76	74	359	100	100	完	外殻有、螺肋①打割、螺肋②打割、臍-打割	表採	92	第77図12 図版20-18
5	ヤコウガイ	98	70	456	90	100	完	打割、外殻有、螺肋①打割、螺肋②打割、打割、臍-打割	表採	93	
6	ヤコウガイ	92	98	420	100.4	100.7	完	殻口側、体層側とも打割→研磨、外殻有、螺肋①②、臍-打割→研磨	表採	94	

註：「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

d. 有孔製品（第77図・図版25・⑪）

ヤコウガイの体層を板状に加工し、孔を施したものをここにまとめた。

出土総数は119個で、層位別には、白砂層24個、第一文化層16個、表採・不明79個である。地区別にみると3区(27個)、15・16区(12個)が多い。

本品の大きさは、横が32mm～154mm、縦14mm～138mm、重さが6.92g～172g、孔が横9.5mm～80mm、孔縦は7.3mm～62mmである。

これらは重さから100g以上の「特大」、50g～100gを「大」、20～50gを「中」、20g以下を「小」の4つに分けられる。使用されている部位は貝殻は外唇、背面、腹面の3箇所である。グラフ1はヤコウガイの利用部位と重さの関係を示したもので、これによると軽いものには腹面、重いものは外唇を利用する傾向が見られる。第77図10は外唇を用いたもので台形を呈し、径が約25mm孔を上部の中頃に穿孔するものである。

また、第77図11は前者と同じように外唇を利用し、孔径が70mm前後の輪状をなすものである。このタイプは丁寧に研磨されており、他のヤコウガイ有孔製品とは用途が異なるものと推察される。

中サイズは外唇利用7個、背面利用7個、腹面利用は4個である。

小サイズは外唇利用12個、背面利用5個、腹面利用層14個である。また、中には被熱した貝を用いた例(3区13)も見られる。

ヤコウガイ有孔製品は、3地区白砂層と12区で二枚貝有孔製品と一括で出土している。前者では、ヤコウガイ20個、ソメワケグリ7個、タマキガイ1個の計28個である。後者では、メンガイ26個、ヒソジャコ1個、ヤ

コウガイ 1 個の計28個の出土である。一括遺物の重さをみると 3 地区では平均10.6g、(図版30)、12区では 21.4g で、前者は一括で出土したソメワケグリに近い重さ、後者はメンガイに近い数値を示す。両者の例からヤコウガイ有孔製品は二枚貝有孔製品と同様な用途を持つものと推察され、これらの貝の重さにあわせて本品を加工したようである。

第77図1 (図版24-18) はチョウセンサザエの体層を割り取り、その中央に穿孔したもので、大きさからヤ

第21-1表 ヤコウガイ有孔製品観察一覧

No.	分類	完 破	幅 mm	高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔位 置	穿孔	孔單 複	孔形	観察事項	区 + 層	遺 物 番 号	第 図 図版
1	-	破	-	-	7.8	-	-	中中	両面	複孔	縦楕円	周縁: 打割→研磨。孔縁: 打割→摩耗	不、第一文化層	22	
2	外唇	破	82	-	35	51	-	中中	内→外	单孔	円形	螺肋①打割。周縁: 打割。孔縁: 打割	1 区、第一文化層	21	
3	背面	完	67	77	40	32.3	31.8	中中	内→外	複孔	円形	アバタ○。殻表有。螺肋: 全面研磨。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割→摩耗	1 区、第一文化層	23	図版24-9
4	外唇	破	-	68	18	29	-	中中	内→外	複孔	円形	殻表有。螺肋: 打割。周縁: 一部打割。孔縁: 打割	2 区、第一文化層	8	
5	背面	破	48	64	28.8	35	-	下中	外→内	单孔	円形	アバタ●。色残。螺肋自然。周縁: 打割。孔縁: 打割	2 区、第一文化層	9	
6	外唇	破	-	-	17	-	-	中中	内→外	複孔	楕円	アバタ×。殻表有。周縁: 荒割。孔縁: 摩耗	2 区、第一文化層	18	
7	背面	完	57	72	35	17.4	12.3	上中	内→外	複孔	楕円	アバタ●。被熱、螺肋①打割。周縁: 打割。孔縁: 打割→摩耗ヒモズレ。	3 区	13	図版24-7
8	背面	破	-	130	93	-	-	中中	内→外	複孔	楕円	殻表石灰付着、色残。螺肋: 自然。周縁: 荒割。孔縁: 荒割	3 区	20	
9	外唇	破	-	138	73.5	56.3	-	上中	内→外	複孔	縦楕円	アバタ▲。螺肋①打割。孔縁: 打割	3 区	22	
10	背面	完	71	87	75	40.6	21.2	上中	両面	複孔	縦楕円	アバタ●。周縁: 打割→研磨。孔縁: 上と下にエグリ	3 区、第一文化層	50	第77図9
11	外唇	ほほ完	80	83	47	37.5	31.6	中中	内→外	複孔	縦楕円	アバタ×。色残。螺肋自然。周縁: 打割。孔縁: 打割	3 区、第一文化層	51	
12	-	破	-	-	28	-	-					* 3 区 51 と同一個体。	3 区、第一文化層	52	
13	外唇	完	48	68	35	13.5	10.4	中右	内→外	複孔	円形	アバタ▲。殻表一部剥離。周縁: 周縁摩耗。孔縁: 打割	3 区、第一文化層	78	第77図8
14	外唇	完	40	47	14.9	9.5	7.6	上中	内→外	複孔	方形	アバタ×。殻表有。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割	3 区、白砂層	80	図版30-9
15	背面	完	41	41	9.1	12.5	15.4	上中	内→外	複孔	楕円	アバタ×。色残。殻表有。周縁: 打割→研磨。孔縁: 打割→摩耗	3 区、白砂層	81	第77図2 図版30-10
16	腹面	完	45	47	11.9	11.2	7.3	上中	内→外	複孔	楕円	アバタ×。色残。殻表有。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割	3 区、白砂層	82	第77図3 図版30-11
17	外唇	完	39	41	7.3	16.6	15.5	上中	内→外	複孔	方形	アバタ×。殻表半欠。周縁: 打割→研磨。孔縁: 打割	3 区、白砂層	83	図版30-12
18	背面	完	41	39	9.4	14.5	10.5	中中	内→外	複孔	楕円	アバタ×。殻表有。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割	3 区、白砂層	84	図版30-13
19	背面	完	41	41	11.7	18.7	15	中中	内→外	複孔	楕円	アバタ●。殻表一部剥離。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割	3 区、白砂層	85	第77図4 図版30-14
20	外唇	完	40	48	10.5	23.4	17.4	中中	両面	複孔	楕円	殻表剥離。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割	3 区、白砂層	86	図版30-15
21	外唇	完	38	43	10.9	12	13	中中	内→外	複孔	楕円	アバタ×。殻表有。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割	3 区、白砂層	87	図版30-16
22	外唇	完	42	42	6.9	18	14.5	中中	両面	複孔	方形	殻表剥離。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割	3 区、白砂層	88	図版30-17
23	外唇	完	44	44	11.1	10	11	上中	両面	複孔	円形	殻表無。周縁: 打割→摩耗。孔縁: 打割	3 区、白砂層	89	図版30-18

註:「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

第21-2表 ヤコウガイ有孔製品観察一覧

No.	分類	完 破	幅 mm	高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔位 置	穿孔	孔单 複	孔形	観察事項	区+層	遺物 番号	第 図 図版
24	外唇	完	43	40	10.2	16	13.5	上中	内→外	複孔	方形	アバタ×。殻表有。周縁:打割→摩耗。孔縁:打割→摩耗	3区、白砂層	90	図版30-19
25	外唇	完	44	51	13.4	20.1	15.8	中中	内→外	複孔	橢円	アバタ×。殻表有。周縁:打割。孔縁:打割	3区、白砂層	91	図版30-20
26	外唇	完	41	45	14.5	14	11.1	上中	両面	複孔	橢円	アバタ●。殻表有。周縁:打割→研磨か。孔縁:打割→摩耗、ヒモズレ	3区、白砂層	92	第77図5 図版30-21
27	腹面	完	42	43	9.6	17.8	12.7	中中	内→外	複孔	橢円	アバタ×。殻表有。周縁:打割→摩耗。孔縁:打割→摩耗、ヒモズレ	3区、白砂層	93	第77図6 図版30-22
28	外唇	完	32	38	7.2	12	11.1	中中	内→外	複孔	橢円	アバタ×。周縁:打割→摩耗。孔縁:摩耗	3区、白砂層	102	図版30-23
29	外唇	完	36	39	9.4	13.5	14	上中	内→外	複孔	円形	アバタ×。殻表有。周縁:打割→摩耗。	3区、白砂層	103	図版30-24
30	腹面	完	36	34	8.5	9.5	9	上中	内→外	複孔	円形	アバタ×。殻表有、裏剥離有。色残。周縁:打割→摩耗。	3区、白砂層	104	図版30-25
31	外唇	完	41	34.5	11.8	9.7	9.8	上中	内→外	複孔	円形	アバタ×。殻表剥離。周縁:打割→摩耗。	3区、白砂層	105	図版30-26
32	背面	完	39	32	9.3	10	13.2	上中	両面	複孔	橢円	アバタ×。殻表剥離。色残。螺肋;自然。周縁:打割→摩耗。孔縁:打割→摩耗	3区、白砂層	106	図版30-27
33	腹面	完	35	49	14.9	11.3	10	上中	内→外	複孔	橢円	アバタ×。殻表剥離。周縁:研磨。孔縁:打割。抉り→ヒモズレか。	3区、白砂層	107	
34	外唇	破	-	-	54	-	-	中中	内→外	複孔	円形	アバタ×。螺肋:打割。周縁:打割。孔縁:打割	4区、第一文化層	51	
35	外唇	破	-	-	32	-	-	中中	内→外	单孔	円形	アバタ●。螺肋①打割。周縁:周縁研磨、外唇破損。孔縁:打割	4区、白砂層	54	
36	外唇	破	-	14	14	-	-	中中	内→外	单孔	円形	螺肋①打割。孔縁:打割	5区、白砂層	29	
37	外唇	破	78	-	50	-	-	上中	両面	单孔	円形	螺肋①打割。孔縁:打割	5区、白砂層	32	
38	外唇	完	80	70	49	22	21	中中	内→外	複孔	円形	アバタ●。被熱。螺肋:研磨。周縁:打割→研磨。孔縁:打割	6区	19	図版24-8
39	外唇	破	-	-	47	-	-	中中	両面	单孔	円形	アバタ●周縁:外唇一部剥離。孔縁:打割	7区	20	
40	腹面 ?	破	-	74	20	25.8	-	上中	内→外	複孔	橢円	アバタ●。殻表剥離。螺肋自然。周縁:打割。孔縁:打割	7区	23	
41	腹面	完	40	42	8.3	13.5	16.2	上中	内→外	複孔	横橢円	殻表剥離。周縁:打割→摩耗。孔縁:打割	8区	24	
42		完	32	32	6	6.4	7.3	中中	内→外	複孔	方形	殻表有。周縁:一部剥離。孔縁:打割	9区	21	第77図1 図版24-18
43	外唇	完	100.5	96	102	29.2	40.4	上中	内→外	複孔	方形	螺肋①打割。周縁:外唇自然。孔縁:打割	9区	31	
44	腹面	完	44	40	12	15.2	11.2	上中	内→外	複孔	橢円	アバタ×。幼貝、色残。周縁:荒割→摩耗。孔縁:打割	10区	3	
45	背面	完	52	77	20	26.8	16.1	中中	内→外	複孔	縦橢円	アバタ▲。殻表剥離。周縁:打割→摩耗。孔縁:打割	12区、第一文化層	29	図版24-16
46	背面	破	-	88	47	31	-	上中	内→外	複孔	円形	螺肋①打割。孔縁:打割	12区	42	
47	背面	破	-	-	9	-	-	中中	内→外	-	円形	殻表剥離。周縁:自然剥離。孔縁:自然?	12区、白砂層	48	
48		完	60	69	28	18	23	上中	内→外	複孔	橢円	色残。周縁:打割→摩耗。孔縁:打割-(裏)ヒモズレ	12区	75	
49	背面	完	65	60	35	25.8	20	中中	内→外	複孔	縦橢円	アバタ●。殻表有。周縁:打割→摩耗。孔縁:打割	12区	76	図版24-14
50	背面	破	59	-	22	19.4	-	中中	内→外	複孔	縦橢円	アバタ×。殻表有。周縁:打割→摩耗。孔縁:打割	12区	77	図版24-13

註:「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

第21-3表 ヤコウガイ有孔製品観察一覧

No.	分類	完 破	幅 mm	高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔位 置	穿孔	孔單 複	孔形	観察事項	区+層	遺 物 番 号	第 図 図版
51	背面	完	66	66	32	22.6	17.3	中中	内→外	複孔	縦椭円	アバタ×。殻表有。周縁：打割→摩耗。孔縁：打割	12区	81	図版24-11
52	外唇	破	68	-	33	-	-	中中	内→外	複孔	縦椭円	石灰付着。螺肋：自然。周縁：荒割。孔縁：打割	16区	57	
53	外唇	破	80	-	43	-	-	中中	内→外	複孔	椭円	アバタ●。螺肋：摩耗。孔縁：打割	16区	66	
54		破	38	41	8		12.2	中中	内→外	複孔	縦椭円	殻表有。周縁：打割→摩耗。孔縁：打割	25区	36	
55	腹面	完	57	67	27	32.6	28.7	中中	内→外	複孔	椭円	螺肋：自然。孔縁：打割	25区	37	
56	外唇	破	-	-	33	-	-	中中	内→外	複孔	椭円	螺肋①打割。孔縁：打割	31区	21	
57	外唇	完	84	81	62	18.2	16.9	上中	内→外	複孔	円形	殻表一部剥離。周縁：外唇剥離、打割。孔縁：打割	31区	26	
58	外唇	破	-	-	30	-	-	上中	内→外	複孔	椭円	殻表剥離。孔縁：打割	31区	28	
59	腹面	破	-	-	9	-	-	中中	内→外	複孔	椭円	殻表有。螺肋：研磨顯著。周縁：打割→研磨。孔縁：打割→摩耗	A区	17	
60	腹面	完	44	45	15	17.8	14.2	中中	内→外	複孔	縦椭円	アバタ○。やや摩耗。周縁：打割→研磨。孔縁：摩耗	表採、一括？①	26	
61	腹面	完	47	45	14	15.1	14.1	上中	内→外	複孔	方形	アバタ×。色残。周縁：打割→研磨。孔縁：-	表採、一括？①	27	
62	腹面	完	45	48	12	20.4	21.3	中中	内→外	複孔	方形	アバタ×。色残。周縁：打割→摩耗。孔縁：-	表採、一括？①	28	
63	腹面	完	39	46	12	18.4	10.8	中中	内→外	複孔	方形	アバタ×。色残。周縁：打割→摩耗。孔縁：-	表採、一括？①	29	
64	外唇	破	100.6	110	119	44.4	-	上中	両面	複孔	椭円	螺肋①打割。周縁：外唇自然。	表採	50	
65	腹面	破	82	-	22	-	-	中中	内→外	複孔	椭円	アバタ●。螺肋：自然。周縁：打割→摩耗。孔縁：打割→摩耗	表採	51	
66	-	破	-	-	33	-	-				方形	螺肋①打割。周縁：周縁：打割。	表採	52	
67	外唇	完	87	89	69	43.8	37.4	上中	両面	単孔	椭円	アバタ●。螺肋①研磨。周縁：外唇自然、研磨。孔縁：打割→研磨、ヒモズレ	表採	54	
68	外唇	完	84	75	49	24	21.7	中中	内→外	複孔	縦椭円	アバタ▲周縁：打割→摩耗。孔縁：打割	表採	55	図版24-5
69	外唇	完	110.4	100.6	134	48.2	50	上中	両面	単孔	円形	アバタ●。周縁：外唇若干剥離、周縁：打割→摩耗。孔縁：打割→研磨	表採	56	
70	外唇	完	84	89	57	52	44	中中	内→外			螺肋：①打割、②摩耗	表採	58	
71	外唇	完	87	100	77	25	34	上中	内→外	複孔	椭円	周縁：打点。孔縁：打割	表採	59	図版24-2
72	外唇	完	94	99	76	38	38	上中	内→外	複孔	方形	螺肋：打割。臍部：摩耗。孔縁：打割	表採	60	図版24-1
73	外唇	完	126	125	172	80	62	中中	内→外	単孔	椭円	臍部摩耗。周縁：打割→研磨。孔縁：打割→研磨	表採	61	
74	腹面	完	39	46	7	17.8	13.2	上中	両面	複孔		殻表剥離。	表採	68	
75	背面	完	68	82	39	47.2	15.5	中中	内→外	複孔	縦椭円	アバタ▲。殻表有。螺肋：研磨顯著。螺肋：研磨。周縁：打割→摩耗。螺肋研磨。孔縁：打割→摩耗	表採	69	図版24-12
76	外唇	破	-	-	11	-	-	中中	打割→ 摩耗	単孔	円形	アバタ●孔縁：裏（摩耗）→ヒモズレ	表採	70	
77	背面	完	64.5	75	48	13.8	12.8	下中	内→外	複孔	方形	アバタ▲。螺肋摩耗。周縁：打割→摩耗。孔縁：打割	表採	71	図版24-10
78	外唇	完	84	100.7	74	46.7	40.4	中中	内→外	単孔	椭円	アバタ●。殻表・螺肋研磨。孔縁：打割→研磨	表採	72	
79	外唇	破	-	-	13	38	-	中中	内→外	単孔	円形	色残。周縁：外唇自然、打割。孔縁：打割→研磨	表採	73	
80	外唇	破	-	-	23	-	-	中中	内→外	複孔	椭円	色残。螺肋：自然周縁：外唇自然。孔縁：打割	表採	74	

註：「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

第21-4表 ヤコウガイ有孔製品観察一覧

No.	分類	完 破	幅 mm	高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔位 置	穿孔	孔單 複	孔形	観察事項	区+層	遺 物 番 号	第 図 図版
81	外唇	破	49	76	33	10	-	中中	内→外	单孔	円形	色残。螺肋：自然周縁：打割。 孔縁：打割	表採	75	
82	外唇	破	86	-	9	-	-	上中	内→外	複孔	楕円	殻表一部剥離。周縁：荒割。 孔縁：打割	表採	76	
83	外唇	破	86	-	43	24	-	上中	内→外	複孔	方形	脆い。周縁：打割。孔縁：打割	表採	77	
84	外唇	破	-	-	26	43	-	中中	内→外	单孔	円形	殻表残。螺肋：研磨顯著。周 縁：研磨。孔縁：研磨	表採	78	
85	外唇	破	64	49	15	-	-	中中	内→外	-	不明	殻表剥離。螺肋自然。周縁： 研磨。孔縁：打割	表採	79	
86	-	完	84	93	85	24	-	端	外→内	複孔	楕円	アバタ●。殻表摩耗。周縁： 周縁打割、一部穿孔の痕あり、 匙の未製品？。孔縁：内側に 摩耗	表採	80	
87	外唇	完	100	110.4	109	-	-	上中	内→外	複孔	円形	螺肋①打割。周縁：荒割。孔 縁：打割	表採	82	
88	腹面	完	34	34	8	11.8	12	中左	内→外	複孔	円形	アバタ×。幼、色残。周縁： 打割。孔縁：打割	表採	83	
89	外唇	完	86	96	71	38.5	36.27	中中	内→外	複孔	楕円	螺肋①打割。孔縁：打割	表採	84	
90	外唇	破	-	79	20	39.6	-	中中	内→外	单孔	円形	アバタ●。螺肋②研磨。周 縁：周縁：打割。孔縁：打割	表採	85	
91	外唇	完	90	98	107	30.2	23.6	上中	内→外	複孔	方形	アバタ▲。螺肋①打割。周 縁：打割→摩耗。孔縁：打割	表採	86	図版24-3
92	外唇	破	77	-	16	-	34.8	中中	内→外	单孔	円形	螺肋：研磨。打撃痕明瞭。周 縁：打割。孔縁：打割	表採	87	
93	外唇	破	-	-	20	-	-	中中	内→外	单孔	円形	周縁：摩耗。孔縁：打割	表採	88	
94	外唇	破	-	100.4	48	49.9	-	中中	内→外	单孔	楕円	色残。螺肋①打割→摩耗周 縁：摩耗。孔縁：打割	表採	89	
95	外唇	破	-	-	22	-	-	中中	内→外	单孔	円形	アバタ▲周縁：摩耗。孔縁： 打割→摩耗。	表採	90	
96	腹面	完	56	53	24.7	27.9	26.9	中中	内→外	单孔	方形	アバタ×。色残。周縁：打割。 孔縁：打割、ヒモズレ2カ所	表採	109	
97	外唇	完	55	59	29	12.3	11.8	上中	内→外	複孔	方形	螺肋：摩耗。周縁：周縁打割 →摩耗。孔縁：打割→研磨	表採	110	図版24-15
98	外唇	完	84	92	78	37.9	38.8	上中	内→外	-	ほぼ円 形	螺肋：全面打割。周縁：打割。 孔縁：剥離（右下）→ヒモズ レか	表採	111	
99	外唇	完	86	91	60	47.5	52.8	中中	内→外	单孔	円形	ヘビ貝、アバタ●。殻表有。 螺肋①全面打割、②摩耗。周 縁：打割。孔縁：打割	表採	112	
100	外唇	完	86	110.1	107	33	35.5	上中	内→外	单孔	円形	螺肋：研磨。打撃痕明瞭。周 縁：打割→研磨。孔縁：打割 →研磨	表採	113	
101	外唇	完	83	89	58	52	49	中中	内→外	複孔	楕円	螺肋および外殻、周縁：研磨 顯著。孔縁：打割→研磨	表採	114	第77図11
102	外唇	完	-	100.5	100.4	49.1	46.5	中中	内→外	单孔	円形	螺肋：打割→研磨。周縁：打 割→研磨。孔縁：打割→研磨	不明	3	
103	外唇	完	100.4	100	97	29.4	20.4	上中	内→外	複孔	楕円	螺肋①打割。周縁：外唇自然、 打割→研磨。孔縁：打割	不明	5	第77図10
104	外唇	完	100.3	74	73	22.2	21.2	上中	内→外	複孔	円形	螺肋①打割。周縁：外唇自然、 打割→研磨。孔縁：打割	不明	6	図版24-4
105	腹面	完	37	43	13	18	8	上中	内→外	複孔	不定形	アバタ×。色残。周縁：打割。 孔縁：打割	不明	7	
106	外唇	完	74	86	45	37	29.2	中中	内→外	複孔	楕円	殻表一部剥離。周縁：外唇自 然、打割→研磨。孔縁：打割 →研磨	不明	8	図版24-6
107	外唇	完	84	93	58	41.8	40	中中	内→外	複孔	円形	螺肋①研磨。周縁：研磨。孔 縁：打割→研磨	不明	9	
108	完	28	34	6	12	10	中中	自然	-	单孔	縦楕円	磨耗。かなり磨耗。孔縁：磨 耗	15・16区	13	

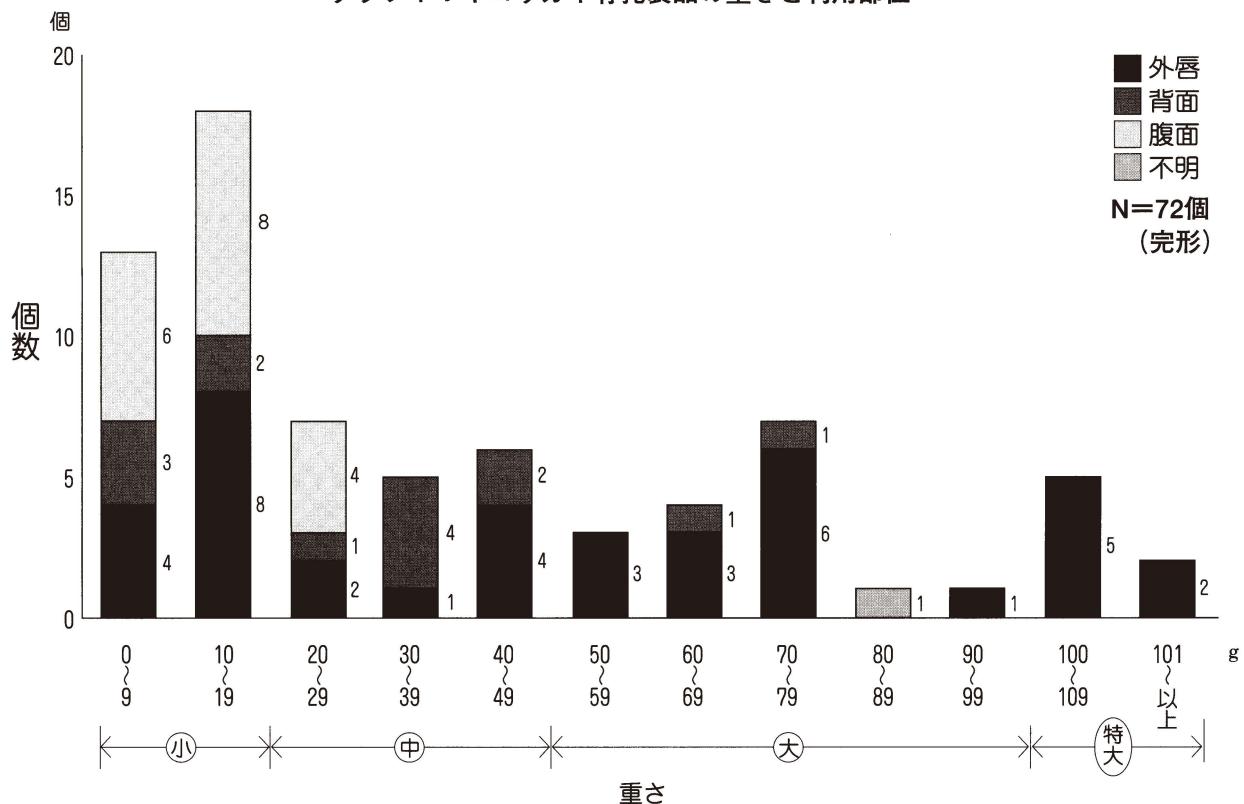
註：「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

第21-5表 ヤコウガイ有孔製品観察一覧

No.	分類	完 破	幅 mm	高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔位 置	穿孔	孔單 複	孔形	観察事項	区+層	遺 物 番 号	第 図 図版
109	背面	完	60	57	19	21	24	中中	内→外	複孔	円形	小形貝、螺肋：打割。周縁：打割。孔縁：打割	15・16区	38	第77図7
110	腹面	完	61	69	29	34	29.1	中中	内→外	複孔	縦楕円	アバタ×。色残。周縁：打割→摩耗。孔縁：打割→摩耗	15・16区	39	
111	背面	完	76	93	63	50	25.2	上中	内→外	複孔	縦楕円	アバタ●。螺肋：自然。小形貝。周縁：打割。孔縁：打割→ヒモズレ(抉)	15・16区	44	
112	外唇	完	62	59	25	19.8	31.2	中中	内→外	複孔	楕円	殻表一部剥離。周縁：周縁打割。	15・16区	58	図版24-17
113	外唇	破	59	-	35	-	-	中中	内→外	複孔	方形	殻表有。周縁：打割。孔縁：打割	15・16区	59	
114	-	破	-	-	14	-	-						15・16区	63	
115	-	破	-	-	10	-	-						15・16区	64	
116	外唇	破	-	72	27	39	-	中中	内→外	複孔	円形	螺肋：自然。周縁：外唇自然。孔縁：打割	15・16区	65	
117	外唇	破	78	-	36	-	66	中中	内→外	单孔	楕円	アバタ×。色残。螺肋①打割②自然周縁：打割。孔縁：打割	15・16区	67	
118	外唇	破	89	-	81	-	23.8	中中	両面	-	円形	アバタ●。色残。孔縁：摩耗	15・16区	69	
119	外唇	破	94	-	51	-	-	中中	内→外	单孔	円形	螺肋①自然。周縁：摩耗。孔縁：打割	15・16区	70	
120	外唇	破	87	-	40	-	-	中中	内→外	单孔	円形	アバタ●。周縁および外唇若干剥離。摩耗。孔縁：打割	15・16区、 ピ	100	

註：「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

グラフ1：ヤコウガイ有孔製品の重さと利用部位



コウガイの「小」サイズの代用品と推定される。

e. 蓋

ヤコウガイの螺蓋は第一文化層で159個、白砂層で5個の計164個出土しているが、これらの蓋には明瞭な加

工は認められない。中には被熱の痕跡がある（11区49）のも見受けられる。ヤコウガイの蓋の出土地をみるとそのほとんどが匙や有孔製品や殻の近くから出土していることから、製品の製作のために生じたものと想定される。しかし、奄美・沖縄諸島の先史遺跡からは蓋自体を製品に利用する場合も多く見られることから、本遺跡での出土状況は今後に問題を残すものと思われる。

②ホラガイ有孔製品（第74図2・図版25）

ホラガイの腹面を打割り、孔を施し、さらに、外唇の一部を加工調整（図←→の部分）したものである。孔の大きさは2～3cmの大きいタイプと1.5cm前後の小さいタイプの2種がある。出土したものは表採2個（表

第22表 ホラガイ製品観察一覧

番号	貝種	完・破	殻径 (mm)	殻高 (mm)	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区+層	遺物	第 図 図版
1	ホラガイ	完	100.2	220	202	15	15	腹面粗孔、殻頂円味、外唇一部に加工有	表採	126	第74図1 図版25-0
2	ホラガイ	完	96	200.2	200	43	35	腹面に粗（複）孔、殻頂円味、アバタ●	13区	48	図版25-12
3	ホラガイ	完	100.8	170.8	310	31	28	腹面粗孔（打割調整丁寧）、殻頂欠、背面、殻脆い（被熱？）、外唇打割、アバタ●	表採	3	図版25-13
4	ホラガイ	完	76	164	112	-	-	側面破損自然（参考）	表採	127	
5	ホラガイ	完	100.4	220.5	212	-	-	側面破損自然（参考）	表採	128	

註：①「-」：計測不可。②アバタ：●（10数個以上）、▲（数個）、×（無）

採126（第74図2）表採3）、3区（48）で1個の合計3個、それ以外に腹面を大きく破損したものが2個（表採127、128）出土している。第22表に観察一覧を示した。

類例は沖縄諸島では津堅島キガ浜貝塚などの縄文後期～弥生時代相当期まで見られ、弥生相当期以降は貝の大きさが小さくなる傾向がある。奄美諸島では長浜金久遺跡で多数報告されている。本遺跡出土のホラガイも小さい方で、その傾向は一致している。

③ゴホウラ

本貝は九州では甕棺墓の人骨に伴って出土する貝輪の素材であり、また沖縄諸島では貝の集積遺構として出土するもので、弥生～古墳時代にかけて貝交易の対象とされる貝である。本遺跡では背面のみ（図版25-3）、腹面のみ（図版25-2）、自然貝（図版25-1）、匙状製品（図版27-6）の計4点出土した。

図版25-2は背面のみの資料で、周縁を粗く調整して形を整えている。貝輪製作のための素材貝か、あるいはその残存品かと考えられる。沖縄県の久米島大原貝塚（当真1980）でも同様の製品は出土しているが、用途については明瞭でない。4区で出土。また、腹面のみ（図版25-2）の資料は袖部から背面にかけて大きく破損するもので、他に加工痕は見られない。表面採集品である。自然貝（図版25-1）は背面および腹面に多量のアバタを有し、貝殻の内部までアバタが見られ、空洞化している。また、袖部および背面に多数のヘビ貝が付着している。これらの状況から本品は死貝と思われる。3区で出土した。これら3点のゴホウラの出土場所は近いようである。第75図1（図版27-6）はゴホウラの背面を匙状に切り取った製品である。背面の最も高い部分を身、前溝側を柄に用い、周縁は成長線に沿うように切り取り、僅かに研磨を施している。最大幅68mm、長さ92mmを測る。

④大形イモガイ

アンボンクロザメ、クロフモドキ、アンボイナなど大形のイモガイを加工したもので、貝符とその未製品などがある。

a. 貝符（第78図・図版26）

イモガイ科の貝の体層部を縦位に切り取り、板状に加工し、外殻面に文様を施すものである。これらの貝製

品は種子島広田遺跡で、人骨に伴って多量に出土した。広田遺跡では、出土する層および形状から上層タイプと下層タイプ、中間の中層タイプに分けている。本遺跡もこれに準じて分類すると中層タイプは（第78図1・4）2点で、他の3点は上層タイプ（第78図2・3・5）に分類される。

文様についてみると第78図1は幅6mmの帯状の文様を上下に組み合わせたもので、孔はみられない。第78図4は幅広、細の浮文の組み合わせで、四隅に小孔を施す。いずれも、1個で文様構図は完結するようである。両者は平面が台形を呈し、殻は他に比べて白い感がある。台形状になるのは、殻の成長線に沿って整形されたためと思われる。両者の素材はイモガイとされてきたが、貝殻が白く、体層がやや膨らむことからアツソデガイかゴホウラと思われる。第78図2・3は文様の細い沈線文で構成されるが、1個で文様は完結されるものではない。第78図2の中には点刻文も見られることから、広田遺跡との関わりが深いと思われる。

これらの5点の詳細については第23表に観察一覧を示した。

b. 貝符未製品（第78図・図版26）

板状に加工し、周縁を研磨するもので、貝符未製品の第2段階で7点得られた。貝種はアンボンクロザメ、ゴホウラ（第78図17）、メンガイ（第78図15）などがみられる。本品は幅が2cmに近いものと1cm以下（第78図17）のものがあり、前者は貝符に後者（図版26-11～13）は別の用途に用いられたものと思われる。前者の貝符未製品は加工の状況から図版26-10→第78図8→第78図9→第78図6への製作工程が想定される。以下、各々の計測および観察一覧を第23表に示した。

c. イモガイ科加工品（第78図・図版26、27）

アンボンクロザメ、クロフモドキ（図版25-10）、アンボイナ（図版25-9）、ヒラマキイモ（図版25-6）などのイモガイ科の貝に加工を施したものを作りまとめた。加工は体層部を板状に加工したもの（図版26-14～19）と殻軸を取り除いたものがある（図版25-9）。板状のものはさらに周縁を研磨すると摩耗するものがある。周縁を研磨したものは、複数の打割が確認されるものとそうでないものがある。複数の打割が見られるものは貝種はアンボンクロザメで、長方形を呈し（図版26-14～19）、割れが単発なものは貝種はアンボイナで（図版27-2～4）方形を呈する。また、前者のアンボンクロザメのものは図版26-14・15・16（表158+160+165）、図版26-18・19（表採161+164）に示したように接合できることから1個の素材貝から複数の貝符を切り取ることを示す資料である。また、アンボンクロザメやクロクモドキ以外に殻の薄いヒラマキイモ（図版25-6）を素材とし、殻軸を除去したものも見られる。また、周縁を摩耗しているものはそれ以外に加工はなく（A区38・31区64）厚手のアンボンクロザメかクロフモドキと思われる。殻軸を除去したものは、アンボンクロザメ（図版25-9）とアンボイナ（図版25-7・8）ヒラマキイモ（図版25-6）の3種がある。これらの貝の殻頂には複数の打割が施されているが、第78図14のアンボンクロザメは、さらに腹面が研磨されている。この他に殻長7.9cm、殻高14.1cm、重さ322gを測る大形のクロフモドキ（図版25-17）が出土している。外唇は摩耗し、殻頂近くにはヘビ貝が付着し、貝の色が残っているが加工痕はなく、死貝と思われる。

第23表 大形イモガイ製品観察一覧

NO.	貝種	残存	殻長 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	観察事項	区 + 層	遺物 番号	第図 図版
1	イモガイ (大)	完	48	23	5.5	光沢有。白色、外殻、周縁研磨。広田中層タイプ。文様は幅6 mmの帯状の「Ω」の模様を上下に組み合わせている。貝が厚く、アツソデガイかも?	表採	170	第78図1 図版26-1
2	イモガイ (大)	完	30	18.5	2.1	光沢有。外殻、周縁研磨。孔は内→外は穿孔。四隅に施すが、1個は欠損。横楕円、摩耗—広中層タイプ。文様は幅広、細の浮文の組み合わせ、貝が厚くアツソデガイかも?	表採	168	第78図4 図版26-4
3	イモガイ (大)	完	19	30	5.1	光沢有。周縁研磨、広田上層タイプ、文様は沈線+点刻文(1.5m)3個	表採	156	第78図2 図版26-2
4	イモガイ (大)	完	22	27	2.6	外殻に光沢有。周縁研磨。広田上層タイプ。文様は「L」字の沈線文を3個組み合わせる。	18区	85	第78図3 図版26-3
5	イモガイ (大)	破	15	34	4.1	外殻に光沢。外殻、周縁研磨。広田上層タイプ。文様はやや幅広の沈線。(最大幅20.0mm)	表採	169	第78図5 図版26-5
6	アンボンクロザメ	完	13	38	3.2	色残。周縁研磨。外殻、内殻は自然。長方形。	16区	104	第78図6 図版26-6
7	イモガイ (大)	完	16	48	3.6	外殻、周縁研磨。貝の成長線明瞭。長方形	22区	5	第78図7 図版26-7
8	イモガイ (大)	完	20	56	8.9	色残わずか。裏面自然の光沢。外殻、周縁研磨顯著。厚さ2.5mmと厚手。紡錘形。	2区	37	第78図9 図版26-9
9	アンボンクロザメ	完	19	66	10.7	色残摩耗。厚さ3.5mm。周縁、肩部摩耗。先端は尖り、細長い二等辺三角形。	15・16区	20	図版26-10
10	アンボンクロザメ	完	19	46	6.7	色残。外殻、周縁研磨、アバタ有、貝の成長線明瞭。略三角形。	26区	28	第78図8 図版26-8
11	ゴホウラ?	破	27	36	2.7	周縁研磨顯著。アバタ有。長方形。一端は破損、他端は研磨。	A区、第一文化層	30	第78図17 図版26-13
12	ウミギク?	完	12	41	3.8	最短36mm厚さ2~4mm。周縁研磨。貝文様残→メンガイなどの二枚貝か。細長い台形。	1・2区	10	第78図15 図版26-11
13	イモガイ (大)	完	6	26	1.1	周縁と外殻研磨。長方形。	表採	167	第78図16 図版26-12
14	アンボンクロザメ	破	20	27	5.5	厚手、周縁研磨、殻口色残。側面研磨	A区、第一文化層	29	
15	アンボンクロザメ	完	25	67	12.6	打割成形、貝色残鮮明。165と接合。	表採	158	
16	アンボンクロザメ	完	19	46	5.9	周縁と外殻打割→製品製作のため、貝色残。	表採	160	
17	アンボンクロザメ	完	26	41	6.3	周縁と肩部打割、貝色残。158と接合。	表採	165	
18	アンボンクロザメ	完	26	65	17.1	周縁と外殻、肩部打割、色残。	表採	162	
19	アンボンクロザメ	完	30	60.3	14.2	周縁と外殻、肩部打割、貝色残。164と接合。体層は成長線に沿うようにわれる。	表採	161	第78図11 図版26-5
20	アンボンクロザメ	完	24	64	11.6	周縁と打割、貝色残。161と接合。	表採	164	第78図10 図版26-4
21	アンボイナ	完	44	34	7.6	打割のみ、肩部、貝色残有。	4区、白砂	66	
22	アンボイナ	完	54	62	6.4	周縁は切り取りか、研磨無。下縁剥離、孔は内殻→外殻。単孔、縦楕円	D区	17	
23	アンボイナ	完	44	45	22.6	打割のみ、肩部、貝色残。摩耗	4区、白砂	67	
24	ヒラマキイモ	完	43	63	12.4	外唇—規則的な剥離、体層、肩部有、加工無、貝色残。	17区	59	図版25-6
25	クロフモドキ?	完	76	75	77.3	アバタ有、自然摩耗か、貝色残。	31区	14	
26	イモガイ (大)	完	42	53	24.1	貝摩耗、内唇側に摩耗が強い。	A区	28	
27	ツボイモ	完	33.8	86	22.9	殻頂穿孔—自然、風化気味、わずかに色残、外唇破損。	表採	96	図版25-7
28	クロフモドキ	完	79	141	322	外唇摩耗、ヘビ貝有、色残。	表採	157	図版25-10
29	アンボンクロザメ	完	71	123	251	外唇有、体層(腹面)に研磨有、色残。殻軸除去孔—不定形、複数の打割。	9区	34	図版25-9
30	アンボイナ	完	34	72	51.2	貝色残、殻軸除去、殻頂穿孔	表採	172	図版25-8
31	イボカバイモ	完	45	74	52.6	殻軸—複数の打割除去、外殻摩耗、色残。殻頂は複数の打割。	3区	8	
32	イモガイ	完	45	68	46.3	アバタ有、大層有孔、腹面側(37mm×21mm)→自然か、背面(24mm×21mm)→摩耗、人工かも、外唇摩耗。	17区	51	
33	イモガイ	完	49.4	89	90.8	殻頂穿孔(→自然)、体層エグリ→摩耗による、ヘビ貝多量。	15・16区、白砂	106	

⑥小形イモガイ

マガキガイ、マダライモ、コマダライモなどの中形、小形のイモガイを加工したもので、体層を利用したもののイモガイ a タイプ、螺塔部を円盤状に加工した b タイプ、その他の c タイプなどに分けた。

a. イモガイ a タイプ（第79図・図版28）

マダライモなどの小形イモガイやマガキガイのイモガイの形そのままを用いるもので研磨や穿孔、摩耗などが確認される。出土総数は84個で出土量は多い方である。出土状況をみると層別には白砂層で11個、表採14個、第一文化層で59個出土している。グリット別には15・16区の14個が最も多く、次に26区の5個、5区の4個と続く。

加工は①殻頂及び背面と腹面を水平に研磨するもの1個（第79図10）、②背面及び腹面を研磨するもの1個（第79図9）、③殻頂及び体層下部を水平に研磨するもの8個（第79図1～3）、④体層下部のみを研磨するもの1個（32区4）、⑤殻頂及び腹面を研磨するもの2個（15・16区80、20・21区7）、⑥殻頂のみを研磨するもの7個（第79図8）、⑦腹面に打割で穿孔するもの1個（31区7）、⑧肩部が円味を帯びるもの（第79図2）である。⑧は他の加工したものと異なり、螺塔部全体が円味を帯びており、砂丘の打ち上げ貝を思われる。

貝種は中形がマガキガイ、アジロイモ、オトメイモなど8個、小形がマダライモ・コマダライモなど貝種が明瞭なものが41個、明瞭でないものが35個である。

これらの大きさの平均は殻径17.4mm、殻高21.7mm、重さ5.8g、孔径4.0mmである。

b. イモガイ b タイプ（第79図・図版28）

マガキガイや小・中形のイモガイ類の螺塔部を円盤状に加工あるいは摩耗したものは、ほぼ中央に穿孔するもので、貝玉（ビード）に利用したと思われる。b タイプは、①研磨したもの、②殻頂を摩耗するものに大別される。

①の螺塔を研磨するものは9個、②の摩耗するものは179個である。大きさをみると最も小さいものは、殻径4.96×4.83mm、重さ0.26g、孔0.9mm、最大は、殻径25.6×22.2mm、重さ6.99g、孔4.99×4.33mmを測り、最も大きさは殻径5mm～15mm、重量は2.0g以下のものであるが、グラフ2の散布図によると①径2mm大、②径5mm大、③径6～9mm、④10～15mm、⑤15～20mm、⑥20mm以上の6つのグループに分けられるようである。また、これらの製品の中でアバタが見られるものは全体の77%（146個）を占めるが、その内、29個（19.08%）は研磨されている。中には第G図16・19のようにアバタの大きさが径2mmになるのも見られる。

イモガイ科は肩部が角になる貝殻であるが、その肩部が円味を帯びるものが44個（23.4%）見られ、さらにそのうちの5個は、螺塔が研磨されている。

肩部が円味を帯びるものは、殻表を削り、螺塔の成長線も見られ、また、前述のイモガイ a タイプにも多数見られることから意図的に加工したものと思われる。

本来の研磨は、製品にする貝本体を研磨する面をすりあわせたものと思われるが、肩部が円味をもつものは、磨きに使う砂などの中に製品となるイモガイを忍ばせ、手でもむように加工したのではないかと想定される。

c. イモガイ c タイプ

第79図21と同図20はゴマフイモとアンボンクロザメの螺塔を円盤状に切り取り、研磨を施したものである。

イモガイ b タイプに比べて、大きく、螺塔部および体層部の研磨も顕著であるため、別の用途の可能性が考えられるので、イモガイ c（円盤状）として分類した。詳細は表、イモガイ b タイプ観察一覧に示した。

第24表 小形イモガイ (a タイプ) 観察一覧

区	遺物	殻径 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	孔 ヨコ mm	孔 タテ mm	観察事項	区	遺物	殻径 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	孔ヨ コ mm	孔タ テ mm	観察事項
1区	32	11.1	11.2	1.22	4	4	殻頂穿孔、研磨(穿孔)、体層下部研磨、外唇剥離及び肩部研磨。殻高10.6mm	25区	41	1.2	2.45	1.46			殻頂研磨穿孔、体層背腹面研磨明瞭。軸も打削。熱田貝塚第79図10、図版28-9
2区	2	17	18.9	4.4	3	2.9	殻頂穿孔。	25区	42	14.8	13.4	1.92	4.5	4.5	殻頂穿孔、体層下部研磨、肩部の突起は自然。第79図6、図版28-6
2区	4	15.9	27.6	4.09	-	-	外唇摩耗。近くに点刻文(自然)?	26区	17	10.6	14.2	1.07	1.9	1.9	腹面クレーラ状の凹み(アバタの●、大)
2区	35	19.8	25.6	6.14	4.4	5.3	殻頂穿孔→自然。	26区	18	18.2	31.8	5.6	4	4.5	肩部、殻頂、研磨。
2区	43	15.6	19.6	5.43	7.2	7.5	殻頂穿孔、研磨、体層下部研磨、外唇剥離3回。(殻高短17.9mm) 第79図1、図版28-1	26区	19	18.2	21.2	4.8	2.1	2.4	腹面、文様薄く摩耗。
3区	65	20.5	29.3	8.09	2.8	2.3	孔は自然。	26区	20	23.7	13.1	1.75	6.5	7	殻頂穿孔、研磨(深い)、研磨痕明瞭。体層下部研磨。殻高12.6mm 第79図5、図版28-5
3区	79	12.5	22	7.85	3.1	2.8		26区	22	14.6	18.2	2.01	4.6	3.7	殻径13.7mm。全体に風化気味、穿孔は自然か。外唇剥離。
4区	42	15.4	21.1	2.81	2.5	2.7	体層に研磨確認2面。	31区	7	23.5	39	13.44	9	12	肩部の一部、打削有。
4区	46	19.1	23.9	6.16	2.3	3.1	外唇剥離。	31区	10	20.4	24.5	7.77	2.5	2.5	体層下部若干摩耗、腹面若干摩耗。
4区1	53	12.4	15.5	1.41	3.7	4		31区	12	16.8	20	3.36	3.5	3.5	研磨か自然の摩耗か判断困難。
5区	7	17	18	3.79	1	1	肩部円味、外唇摩耗。内唇アバタ○。外唇近く肩部側に穿孔途中、孔貫通せず	31区	20	10.1	13.2	1	5	5	全面摩耗か研磨。
5区	15	15	20	4.68	3	3	外唇、肩部円味、色残。	32区	3	18	26.6	3.18	5.6	5.3	
5区	16	18	20	4.42	3	3	外唇、肩部円味、アバタ▲	32区	4	21	27	9.91	-	-	体層下部研磨、明瞭。他加工無。
5区	67	15.2	20.2	1.41	2.8	2.7		32区	5	18.9	25.3	4.77	7.4	7.7	外唇破損、肩部摩耗。
6区	64	30	48	15.65	-	-	背腹面とも研磨。背面に打削2カ所 第79図9、図版28-10	A区	15	24.8	28.5	12.09	10.6	9.1	殻頂穿孔。
6区	66	16.8	18.6	4.61	-	-	自然か。	A区	27	15.9	19.4	3.14	2.4	2.2	
6区	67	10.5	9.6	0.89	1.5	1.5	殻頂穿孔、摩耗、体層下部摩擦、外唇摩耗。第79図2、図版28-2	表採	47	23.5	17.7	4.98	4	4	殻頂穿孔、研磨、体層下部自然。第79図8、図版28-8
6区	36	17.6	19.4	4.02	3.1	2.9		表採	105	16.8	22.7	4.1	3.4	3.2	肩部(腹側)に加工痕。
9区	37	10.8	10	1.07	2.1	2.1	殻頂穿孔、研磨。外唇摩耗。殻高10.1mm	表採	106	17.9	16.6	3.5	6.6	6.8	全面摩耗、肩部摩耗、体層下部摩耗。
10区	31	10.5	28.9	3.32	9.7	9.6	殻頂穿孔、研磨、体層下部研磨、幅が短い。外唇剥離。(殻高短17.4mm) 第79図3、図版28-3	表採	107	22.2	12	1.62	3.8	4.2	殻頂穿孔、研磨(研磨痕)、体層下部研磨。11.5mm
10区	34	10.5	8.5	0.82	1.8	1.8	殻頂穿孔、研磨、体層下部研磨、外唇剥離。殻高8.0mm 第79図4、図版28-4	表採	108	9.3	11	0.83	4	4	殻頂穿孔、研磨、肩部円味。殻高9.8mm
12区	61	19.9	26.1	7.05	1.6	1.7	殻頂穿孔、外唇破損及び摩耗。	表採	174	14.5	16.6	2.68	4.8	4.5	殻頂肩部研磨、外唇摩耗
12区	84	18.4	18.6	4.41	6.1	6.1	肩部摩耗、腹面も研磨有。	岬・マツノト半島	17	13.4	12.7	1.88	4	4.3	肩部摩耗顯著。体層下部摩耗。
12区	85	16.5	21.4	4.15	1.1	0.9	ヤドカニ(腹面の摩耗球形状)か。	15・16区	16	18	24.8	4.48	4.1	3.7	肩部に大きなアバタ。
12区	86	24.2	31.7	12.77	2.3	2	2殻、焼ける。腹面一横にヒビ。	15・16区	18	16	20.6	2.92	6.3	6.3	肩部摩耗。
12区	87	12	14.7	1.35	1.5	1.6	体層、斜めに摩耗→軸無。	15・16区	28	24.8	29.8	12.8	2.4	2.9	自然?
13区	5	15.6	17.8	3.12	1.9	1.9	全面摩耗(加工の仕方、要検) 体層下部摩耗	15・16区	29	20.4	27.9	8.06	3	3	殻表は、自然のまま。
14区	38	19.6	26.3	6.45	3.3	2.8	全面摩耗、殻頂穿孔、肩部円味13区5の前段階。	15・16区	30	19.4	20	5.36	13.1	13.1	殻頂研磨、体層下部研磨、外唇破損。殻高(短18.8mm)。螺旋塔が無くなり、孔は大きい。
14区	39	24.2	32.8	7.97	9.2	9.3	全面摩耗、殻頂穿孔、自然の可能性高い。	15・16区	32	16.5	17.7	2.91	3.9	3.9	体層下部欠損。
15区	1	18.9	22	4.43	5.1	5	殻頂穿孔→自然?肩部の摩耗。	15・16区	33	13.7	15.5	2.12	-	-	肩部摩耗。文様残→マダライモカ。
17区	51	45	68	46.34	9	8	殻頂穿孔、アバタ▲、体層有孔(腹面(37×21)→自然か、背面(24×21)→摩耗、人工かも)、体層下部摩耗	15・16区	77	10.2	13	1.1	2	2	摩耗。貝文様残→マダライモカ。
18区	33	12.8	13.7	1.5	4.5	4.5	外唇、殻頂穿孔。肩部摩耗。貝一文様残→マダライモかも。	15・16区	78	15.3	17.6	2.03	4.9	4.9	死貝化→かなりすんでいる。
18区	58	26	38	17.75	10	10	殻頂穿孔、外唇若干の剥離、体層下部無加工。アバタ○	15・16区	79	23	37.4	10.23	4	3.9	アバタ、貝殻の中までみられる。殻頂穿孔。
18区	59	25.1	18.8	6.67	3.6	3.6	殻頂穿孔、研磨(研磨痕)。体層下部自然。外唇剥離無。アバタ有り。殻高17.9mm	15・16区	80	19	26.5	7.62	3.9	3.9	殻頂穿孔、研磨?腹面側摩耗か研磨有り。
18区	60	18	15	3	7.5	8.5	殻頂穿孔、打削、外唇破損	15・16区	81	16.4	23.7	4.73	1.7	1.7	殻頂穿孔、研磨?腹面摩耗強い。
18区	63	10.4	13.2	0.68	1.8	1.8	摩耗、腹面欠、アバタ▲。自然かも、殻頂穿孔。	15・16区	82	18.9	25.3	6.05	3.6	3.5	殻頂穿孔。肩部、腹面側摩耗。
18区	75	9.5	13.8	1.23	3.8	3.6	肩部摩耗、明瞭。	15・16区	83	17.9	22.3	4.57	2.8	2.8	殻頂穿孔。
19区	1	16	18.6	3.34	2.2	2.2	殻径13.8mm、肩部円味、外唇摩耗、体層下部摩耗。	15・16区	84	15.3	20.5	2.72	3.1	3.1	殻頂穿孔、体層一腹面に孔(5×4mm)、摩耗、自然?
19区	41	15	20.4	2.8	2.3	2.4	全面摩耗。	15・16区	106	49.44	89	90.78	7	8	殻頂穿孔(→自然) 体層エグリ→摩耗による、ヘビ貝多。素材貝?
22区	1	16.8	29.9	5.2	4.9	4.8	全面摩耗。	20・21区	7	23	42	11.41	4	4	体層粗孔(13×12mm)→研磨痕?腹面にも研磨あり。
22区	2	10.7	10.2	1.12	0.1	0.1	体層下部摩耗。								
25区	38	16.7	21.3	2.82	5.9	5.9	摩耗(著しい)。体層の孔は摩耗による。								
25区	39	27.3	39.5	24.35	4.2	5.4	殻頂穿孔→打削、摩耗。								
25区	40			12.2	5.63		殻頂穿孔、肩部研磨								

註: 捕図・図版番号は紙面の都合上「観察事項」の項にゴシック体で示した。

第25-a表 小形イモガイ (b タイプ) 観察一覧

NO.	貝種・種 残存	殻径 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区	遺物 番号	層	図番号
1	イモガイ 完	14.5	13.6	0.7	7	6.4	殻頂摩耗、肩部円味	1区	33	第一文化層	
2	イモガイ 完	9.5	8.7	0.4	2.5	2.5	殻頂摩耗、肩部円味	1区	34	第一文化層	
3	イモガイ 完	8.8	8.2	0.3	1.5	1.5	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	1区	35		
4	イモガイ 完	11.2	10.6	0.4	3.5	3.2	殻頂摩耗、アバタ●	1区	36		
5	イモガイ 完	7.4	7.2	0.2	1.4	1.4	殻頂摩耗	1区	38	第一文化層	
6	イモガイ 完	10.2	8.7	0.4	-	-	殻頂摩耗、アバタ●	1区	39	第一文化層	
7	イモガイ 完	8.4	7.6	0.2	2.1	1.8	殻頂研磨、アバタ●	1区	41	第一文化層	
8	マガキガイ 完	16.9	16.9	1.8	4.2	3.9	殻頂研磨、アバタ●	1区	43	第一文化層	
9	イモガイ (マダラ イモ)	11.5	10.5	0.4	3.7	3.6	殻頂研磨、文様残	2区	55		
10	イモガイ 完	12	10.3	0.6	2.2	2.1	殻頂摩耗、肩部円味	2区	56	第一文化層	
11	イモガイ 完	15.6	14.4	1.4	4.9	4.8	殻頂摩耗、肩部円味、穿孔	3区	68	第一文化層	
12	イモガイ ?	12.6	11.6	0.8	2.2	2.1	殻頂摩耗、肩部円味、穿孔	3区	70	第一文化層	
13	イモガイ 完	11.1	10.2	0.7	1.6	1.6	殻頂研磨	4区	12	第一文化層	
14	イモガイ 完	9.5	8.8	0.4	1.5	1.5	殻頂研磨	4区	13	第一文化層	
15	マダライモ 完	14.1	13	1.8	2.5	2.3	殻頂摩耗、体層斜めに摩耗。	4区	18		
16	イモガイ 完	16.8	13.2	0.8	3.5	3.1	殻頂摩耗、アバタ多	4区	43	第一文化層	
17	イモガイ 完	14	12.8	0.8	6.6	5.5	殻頂研磨	4区	44	第一文化層	
18	イモガイ 完	12.2	10.2	0.8	1.6	1.6	殻頂摩耗、肩部円味、不定形。	4区	56	第一文化層	
19	イモガイ 完	5	4.8	0.3	0.9	0.9	殻頂摩耗	4区	57	第一文化層	
20	イモガイ 完	12.2	10.8	0.7	2.8	2.6	殻頂摩耗	4区	58	第一文化層	
21	イモガイ 完	12.3	11.1	0.7	1.8	1.8	殻頂摩耗、肩部円味	4区	59		
22	イモガイ 完	8.7	7.9	0.3	1.3	1.3	殻頂摩耗、不定形	4区	60	第一文化層	
23	イモガイ 完	11.7	11.3	0.7	1.8	1.6	殻頂摩耗、不定形	4区	61	第一文化層	
24	イモガイ 完	13.6	11.1	0.8	4.4	4.3	殻頂摩耗顕著、不定形	4区	62	白砂層	
25	イモガイ 完	10.1	9	0.2	3.5	3.3	殻頂摩耗、肩部円味、不定形、孔中央よりずれ	4区	63	第一文化層	
26	マガキガイ 完	21	9.2	2	8.8	6.9	殻頂摩耗、焼け	4区	64		
27	中形イモガイ 完	21.8	19.7	5	2.5	2.2	殻頂摩耗、体層円味	4区	65	第一文化層	
28	イモガイ 完	12	10.9	0.7	3.1	2.5	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ◎	5区	43		
29	イモガイ 完	14.2	12.6	0.7	3.6	3.4	殻頂摩耗、丁寧	5区	44		
30	イモガイ 完	13.3	12	0.7	3.4	3.4	殻頂摩耗、アバタ●	5区	45		
31	イモガイ 完	18.6	17.8	1.7	6.9	6.5	殻頂摩耗、アバタ●	5区	46		
32	マガキガイ 完	25.6	22.2	7	5	4.3	焼け、肩部円味、アバタ●	5区	55		
33	イモガイ 完	9	8.6	0.5	0.9	0.9	殻頂摩耗、アバタ◎	7区	29	第一文化層	
34	マガキガイ 完	23	20.1	4.5	8.4	6.9	摩耗、殻頂研磨	8区	4	第一文化層	
35	イモガイ 完	10.4	10.1	0.6	1.7	1.6	摩耗、肩部円味、殻にヒビ	8区	5	第一文化層	
36	マガキガイ 破	20.9	18.5	2.4	8.1	7.3	焼けヒビ、摩耗	8区	9	白砂層	
37	イモガイ 完	10.3	9.1	0.4	1.5	1.3	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	8区	36		
38	イモガイ 中	25.9	21.7	3.8	10.7	9.6	殻頂摩耗、アバタ◎	8区	37	第一文化層	

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第25-b表 小形イモガイ (bタイプ) 観察一覧

NO.	貝種・種 残存	殻径 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区	遺 物 番 号	層	図番号
39	イモガイ (中)	完	15.2	11.8	0.7	4.8	4.3 摩耗、アバタ○	8区	38	第一文化層	
40	イモガイ	完	9.3	8.5	0.4	1.8	1.7 殻頂摩耗、肩部円味、アバタ○	8区	39	第一文化層	
41	イモガイ	完	11.6	11	0.7	1.5	1.4 殻頂摩耗、肩部円味	8区	40	第一文化層	
42	イモガイ	完	8.5	7.8	0.2	1.6	1.5 摩耗、肩部円味	8区	41	第一文化層	
43	イモガイ	完	6.9	6.1	0.1	1.8	1.5 摩耗、肩部円味	8区	42	第一文化層	
44	イモガイ	完	17.8	17.2	2.7	3.5	3.1 殻頂摩耗、穿孔明瞭、アバタ●	9区	32		
45	イモガイ	完	10.1	9.9	0.6	3.2	3 殻頂摩耗、アバタ●	11区	29	第一文化層	
46	中形イモ ガイ	完	17.3	16	2.2	3.4	3.6 摩耗、アバタ○	11区	48	第一文化層	
47	イモガイ	完	12.1	11.8	0.7	3.5	3.4 殻頂摩耗、研磨か、肩部円味、アバタ○	12区	90		
48	マガキガイ	完	17.8	15.8	1.7	5.6	5 殻頂研磨、アバタ●	13区	3	第一文化層	
49	イモガイ	完	18.4	16.7	3	-	- 殻頂摩擦、穿孔無、アバタ●	13区	21		
50	イモガイ	完	17.2	16.8	3.3	-	- 殻頂摩耗、穿孔無、肩部円味	14区	32		
51	イモガイ	完	10.4	9.2	0.3	2.4	2.3 殻頂摩耗、アバタ○	14区	34		
52	イモガイ	完	10.8	10.7	0.7	2.6	2.4 殻頂摩耗、アバタ○	14区	40		
53	イモガイ	完	9.6	9.1	0.4	1	1 殻頂研磨	15区	2	第一文化層	
54	イモガイ	完	10.7	9.3	0.4	2.3	2.3 殻頂研磨、不定形	15区	3	第一文化層	
55	イモガイ	完	9.3	8.7	0.4	1.4	1.3 殻頂研磨	15区	4	第一文化層	
56	イモガイ	完	9.9	9.4	0.3	2.5	2.4 殻頂研磨	15区	5		
57	イモガイ	完	9.8	9	0.4	1.4	1.4 殻頂研磨	15区	6		
58	イモガイ	完	9.6	9.3	0.3	2.3	2 殻頂摩耗	15区	7		
59	イモガイ	完	9.9	9.1	0.7	-	- 殻頂摩耗、穿孔無、アバタ●	15区	50	第一文化層	
60	イモガイ	完	9.5	9.3	1	0.8	0.6 殻頂摩耗、肩部円味	17区	4		
61	イモガイ	完	8.9	8.5	0.2	2.2	2.2 殻頂摩耗、アバタ○	17区	52		
62	イモガイ	完	9.7	9.4	0.4	1.3	1.1 殻頂摩耗、体層ヒビ、断面一山	17区	53		
63	イモガイ	完	8.5	7.7	0.4	1.5	1.5 殻頂摩耗、肩部円味、断面一饅頭、アバタ○	17区	54		
64	イモガイ	完	12.3	11.8	0.5	3.4	3 殻頂摩耗、断面一円盤、アバタ○	17区	55	第一文化層	
65	イモガイ	完	8.3	7.6	0.3	-	- 殻頂穿孔無、断面一饅頭、アバタ○	17区	56		
66	イモガイ	完	8.9	7.8	0.2	2.3	2.1 殻頂摩耗顕著、断面一円盤	17区	57		
67	イモガイ	完	9.1	8.5	0.2	1.8	1.8 殻頂摩耗、不定形、断面一円盤	17区	58		
68	イモガイ	完	8.9	8.3	0.2	1.3	1.2 殻頂摩耗、断面一山、アバタ●	17区	60		
69	イモガイ	完	8.4	7.1	0.3	2	2 殻頂摩耗、アバタ●	18区	1		
70	イモガイ	完	7.8	7	0.2	1.5	1.5 殻頂摩耗、肩部円味、焼け	18区	2		
71	イモガイ	完	18.1	17.5	2.2	3.8	3.5 殻頂摩耗、肩部円味、体層円味、断面一饅頭	18区	62		
72	マガキガイ	完	16.2	13.6	1.2	6.1	5.7 摩耗、体層円味、断面一円盤	18区	64		
73	イモガイ	完	14	12.8	1	1.1	1.1 殻頂摩耗、断面一円盤、アバタ●	18区	65		
74	イモガイ	完	9.5	8.2	0.3	1.7	1.6 殻頂研磨穿孔、断面一円盤、アバタ●	18区	78		
75	イモガイ	完	10.5	9.3	0.5	1.6	1.5 殻頂摩耗、断面一円盤、アバタ●	18区	79		
76	イモガイ	完	8.8	8.4	0.3	1.6	1.6 殻頂摩耗、体層円味、アバタ●	18区	80		
77	イモガイ	完	8.4	6.6	0.4	1.4	1.3 殻頂摩耗穿孔、断面一饅頭、不定形、アバタ●	18区	81		

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第25-c表 小形イモガイ (bタイプ) 観察一覧

NO.	貝種・種 残存	殻径 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区	遺物 番号	層	図番号
78	イモガイ 完	8.7	8	0.2	2.6	2.4	殻頂摩耗穿孔、焼け、体層円味	18区	82		
79	マダライ モ 完	8.9	7.1	0.2	2.6	2.5	殻頂摩耗、貝の文様明瞭、不定形	18区	83		
80	イモガイ 完	7.2	6.7	0.2	0.7	0.7	殻頂摩耗、体層円味、アバタ●	19区	2		
81	イモガイ 完	16.9	15.7	2.7	1.9	1.8	殻頂摩耗、アバタ●	19区	3		
82	マガキガイ イ 完	17	16.3	2.3	—	—	アバタ◎、死貝	19区	35		
83	イモガイ 完	7.3	6.9	0.3	—	—	殻頂摩耗、穿孔無、体層円味	19区	42		
84	マガキガイ イ 完	19.8	18.7	1.8	9.7	8.9	殻頂摩耗、穿孔、アバタ●	19区	43		
85	中形イモ ガイ 完	22.8	20.1	2.9	8.8	8	殻頂摩耗、焼け、ヒビ、アバタ●	19区	44		
86	イモガイ 完	7.4	6.7	0.2	1.8	1.7	殻頂摩耗、アバタ◎	19区	45		
87	イモガイ 完	7	6.1	0.2	1.5	1.4	殻頂研磨明瞭、断面一円盤、体層円味、アバタ●	19区	46		
88	イモガイ 完	7.8	7.5	0.2	1	1	殻頂摩耗、体層円味、アバタ●	19区	47		
89	イモガイ 完	9.8	9.8	0.6	2	1.8	殻頂摩耗、肩部円味。断面一饅頭	19区	48		
90	イモガイ 完	10.9	10.4	0.4	3.8	3.6	殻頂摩耗、体層側不揃、アバタ●	19区	49		
91	イモガイ 完	10.9	10.5	0.4	3.8	3.7	殻頂摩耗、アバタ◎	19区	50		
92	イモガイ 完	7.9	7.7	0.2	1.5	1.3	殻頂研磨穿孔、断面一円盤、体層円味、アバタ●	19区	51		
93	イモガイ 完	13.8	12.8	0.7	3.3	3	殻頂摩耗、肩部円味	20区	3		
94	イモガイ 完	14.3	13	1	1.8	1.7	殻頂摩耗、アバタ●	20区	5		
95	イモガイ 完	8	7.6	0.7	2.6	2.5	殻頂摩耗、体層不揃	20区	6		
96	イモガイ b 完	10.9	10	0.7	1.4	1.3	殻頂摩耗、アバタ●	20区	7		
97	イモガイ 完	6.7	6.3	0.2	1.5	1.3	殻頂摩耗、体層不揃、アバタ●	21区	2		
98	中形イモ ガイ 完	16.7	15.7	1.8	3.6	3	殻頂摩耗、体層円味、アバタ●	21区	3		
99	イモガイ 完	11.7	9.4	0.5	2.9	2.8	殻頂摩耗、体層不揃、アバタ●	21区	4		
100	マガキガイ イ 完	22.8	20.7	4	7.8	6.6	焼け、アバタ有	22区	3		
101	イモガイ 完	16	14.7	2	3.9	3.7	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	22区	4		
102	イモガイ 完	15.7	13.7	1.3	2.2	2.1	殻頂摩耗、体層円味、アバタ●	23区	2		
103	イモガイ 完	9.9	8.3	0.4	2.1	1.9	殻頂摩耗、穿孔、不定形、体層円味、アバタ●	24区	58		
104	イモガイ 完	14.7	14	1.1	3.3	3.1	殻頂摩耗、穿孔、体層円味	24区	59		
105	イモガイ 完	10.5	10.1	0.5	1.4	1.2	殻頂摩耗、穿孔、体層円味、アバタ●	24区	60		
106	イモガイ 完	12.9	11.6	1.2	2.1	1.8	殻頂摩耗、穿孔明瞭、アバタ●	25区	1		
107	イモガイ 完	13.4	12.3	0.9	—	—	殻頂摩耗、穿孔無、アバタ●	25区	2		
108	イモガイ 完	7.8	7.1	0.2	1.1	1.1	殻頂摩耗、アバタ●	25区	3		
109	イモガイ 完	5.1	4.9	0.1	1.1	1	殻頂摩耗、肩部円味	25区	5		
110	イモガイ 完	11	10.4	0.6	2.2	2.1	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	25区	15		
111	イモガイ 完	11.6	10.1	0.8	0.8	0.7	殻頂摩耗顯著、肩部円味、アバタ●	25区	16		
112	イモガイ 完	8.9	7.9	0.3	1.6	1.5	殻頂摩耗、アバタ◎	25区	17		
113	小形イモ ガイ 完	11.6	10.8	0.4	1.7	1.7	殻頂摩耗、アバタ◎	25区	43		
114	小形イモ ガイ 完	14.4	13.6	1	3.2	2.8	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	25区	44		
115	小形イモ ガイ 完	13.3	12.4	1	2.6	2.5	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	25区	45		

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第25-d表 小形イモガイ (bタイプ) 観察一覧

NO.	貝種・種 残存	殻径 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区	遺物 番号	層	図番号
116	小形イモ ガイ 完	10.2	10.1	0.5	1.7	1.6	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	25区	46		
117	小形イモ ガイ 完	10.1	9.4	0.3	2.3	2.2	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	25区	47		
118	小形イモ ガイ 完	6	2.5	0.2	1.6	1.5	殻頂研磨顯著、体層自然、アバタ●	25区	48		
119	イモガイ 完	7.9	7.6	0.3	1.4	1.4	殻頂研磨明瞭、体層円味。	26区	2		
120	イモガイ 完	12.2	10.1	0.9	2	2	殻頂摩耗、体層不揃。	26区	3		
121	イモガイ 完	7.2	6.5	0.2	1.2	1.1	殻頂摩耗	26区	21		
122	イモガイ 完	7.7	7	0.2	1.7	1.6	殻頂摩耗	26区	23		
123	イモガイ 完	7.4	6.9	0.1	1.5	1.6	殻頂摩耗、焼け、アバタ○	26区	24		
124	イモガイ 完	12.2	11.2	0.7	2.3	2.2	殻頂摩耗、肩部円味	26区	25		
125	イモガイ 完	13.5	12.3	0.9	3.7	3.6	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	26区	26		
126	イモガイ 完	13.4	12.4	1.1	3.4	2.4	殻頂摩耗、アバタ●	26区	27		
127	小形イモ ガイ 完	14.7	12.2	1.2	2.3	2.2	殻頂研磨、アバタ●	31区	13		
128	イモガイ 完	8.5	7.6	0.4	-	-	摩耗顯著、穿孔無、体層整う、ヒビ	32区	9		
129	イモガイ 完	8.7	8.5	0.4	1.1		殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	A区	5		
130	イモガイ 完	9.8	8.9	0.4	2.1	1.9	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ○	A区	6		
131	イモガイ 完	9.5	10	0	1.8	1.6	厚さ4.1mm、殻頂摩耗、断面一山、アバタ●	F·G 区	24		
132	イモガイ 完	9	8.9	0.5	1.4	1.3	殻頂摩耗	表採	9		
133	マガキガイ 完	18.6	17.3	2.9	2.8	2.7	殻頂摩耗	表採	10		
134	イモガイ 完	12.8	11	0.6	3.3	3.1	殻頂摩耗	表採	11		
135	マガキガイ 完	24	21.4	6	8.2	7.2	殻頂摩耗	表採	17		
136	イモガイ 完	8	7.4	0.3	-	-	殻頂研磨	表採	131		
137	イモガイ 完	14.5	13.3	1.6	1.8	1.8	殻頂摩耗、焼け	表採	132		
138	イモガイ 完	7.9	6.8	0.1	2.4	2.3	殻頂摩耗	表採	133		
139	イモガイ 完	10	9.1	0.6	1.5	1.3	殻頂やや摩耗、肩部微突起、アバタ○	表採	134		
140	イモガイ 完	10.2	9.6	0.5	1.4	1.4	殻頂摩耗	表採	135		
141	マガキガイ 完	24.5	22.3	4.8	9.2	7.6	アバタ○	表採	136		
142	イモガイ 完	10.8	10	0.5	1.4	1.4	アバタ○	表採	137		
143	イモガイ 完	14.5	12.6	1.5	1.8	1.7	アバタ○、体層不揃	表採	138		
144	イモガイ 完	17.4	16.3	2.6	3.2	3	殻頂摩耗、肩部円味、体層不揃	表採	139		
145	マガキガイ 完	21.7	20.1	4.6	8	7.8	殻頂摩耗、肩部円味	表採	140		
146	イモガイ 完	8.9	8.2	0.4	-	-	殻頂摩耗、穿孔無、アバタ●	表採	141		
147	イモガイ 完	12.5	10.1	0.7	2.4	2.3	殻頂摩耗、アバタ●	表採	142		
148	イモガイ 完	7.2	6.9	0.2	1.3	1.2	殻頂摩耗、肩部円味	表採	145		
149	イモガイ 完	8.8	8.3	0.2	2.6	2.5	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	表採	147		
150	イモガイ 完	10.6	9.9	0.5	3.8	3	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	表採	149		
151	イモガイ 完	11	10.4	0.5	1.9	1.8	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ○	表採	150		
152	イモガイ 完	10.7	9.7	0.5	1.5	1.4	殻頂摩耗、肩部円味	表採	151		
153	イモガイ 完	12.5	10.8	0.5	2.6	2.6	殻頂摩耗、肩部円味	表採	152		

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第25-e表 小形イモガイ (b タイプ) 観察一覧

NO.	貝種・種 残存	殻径 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区	遺物 番号	層	図番号
154	イモガイ 完	12.1	10.5	0.7	3	2.8	殻頂摩耗、肩部円味	表採	153		
155	イモガイ 完	9.1	9	0.3	1.8	1.5	殻頂摩耗、肩部円味、体層不揃、アバタ◎	表採	154		
156	イモガイ 完	8.9	8.4	0.4	1.5	1.4	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	表採	155		
157	イモガイ 完	17	17	1.8	5.5	5	摩耗、アバタ◎	15・ 16区	19		
158	マガキガイ 完	22.9	20.5	4.5	6.1	5.2	殻頂研磨、アバタ◎	15・ 16区	34		
159	イモガイ 完	13	11.5	1	-	-	殻頂研磨、穿孔無、アバタ◎	15・ 16区	35		
160	イモガイ 完	12.3	10.4	0.7	2.2	2.2	殻頂摩耗	15・ 16区	36		
161	マガキガイ 完	20.6	18.8	3.8	6.3	5.7	殻頂摩耗、肩部円味、アバタ●	15・ 16区	85		
162	マガキガイ 完	24	22.1	4.9	8.8	7.8	両面摩耗	15・ 16区	87		
163	イモガイ 完	9.8	8.9	0.4	3	2.8	摩耗	15・ 16区	89		
164	イモガイ 完	15.1	14.3	1.1	2.8	2.8	摩耗・肩部円味、焼け、アバタ●	15・ 16区	90		
165	イモガイ 完	10.3	8.9	0.3	2.9	2.6	殻頂摩耗、アバタ●	15・ 16区	92		
166	イモガイ 完	11	10.3	0.7	1.9	1.7	殻頂摩耗顯著、肩部円味、アバタ◎	15・ 16区	95		
167	イモガイ 完	12.2	11.9	1	1.7	1.7	殻頂摩耗、ヒビ→焼け、アバタ●	15・ 16区	104		
168	イモガイ 完	7.8	6.9	0.1	2.9	2.7	殻頂摩耗、アバタ●	15・ 16区	105		
169	イモガイ 完	11.6	10.3	0.7	-	-	殻頂摩耗、体層不揃、貝文様残、アバタ●	20・ 21区	6		
170	イモガイ 破	7.2	6.8	0.2	1.4	1.3	殻頂摩耗、焼け?、周縁ハガレ	20・ 21区	27		
171	イモガイ 完	7	6.9	0.1	1.5	1.5	殻頂、体層研磨、焼け	22・ 23区	40		
172	イモガイ 完	7.1	6.6	0.1	1.6	1.5	殻頂摩耗、体層円味	22・ 23区	47		
173	イモガイ 完	10	9.6	6.2	1.1	1	殻頂研磨、肩部円味、アバタ●	1区	37	第一文化層	
174	イモガイ 完	7.9	7.3	0.2	1.7	1.5	殻頂研磨、アバタ●	1区	42	第一文化層	
175	イモガイ? 完	10.6	9.9	0.6	3.1	3.1	殻頂研磨明瞭、肩部円味、穿孔	3区	69	第一文化層	
176	イモガイ 完	5.7	5.3	0.1	1.6	1.6	殻頂摩耗、肩部円味	表採	146		
177	イモガイ (ゴマフ イモ?) 完	2.7	23.1	6.1	4.2	4	両面研磨顯著、貝文様有。 Cタイプ	15・ 16区	86		第79図26 図版28-20
178	イモガイ 完	7.5	7.5	0.3	1.8	1.8	殻頂、体層研磨カド、焼け	22・ 23区	21		
179	イモガイ 完	9.7	8.2	0.2	3.3	3.2	殻頂研磨	1区	40	第一文化層	第79図11 図版28-11
180	イモガイ 完	7.5	7	0.2	1.6	1.6	殻頂研磨明瞭、体層自然、焼け	表採	144		第79図12 図版28-12
181	イモガイ 完	8.3	7.6	0.3	2.7	2	殻頂研磨一斜め	3区	110	第一文化層	第79図13 図版28-13

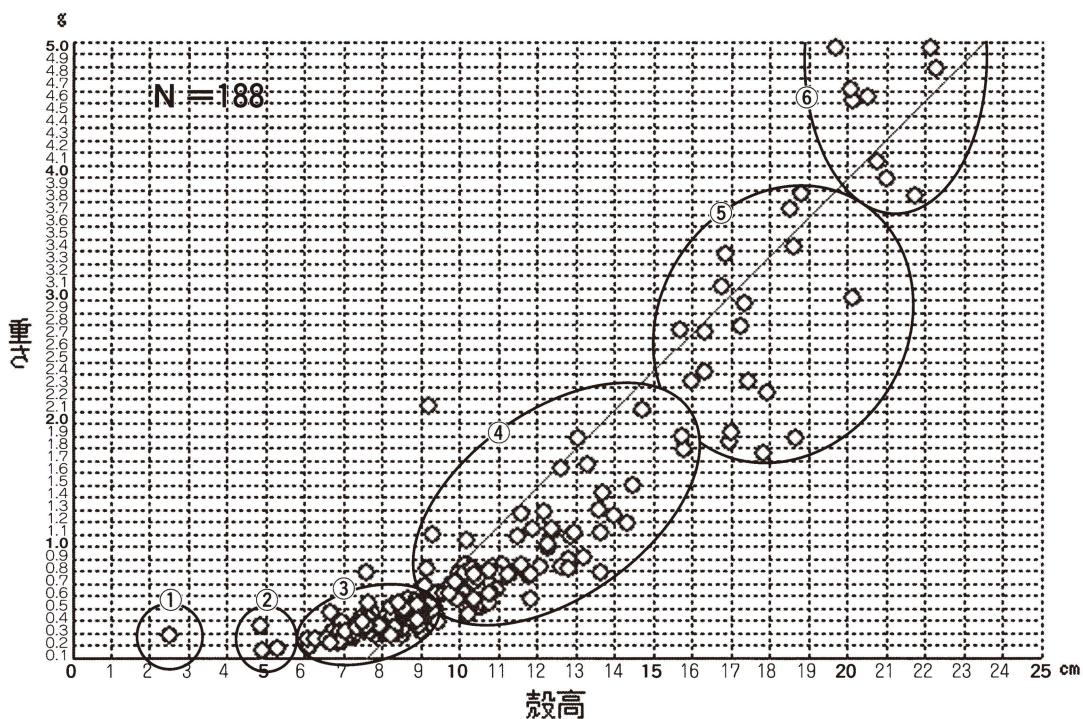
註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第25-f表 小形イモガイ (bタイプ) 観察一覧

NO.	貝種・種 残存	殻径 ヨコ mm	殻高 タテ mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区	遺物 番号	層	図番号
182	イモガイ 完	9.6	8.9	0.3	3.4	3.2	焼け、殻頂研磨、アバタ●、側面は不均一	15・16区	91		第79図14 図版28-14
183	イモガイ 完	10.6	10.2	0.4	3.9	3.8	殻頂研磨	表採	148		第79図15 図版28-15
184	イモガイ 完	11.4	10.7	0.5	3.6	3.6	殻頂研磨、研磨明瞭、アバタ●	14区	33		第79図16 図版28-16
185	マガキガイ 完	20.9	17.9	2.2	8.3	7	殻頂摩耗、アバタ●	15・16区	33		第79図17 図版28-17
186	イモガイ 完	19.1	18.5	3.6	-	-	殻頂研磨、肩部円味	表採	173		第79図18 図版28-18
187	マガキガイ 完	22.4	21	3.9	9.2	8.5	殻頂摩耗、一部加工有、全面摩耗、光沢有	4区	16		第79図19 図版28-19
188	中形イモガイ 完	33.1	29.2	13.3	4.5	4.1	アンボンクロザメかも、殻頂、体層研磨、有孔、焼け、ヒビ Cタイプ	16区	1		第79図21 図版28-21

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

グラフ2：小形イモガイ bタイプ 殻径と重さの分布



⑦ノシガイ (第79図・図版28)

ノシガイを加工したものは3個出土した。その内訳は腹面と外唇に研磨を施したもの第79図24 (図版28-22) 2個、背面および腹面を摩耗したもの (図版28-24) 1個である。前者の2点は31区、後者は4区で出土している。

ノシガイ製品は種子島広田遺跡（古墳時代相当）で埋葬人骨に共伴し、沖縄諸島の津堅島キガ浜貝塚（縄文後期相当）で報告例があるが、本遺跡出土の製品の加工の仕方は、種子島広田遺跡出土のものに類似している。詳細は第26表に観察一覧を示した。

第26表 ノシガイ製品観察一覧

NO.	貝種	完 破	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	観察事項	区 + 層	遺物 番号	第 図 図版
1	ノシガイ	完	14.4	17.5	2.24	殻口および腹面研磨、殻頂欠。色残。腹面に研磨の結果孔、楕円。	31区	5	第79図24 図版28-22
2	ノシガイ	完	12	15.9	1.47	殻口および腹面研磨、殻頂は摩耗欠。色残。腹面に研磨の結果、孔、楕円。	31区	6	図版28-23
3	ノシガイ	完	11.1	14.9	0.63	摩耗、アバタ有。色無。	4 区	52	図版28-24

⑧フデガイ (図版28-32)・タマガイ科 (第79図・図版28-25)

図版28-32はフデガイ科の貝で殻頂と殻口の両端を欠き、殻全体を摩耗するものである。殻頂、殻口の両端断面は舌状に円味を帯び、殻全体もかなり摩耗する。

第79図 (図版28) 25はタマガイ科の貝で前者と同様、殻全体を摩耗し、アバタもかなり見られることから打ち上げ貝と思われる。

⑨マクラガイ (第79図・図版28)

ヌノメマクラなどマクラガイ科の貝の螺塔部を中心に研磨あるいは摩耗が見られるもので、11個出土した。特に第79図26・27は殻頂に研磨が確認できる。

第79図27はマクラガイの中でも大型で、殻頂に加工痕が確認される。同図26は中形で殻頂と体層下部に加工痕が認められる。小形イモガイ科の製品同様に摩耗が主体であり、人工品かどうかについては今後に問題を残すものである。

⑩ソデガイ類 (第79図28・図版28-33)

ソデガイ類の貝を背面と腹面の両面から研磨し、厚さ11mmに均一に加工されている。また、殻頂および前溝孔付近も研磨されている。いずれの面も研磨痕が顕著である。加工の状況から装飾品と思われる。

この他に同種の貝が摩耗したものも出土している。摩耗が顕著で、前述のイモガイやマクラガイ同様自然に摩耗した貝も利用された可能性があるため、報告しておく。

⑪アクキガイ科

5区で2個、15・16区で1個の計3個出土している。特に5区65は前述のソデガイ類と同様に厚さが均一である。貝全体に摩耗が認められ、打ち上げ貝のようである。

第27-a表 巻き貝製品観察一覧

No.	貝種	完 破	幅 (殻長) mm	高 (殻高) mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区 + 層	遺物 番号	第 図 図版
1	フデガイ科	完	25	26	4.5	-	-	殻(殻頂および殻口欠損、全面摩耗)。	13区、第一文化層	2	図版28-32
2	マクラガイ?	完	18.2	35.8	4.5	10.3	10.8	殻(自然摩耗、色残、アバタ●)。孔(殻頂、楕円、摩耗)	11区	8	
3	マクラガイ	完	28	55.9	17.1	9.8	8.7	殻(全面摩耗、アバタ▲)。孔(外→内、殻頂、摩耗)	13区、第一文化層	1	
4	マクラガイ	完	22.5	43.7	7.8	6.8	6.8	殻(全面摩耗、アバタ●、剥離→摩耗)。孔(外→内、殻頂、内)	14区	37	
5	(マクラガイ) ヌメリマクラ?	破	21.6	40.8	7	-	5.1	殻(全面摩耗、色残、アバタ●)。孔(①殻頂-摩耗、②腹面-打割)	16区	2	
6	マクラガイ	完	14.6	26.6	3.6	6.3	6.3	殻(全面摩耗)。孔(外→内、殻頂、摩耗)	21区	1	

註:「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第27-b表 卷き貝製品観察一覧

No.	貝種	完 ／ 破	幅 (殻長) mm	高 (殻高) mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区 + 層	遺物 番号	第 図 図版
7	マクラガイ	完	17.4	33.3	4.5	5	5.1	殻(腹・背面殻表剥離で楕円の剥がれ。摩耗、色残)。孔(外→内、殻頂、不定形、摩耗)	24区	62	
8	マクラガイ、ヌメリマクラ?	完	42.8	20.5	10.7	6.2	5.7	殻(やや摩耗、色残、アバタ●)。孔(殻頂、不定形、摩耗)	31区	4	
9	マクラガイ	完	20	41.3	3.6	7	6.2	殻(薄い、全面摩耗、色残、アバタ▲)。孔(外→内、殻頂、摩耗)	表採	98	
10	マクラガイ	完	20.8	44.8	10.5	9.6	8.7	殻(全面摩耗)。孔(外→内、殻頂、不定形)	岬・マツノト半島	21	
11	マクラガイ	完	31.6	43.4	3.4	7.6	7.6	殻(全面摩耗、肩部に研磨あり、アバタ▲)。孔(外→内、殻頂、円形)	15・16区	17	第79図27 図版28-31
12	マクラガイ	完	23	39.8	8.9	8.8	7.7	殻(摩耗、色残、アバタ▲)。孔(外→内、殻頂、楕円、摩耗)	15・16区	73	第79図26 図版28-30
13	ソデガイ類	完	36	48	14.3	-	-	殻(若干色残、背面・腹面・殻頂を顕著に研磨。厚さは11mm)	表採	97	第79図28 図版28-33
14	ソデガイ類	袖部	-	-	3.8	-	-	殻(摩耗、アバタ▲。袖部のみ、幅9mmの輪状)	3区	11	
15	アクキガイ科	完	26	32	9	-	-	殻口利用?厚さは均一。殻(全面摩耗、色残)	5区、第一文化層	65	図版28-34
16	アクキガイ科	完	31	38	13.2	-	-	殻口利用。殻(全面摩耗。自然?)	5区	66	図版28-35
17	タマガイ?	完	17	22.5	2.6	5	4	殻(全面摩耗、アバタ○)。孔(螺塔、外→内(自然)、体層、不定形)	2区、第一文化層	42	第79図25 図版28-25
18	フジツボ	完	34	23	13	-	-	殻底部部分水平に研磨か。殻(へビ貝有)	17区	3	第73図12 図版28-34

註:「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

⑪タカラガイ製品 (第79図・図版28)

ハナマルユキダカラ、ハナビラダカラなどの中形か小形のタカラガイの背面および殻軸を取り除き、形を整えたものである。中形のハナマルユキダカラは殻頂方向から平行に力を加え、背面除去したもので、殻軸が無く、背面に複数の打割が見られるものを製品として扱った。23点出土した。

図版⑨-29は殻底を打ち割ったもので、15区の第一文化層で出土している。民俗事例(上江洲1973)の網の錘と酷似する。本品は摩耗が著しいことから近世の遺物の可能性も考えられる。

図版⑨-26・27はハナビラダカラの背面を除去し、殻軸を調整したものである。前者はさらに前端と後端に研磨を施すものである。何れも小型であり、殻軸が除去されている。ことから装飾品の可能性が高い。

これらの他にハナマルユキダカラの殻軸を除去したものは表27に示したように多数見られるが、殻軸を残すものも多い。

これについては製品の可能性は低いと思われるが、第27表に出土一覧を示した。

第28-a表 タカラガイ製品観察一覧

No.	製品名	貝種	完 ／ 破	幅 mm	高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区 + 層	遺物 番号	第 図 図版
1	錘	ハナマルユキダカラ	完	38	28	10.2	24	17	殻軸・殻底有、打割(1回)	2区、第一文化層	58	
2	錘	ハナマルユキダカラ	完	24	31	7.4	24	19	殻軸無、殻底有。厚さ9mm。	4区、第一文化層	9	
3	錘	ハナマルユキダカラ	完	31	24	20	24	19	殻軸無・殻底有。打割3回以上。厚さ9mm。	4区、第一文化層	35	
4	錘	ハナマルユキダカラ	完	26.2	19.2	2.8			殻軸無、殻底有、打割(1回)風化、厚さ9.0mm。	12区、第一文化層	66	

第28-b表 タカラガイ製品観察一覧

No.	製品名	貝種	完 破	幅 mm	高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	観察事項	区+層	遺物 番号	第図 図版
5	錐	ハナマルユキダカラ	完	34	25	6.4	19	14	殻軸半欠、殻底有、打割(1回)。	12区、第一文化層	68	
6	錐	ハナマルユキダカラ	完	0	0	7	-	-	殻軸半欠、殻底有、打割2回、色残。	13区、	19	
7	錐	ハナマルユキダカラ	完	31	26	7.1	21	26	殻軸無、殻底有、打割(3回以上)、厚さ9mm。	14区、第一文化層	36	第図O 図版28-28
8	錐	ハナマルユキダカラ	完	23.4	32	4.5	-	-	背面除去、殻底打割、厚さ6.7mm。	15区、第一文化層	9	第図O 図版28-29
9	錐	ハナマルユキダカラ	完	32	24	4.3	22	16	殻-変形、殻軸半欠、殻底有、厚さ8mm。	15区、第一文化層	24	
10	錐	ハナマルユキダカラ	完	29	25	4.9	23	14	殻軸無、殻底有、殻・孔縁摩耗。	15区、第一文化層	26	
11	錐	ハナビラダカラ	完	24	17	2.6	12	11	殻軸有、殻底有、打割(2回)。	15区、第一文化層	44	
12	錐	ハナマルユキダカラ	完	31	26	6.4	20	16	殻軸無、殻底有、打割(3回以上)整う。	17区、	11	
13	錐	ハナマルユキダカラ	完	24	30	7	20	13	殻軸無。殻底有、打割(2回)。側面不揃い。色残。	18区、	22	
14	錐	ハナマルユキダカラ?	完	24	33	7	23	16	殻軸無、殻底有、打割(2回)、側面不揃。色無。	18区、	23	
15	錐	ハナマルユキダカラ?	完	26	34	8	20	15	殻軸半欠、殻底有、打割(2回)。側面整う。色無。	18区、	24	
16	錐	ハナマルユキダカラ	完	24	33	7	21	15	殻軸無、殻底有。縁不揃い、色残。	18区、	25	
17	錐	ハナマルユキダカラ	完	27	35	10	23	19	殻軸半欠、殻底有、打割(2回)。縁整う、殻頂側高い。色残。	18区、	27	
18	錐	ハナマルユキダカラ	完	25	33	7	23	19	殻軸半欠、殻底有。打割(2回)。縁整う。色無。	18区、	28	
19	錐	ハナマルユキダカラ	破	33.6	24.1	6.6	18.9	12.9	殻軸無、殻底有、打割(3回)、色残。	19区、	19	
20	錐	ハナマルユキダカラ	完	29	22	5.8	17	12	殻軸無、殻底有、厚さ9mm。	19区、第一文化層	59	
21	錐	ハナマルユキダカラ	完	28	34	9	-	-	殻軸無、殻軸有、側面整う。	24区、	15	
22	錐	ハナマルユキダカラ	完	22	24	4	-	-	殻軸無、殻底有、側面整う、色残。	24区、	37	
23	錐	ナツメダカラ?	完	47	38	14.4	33	22	殻軸有、殻底有、打割(3回)、側面不揃。	表採、	192	
24	装飾	ハナビラダカラ	完	17	22	2	15	11	殻軸無、殻底有、殻-光沢。	9区、	7	
25	装飾	ハナビラダカラ	完	26	17	3.9	15	13	殻軸無、殻底有、厚さ12mm。	13区、第一文化層	60	第図O 図版28-27
26	装飾	ハナビラダカラ	完	18.4	24.9	3.4	-	-	背面-1回打割、自然の可能性が高い。厚さ10.6mm。	15区、	16	
27	装飾	ハナビラダカラ	完	17.2	24	2	-	-	摩耗、厚さ7.1mm。	15区、第一文化層	45	
28	装飾	ハナビラダカラ?	完	17.8	23.8	2	-	-	厚さ7mm。	16区、	105	
29	装飾	ハナビラダカラ	完	11.9	14.7	0.6	-	-	殻軸無、殻底有、前・後端研磨。	17区、	61	図版28-26
30	装飾	ハナビラダカラ	破	0	22	1.4	7	-	背面穿孔、厚さ11.3mm。	18区、	73	
31	装飾	タカラガイ	完	13.4	23.1	1.2	-	-	厚さ7.4mm。	18区、	86	
32	貝匙	ホシダカラ	完	16	58.5	4.1	-	-	貝匙aタイプ、内唇使用。摩耗。	表採、	125	第73図11
33	貝匙	ホシダカラ	完	58	68.5	24.2	-	-	貝匙bタイプ、背面利用。自然の割れの可能性あり。	表採、	124	図版28-5

・貝匙 (第73図11・図版27-5)

タカラガイ科の中で最も大きいホシダカラを利用したもので、内唇と背面を用いた2種がある。

記述の便宜上、前者をaタイプ、後者をbタイプと仮称する。

aタイプはホシダカラの内唇から軸部にかけての湾曲した部分を用いたものである。軸側を柄、内唇を身と

なる部分で、身の部分の周縁は摩耗あるいは研磨されている。柄の部分は軸の円味を巧みに利用したもので加工痕は認められない。表採（125）で1個出土している。大きさは身の部分の最大幅16mm、長さ58.5mm、重さ4.06gを測る。

bタイプはホシダカラの背面を用いたものである。本品の形状はタカラガイを食するために、タカラガイの前端から力を加えた破損の形状と酷似することから、自然の破損の可能性も否定できない。ただ、貝製品は、このような偶發的にできたものを利用する場合もあるので、今後の検討資料として掲げておく。類例は奄美大島笠利町アラゴウ遺跡、久米島大原貝塚でも見られる。

⑩穿孔貝（図版25-4・5）

イトマキボラ、ウズラガイなどの巻き貝の腹面あるいは背面に15mm前後の粗孔を施したものである。孔は打割によって意図的に施されたものと思われる所以紹介する。イトマキボラは6区、ウズラガイは17区で出土した。いずれも外唇部分を欠く。用途ははっきりしない。

C. 二枚貝

①二枚貝有孔製品（第80図・図版29、30）

二枚貝の殻頂あるいはその近くに粗孔を施したもので、奄美諸島、沖縄諸島の先史時代遺跡で普通に見られる遺物である。両諸島はサンゴ礁に囲まれているため、民俗事例の網の錘にシャコガイやタカラガイの貝が用いられていることから、本品は一般に網の錘とされている。しかし、二枚貝は成長線が密になる殻頂部を中心に自然に割れる場合もある。本遺跡では、自然の穿孔と区別するため、二枚貝有孔製品とされる貝について孔の位置や穿孔の方向、孔の形、孔縁の状況、腹縁や貝殻の状況などを観察した。

①孔に複数の打割が確認できること、②腹縁に剥離や破損が見られること、③孔縁のスレ（ヒモズレ）が見られる。以上、3つの条件のいずれかに該当するものを二枚貝有孔製品とした。その結果、257個が確認した。これらの個々の遺物については、第29表に観察一覧を示し、主な貝については図80に掲載した。

貝種別の出土量はメンガイ（145個）、キクザル（23個）、タマキガイ（9個）、ウチワガイ（6個）、ソメワケグリ（18個）、カワラガイ（7個）、シャコガイ科（6個）、ホソスジイナミガイ（3個）、リュウキュウマスオ（3個）、ツキガイ（3個）、エガイ（3個）、オキシジミ（1個）、ヌノメガイ（1個）、マルオミナエシ（1個）、ザルガイ（1個）である。

層序別の出土量は第一文化層（上層）で192個、第二文化層（白砂層）18個、不明および表採で47個得られ、第一文化層で最も多く得られた。

地区別の出土量は、表面採集を除くと15・16区で44個、12区で36個、3区で21個、B区で18個が多い方である。また、12区と3区ではヤコウガイ有孔製品と一括で出土する例もある。

グラフ3に示したように重さは1～88gに見られ、多い順に列記すると10g以下が全体の44.0%、10～20gで26.4%、20～30gが13.9%、30～40gが12.3%が主なものである。これより重いものの出土量は非常に少なくなる。

本遺跡の二枚貝有孔製品の特徴をまとめると①メンガイ類の出土量が全体の55.5%と多い。また、タマキガイ科（ソメワケグリ、ウチワガイ、タマキガイ）やキクザルガイの出土する割合が沖縄諸島に比べて高い。これらの貝の重さは10g以下でヤコウガイ有孔製品と一括して出土し、一括の中でもヤコウガイ有孔製品の占める割合が高い。（図版30）

第29-a表 二枚貝製品観察一覧

NO.	貝種	右 左	残存	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔 位置	孔 単複	穿孔	孔形	孔縁	腹縁	観察事項	区	遺物 番号	層	第図 図版
1	チイロメンガイ?	左	完	54	58	20	15.8	18.6	上中	複孔	内→外	円	上縁摩耗	中	摩耗顯著 アバタ●	1区	12	第一文化層	
2	ウニメンガイ?	左	完	65	58	35	17	16	上中	複孔	内→外	方形	摩耗、全縁	摩耗、全縁	腹縁顯著 アバタ○	1区	13	第一文化層	
3	メンガイ	右	完	55	60	23	23	19.8	上中	複孔	内→外	縱横円	×	×	弱い部分から剥離 アバタ●	1区	14	第一文化層	
4	ツキガイ	右	完	80	78	32	30.1	29	上中	複孔	内→外	不定形	剥離	-	シャープ	1区	15	第一文化層	第79図14 図版29-12
5	ウチワガイ	左	完	30	30	3	14	14	上中	複孔	内→外	円	×	×	アバタ▲	1区	17	第一文化層	
6	エガイ	右	完	57	32	9	14.5	24.5	上中	複孔	内→外	横横円	摩耗	摩耗	アバタ▲	1区	27	第一文化層	第79図5・ 図版29-7
7	ウチワガイ	右	完	32	36	5	20	19	上中	複孔	内→外	円	摩耗	×	摩耗	2区	1	第一文化層	
8	メンガイ	左	破	4.5	5	10	23.6	21.8	上中	複孔	内→外	横円	摩耗	破損	焼け	2区	3	第一文化層	
9	メンガイ?	左	破	-	80	27	23.6	-	上中	-	内→外	-	-	×	自然	2区	7	第一文化層	
10	キクザルガイ	左	完	23	32	3	9	6	上中	複孔	内→外	縱横円	全縁摩耗	×	穿孔は丁寧	2区	38	白砂層	
11	メンガイ	左	完	51	66	16	13	12	上中	複孔	内→外	円	×	×	ヒモズレ	2区	39	白砂層	
12	タマキガイ	不明	破	-	-	4	-	-	上中	複孔	内→外	不明	×	×	貝殻の弱い部分 から割れる。 孔、研磨あり	2区	40	白砂層	
13	キクザルガイ	不明	破	39	-	7	-	9	中中	不明	不明	縱横円	×	×	焼け、黒灰色	2区	41	白砂層	
14	メンガイ	左	完	61	64	20	17	36	中中	複孔	内→外	横横円	摩耗、 上縁	剥離、前 ～後	アバタ○	3区	2		
15	メンガイ?	左	完	43	36	5	9	9	上中	複孔	内→外	不定形	剥離、 上縁	×	アバタ▲	3区	9		
16	メンガイ	左	完	63	66	30	22	20	上中	複孔	内→外	不定形	摩耗、 上縁	剥離、中	アバタ○、孔は 殻の薄い部分か ら割れる。	3区	10		
17	ウチワガイ	不明	破	38	-	6	-	-	-	-	不明	-	-	×	摩耗	3区	43		
18	メンガイ	左	完	19	36	6	10	12	上中	複孔	内→外	方形	摩耗、 上縁	剥離、中	摩耗顯著	3区	44	第一文化層	
19	メンガイ	右	完	64	78	45	37	32	上中	複孔	内→外	円	摩耗、 上縁	剥離、中 2回	アバタ○、色残	3区	45	第一文化層	
20	メンガイ	左	完	57	70	30	15	16	上中	複孔	内→外	方形	摩耗、 上縁	×	摩耗	3区	46	第一文化層	
21	メンガイ?	左	完	55	68	22	16	14	上中	複孔	内→外	円	摩耗、 上縁	剥離、中	アバタ▲	3区	47	第一文化層	
22	カワラガイ	右	完	44	52	12	17	10	上中	複孔	内→外	縱横円	摩耗、 部分	剥離、後	自然	3区	49	第一文化層	第79図9 図版29-10
23	キクザルガイ	右	完	24	28	3	9	6	上中	複孔	内→外	縱横円	摩耗、 上縁	摩耗	ヘビ貝	3区	67	第一文化層	
24	ソメワケゲリ	右	完	38	35	7	7.2	7.2	上中	複孔	内→外	不定形	やや摩耗	摩耗	摩耗	3区	71	第一文化層	
25	メンガイ	左	完	31	43	4	6	7	上中	複孔	内→外	不定形	やや摩耗	剥離、中	薄い	3区	72	第一文化層	
26	メンガイ	左	破	38	42	5	7.8	8.7	上中	複孔	内→外	不定形	やや摩耗	-	薄い	3区	73	第一文化層	
27	メンガイ	左	完	-	64	20	19	-	上中	複孔	内→外	円	×	×	自然? 突起無	3区	74		
28	ソメワケゲリ	右	完	41	38.5	10.3	6.5	8.5	殻頂	複孔	内→外	横横円	×	殻頂穿孔	3区	94	白砂層 一括②	第79図5 図版30右- 1・29-6	
29	ソメワケゲリ	左	完	37	36	8.4	7	6.9	殻頂	複孔	内→外	円	やや摩耗	×	殻頂穿孔	3区	95	白砂層 一括②	図版30右- 2
30	ソメワケゲリ	左	完	42	40	12.00	5.5	6.5	殻頂	複孔	内→外	円	-	×	殻頂穿孔	3区	96	白砂層 一括②	図版30右- 3
31	ソメワケゲリ	右	完	38	34	8.3	8	10.4	殻頂	複孔	内→外	横横円	剥離、前	殻頂穿孔	3区	97	白砂層 一括②	図版30右- 4	
32	ソメワケゲリ	右	完	34	34	5.8	9	13	上後	複孔	内→外	横横円	-	×	殻頂穿孔	3区	98	白砂層 一括②	図版30右- 5
33	ソメワケゲリ	右	完	39	39	9.4	4	9	上中	複孔	内→外	横横円	摩耗、 上縁	剥離、後	殻頂穿孔	3区	99	白砂層 一括②	第79図2 図版30右- 6・29-3

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第29-b表 二枚具有孔製品観察一覧

NO.	貝種	右 左	残 存	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔 位置	孔 単複	穿孔	孔形	孔縁	腹縁	観察事項	区	遺物 番号	層	第 図 図版
34	ソメワケグリ	左	完	35	34	6.6	6	7.5	殻頂	複孔	内→外	横楕円		×	殻頂穿孔	3区	100	白砂層 —括②	図版28-7
35	タマキガイ	左	完	32	37	6.2	13	11.5	上中	複孔	内→外	縦楕円		×	殻頂穿孔	3区	101	白砂層 —括②	第79図4 図版28-8・29-4
36	メンガイ	左	破	80	92	39	40	-	中中	单孔	内→外	不定形	×	×	自然の可能性もある。	4区	27	白砂層	
37	メンガイ	左	完	55	58	18	31	33	中中	複孔	内→外	円	剥離	剥離顯著	アバタ▲	4区	45	白砂層	第79図15・ 図版29-3
38	メンガイ	右	完	38	36	5	9	9	上中	複孔	内→外	方形	-	×	アバタ▲	4区	47	第一文化層	
39	メンガイ	右	完	66	68	44	17.1	21	上中	单孔	内→外	方形	×	×	突起無	4区	49	第一文化層	
40	メンガイ	左	完	50	54	13	16.2	21.6	上中	複孔	内→外	横楕円	摩耗、 上縁	剥離、中	アバタ▲	4区	50	第一文化層	
41	メンガイ	左	完	42	47	8	9	11	上中	複孔	内→外	方形	摩耗、 上縁	剥離、中	アバタ▲	5区	17		
42	ホソスジイナ ミガイ	右	完	33	29	5.7	6.5	4	上後	单孔	内→外	縦楕円	剥離	×	摩耗	5区	53		第79図1 図版29-1
43	メンガイ	左	破	-	-	25	-	-	中中	不明	内→外	不明	全縁摩耗	不明	アバタ●	5区	64		
44	リュウキュウ マスオガイ	左	完	54	40	12	9	9.4	上中	複孔	内→外	方形	剥離、 上縁	×	-	6区	1		
45	リュウキュウ マスオガイ	左	完?	39	38	4	7	9	上中	複孔	内→外	不定形	剥離、 上縁	剥離、若干	-	6区	10	第一文化層	
46	メンガイ	左	完	63	69	37	11	11	上中	複孔	内→外	円	剥離、 上縁	×	殻厚い、孔丁寧 に加工	6区	14		
47	メンガイ	左	完	35	42	8	13.2	11.2	上中	複孔	内→外	縦楕円	剥離、 上縁	摩耗、前 ~後	摩耗	6区	15		
48	ソメワケグリ	右	完	23	24	2	10.3	8.2	上中	複孔	内→外	横楕円	摩耗	摩耗、前 ~後	小型	6区	17		
49	リュウキュウ マスオガイ	右	完	64	53	10	12	15	中前	单孔	内→外	横楕円	×	×	-	6区	20		
50	ソメワケグリ	左	完	25	28	2.5	8	9	上中	複孔	内→外	円	×	×	摩耗	6区	62	第一文化層	
51	ソメワケグリ	左	完	39	38	7	39	38	上中	複孔	内→外	方形	剥離、 全縁	剥離、前 ~中	腹縁	8区	2	第一文化層	
52	ウチワガイ	右	完	30	33	4	18	14	上中	複孔	内→外	縦楕円	摩耗	×	摩耗	8区	3	第一文化層	
53	ウミギクの一 種	左	完	51	48	11	15.6	13.2	上中	複孔	内→外	縦楕円	-	-	膨らむ	8区	6	白砂層	
54	メンガイ?	左	完	46	54	17	17.9	15	上中	複孔	内→外	縦楕円	剥離、 上縁	剥離、前 ~後	殻厚い	8区	7	白砂層	
55	ソメワケグリ	左	破	57	-	10	12.5	-	上中	单孔	内→外	横楕円	摩耗	-	殻厚い	8区	8	白砂層	
56	キクザルガイ ?	左	完	29	32	6	7	6	上中	单孔	両面	方形	摩耗	摩耗	アバタ多、摩耗	8区	10	白砂層	
57	メンガイ?	左	破	-	-	10	-	15	上中	複孔	内→外	不定形	摩耗	破損	摩耗	9区	8	-	
58	メンガイ	左	完	63	73	32	25	22	上中	複孔	内→外	不定形	摩耗、 上縁	摩耗	アバタ▲	9区	14		
59	エガイ	左	完	39	26	4	11	14	中中	複孔	内→外	方形	剥離	剥離	アバタ▲	9区	20		
60	キクザルガイ	右	完	35	43	14	11	9	上中	複孔	内→外	縦楕円	摩耗	剥離顯著	アバタ▲	9区	22		
61	メンガイ	右	完	34	39	8	9	8	上中	单孔		縦楕円	×	×	アバタ▲	9区	35		
62	メンガイ	左	完	61	61	24	11	10	上中	複孔	内→外	不定形	-	-	摩耗	10a 区	31		
63	ウミギク	完	60	58	24	14	16									11区	1	第一文化層	
64	ウミギク?	左	完	62	68	25	16	16	上中	複孔	内→外	方形	シャー フ	×	シャープ	11区	2	第一文化層	
65	メンガイ?	左	完	61	71	28	33	26	上中	複孔	内→外	縦楕円	摩耗	-	アバタ◎	11区	3	第一文化層	
66	メンガイ?	左	完	60	73	31	14	12	上中	複孔	内→外	不定形	-	摩耗	摩耗	11区	5		
67	キクザルガイ	左	完	30	34	3	7	7	上中	单孔	内→外	円	剥離	-	シャープ	11区	6		
68	ヒメジャコ	左	完	63	42	15	15	10	上中	複孔	内→外	横楕円	剥離、 上縁	-	-	11区	7		第79図11 図版29-17
69	ウミギクの一 種	左	完	54	62	17.3	8.5	9.8	上中	複孔	内→外	不定形	摩耗、 上縁	×	アバタ▲	12区	1	第一文化層 —括①	図版30左-1
70	ウミギク	左	完	70	71	26.8	26.1	20.3	上中	複孔	内→外	縦楕円	×	×	アバタ▲	12区	2	第一文化層 —括①	図版30左-2
71	メンガイ?	左	完	64	74	33	21.8	22.6	上中	複孔	内→外	楕円	全縁摩耗	×	アバタ▲、突起 無	12区	3	第一文化層 —括①	図版30左-3

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第29-c表 二枚貝具有孔製品観察一覧

NO.	貝種	右 左	残 存	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔 位置	孔 単複	穿孔	孔形	孔縁	腹縁	観察事項	区	遺物 番号	層	第 図 図版
72	メンガイ	左	完	58	68	27	19.1	12	上中	複孔	内→外	縦槽円	全縁摩耗	×	突起無	12区	4	第一文化層 —括①	図版30左4
73	ウミギクの一種	左	破	55	58	20.8	12.3	14.6	上中	複孔	内→外	不定形	×	剥離、中～左縁	自然突起有	12区	5	第一文化層 —括①	図版30左5
74	ウミギクの一種	左	完	65	62	17.2	11.6	11.5	上中	複孔	内→外	縦槽円	×	×	自然突起有	12区	6	第一文化層 —括①	図版30左6
75	ウミギク	左	完	64	61	25.8	7.2	14.6	上中	複孔	内→外	横槽円	×	×	アバタ▲	12区	7	第一文化層 —括①	図版30左7
76	ウミギク？	左	破	55	61	20.1	10	14.2	上中	複孔	内→外	横槽円	剥離、上縁	剥離、中	自然突起有	12区	8	第一文化層 —括①	図版30左8
77	ウミギクの一種	左	完	60	76	17.9	17.4	14.8	上中	複孔	内→外	縦槽円	×	×	自然突起有	12区	10	第一文化層 —括①	図版30左10
78	メンガイ？	左	完	59	74	22.9	17	16.8	上中	複孔	内→外	円	全縁摩耗	×	アバタ▲、突起無	12区	11	第一文化層 —括①	図版30左11
79	ウミギクの一種	左	完	51	65	15.9	14.1	13.8	上中	複孔	内→外	縦槽円	×	×	自然突起有	12区	12	第一文化層 —括①	図版30左12
80	ウミギク	左	完	62	58	24.4	1.23	1.24	上中	複孔	内→外	方形	剥離、上縁	×	自然突起有	12区	13	第一文化層 —括①	図版30左13
81	ウミギク	左	完	68	60	21.1	12.2	11.8	上中	複孔	内→外	方形	×	×	自然突起有、少ない。	12区	14	第一文化層 —括①	図版30左14
82	ウミギク	左	完	61	63	36.8	13.5	19.2	上中	複孔	内→外	縦槽円	摩耗、上縁	×	アバタ▲	12区	15	第一文化層 —括①	図版30左15
83	？	左	完	64	68	26.2	11.1	16.8	上中	複孔	内→外	横槽円	剥離、上縁	×	アバタ▲	12区	16	第一文化層 —括①	図版30左16
84	メンガイ？	左	完	63	73	30.9	17.9	17.2	上中	複孔	内→外	縦槽円	全縁摩耗	×	やや摩耗	12区	17	第一文化層 —括①	図版30左17
85	メンガイ	左	完	60	68	33.1	15.8	13.2	上中	複孔	内→外	横槽円	剥離、上縁	×	死貝アバタ○	12区	18	第一文化層 —括①	図版30左18
86	ウミギクの一種	左	完	52	60	13.7	11.3	15.5	上中	複孔	内→外	縦槽円	摩耗、上縁	×	アバタ○	12区	19	第一文化層 —括①	図版30左19
87	メンガイ	左	完	57	60	18.8	25.3	21.4	上中	複孔	内→外	縦槽円	剥離、上縁	×	摩耗	12区	20	第一文化層 —括①	図版30左20
88	ウミギクの一種	左	完	64	56	16.9	14.2	18.6	上中	複孔	内→外	横槽円	×	×	自然	12区	21	第一文化層 —括①	図版30左21
89	ウミギクの一種	左	完	59	62	15.3	11	12.2	上中	複孔	内→外	縦槽円	剥離、全縁	剥離、前(左)～中	自然	12区	22	第一文化層 —括①	図版30左22
90	ウミギク	左	破	60	65	24.3	11.8	14.2	上中	複孔	内→外	不定形	×	剥離、前(左)～中	自然、突起明瞭。	12区	23	第一文化層 —括①	図版30左23
91	ウミギク	左	破	54	45	13.4	11.7	16.1	上中	複孔	内→外	不定形	全縁摩耗	剥離、前(左)～中	自然、突起有。	12区	24	第一文化層 —括①	図版30左24
92	ウミギク	左	完	6.5	6.3	17.9	10.4	15.1	上中	複孔	内→外	楕円	剥離、全縁	×	穿孔は丁寧か	12区	25	第一文化層 —括①	図版30左25
93	メンガイ	左	完	45	50	17.9	12.1	12.3	上後	複孔	内→外	円	摩耗、上縁	×	摩耗	12区	26	第一文化層 —括①	図版30左26
94	ヒメジャコ	右	完	65	46	17.5	9.6	8.2	上中	複孔	内→外	方形	×	×	摩耗	12区	27	第一文化層 —括①	図版30左27
95	ウミギクの一種	左	破	—	64	13.6	9.7		上中	不明	内→外	横槽円	×	自然、突起有		12区	28	第一文化層 —括①	図版30左28
96	ウミギク	左	破	59	53	15	14.8	16.8	上中	複孔	内→外	不定形	剥離1回	剥離、中	腹縁—使用痕か	12区	31	第一文化層	
97	ウミギク	左	完	56	62	18	14.2	18.6	上中	複孔	内→外	横槽円	剥離	剥離、中	—	12区	32	第一文化層	
98	ウミギク	左	完	75	74	35	12.4	15.9	上中	複孔	内→外	方形	剥離、上縁	×	突起明瞭	12区	33	第一文化層	
99	ウチワガイ	左	完	31	28	3	12	11	上中	複孔	内→外	縦槽円	剥離、上縁	×	アバタ▲	12区	34	第一文化層	
100	メンガイ	左	完	60	67	26	35.1	35	中中	單孔	内→外	円	剥離、上縁	×	殻頂にアバタ○	12区	35		
101	メンガイ	左	完	61	70	24	46.8	29.8	中中	複孔	内→外、貝成長線の剥離	不定形		剥離、中1回	アバタ●	12区	36		
102	メンガイ	左	完	59	68	36	20	12	上中	单孔	内→外	縦槽円	摩耗、上縁	×	摩耗→死貝	12区	38		
103	メンガイ	左	完	65	73	23	25.6	22.3	上中	複孔	内→外	縦槽円	剥離複数回	—	アバタ▲	12区	78		
104	メンガイ	左	破	39	—	12	24.4	3.2	上中	複孔	内→外	不定形	剥離	—	殻摩耗	12区	79		

註：「—」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第29-d表 二枚貝具有孔製品観察一覧

NO.	貝種	右 左	残存	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔 位置	孔 単複	穿孔	孔形	孔縁	腹縁	観察事項	区	遺物番号	層	第図 図版
105	メンガイ	左	完	55	60	15	10.4	9.7	上中	複孔	内→外	円	-	剥離有	シャープ	12区	80		
106	キクザルガイ	右	完	29	38	7	8	7.8	上中	複孔	内→外	縦槽円	×	×	孔は丁寧 突起無	13区	4	第一文化層	
107	メンガイ		完	57	60	18	15	13.1	上中	複孔	内→外	円	剥離		摩耗顯著	13区	48		
108	カワラガイ	左	完	36	40	7	8.9	12.6	中中	複孔	内→外	横槽円	剥離、 全縁	×	突起無	15区	8	第一文化層	
109	ソメワケグリ	右	完	29	29	3	8	10	上中	複孔	内→外	楕円	剥離、 上縁	摩耗	孔-摩耗 ヒモズレ	17区	1		
110	メンガイ?	左	破	25	23	1	9	7	上中	複孔	内→外	縦槽円	-	剥離、中 摩耗		17区	2		
111	カリガネエガイ	左	完	41	28	4.9	10.2	10.3	上中	複孔	内→外	方形	×	×	摩耗	17区	50		
112	メンガイ	左	完	56	58	26.0	14	19	上中	複孔	内→外	横槽円		剥離、中 一括か④		18区	48		
113	キクザルガイ	左	完	34	38	11.0	14	8	上中	複孔	内→外	縦槽円	×	一括か④		18区	49	第一文化層	
114	キクザルガイ	左	完	32	34	7.4	12	7	上中	单孔	内→外	縦槽円	×	一括か④		18区	50		
115	ソメワケグリ	左	完	26	25	2.5	10	9.4	上中	複孔	内→外	横槽円		剥離、後 一括か④		18区	51		
116	キクザルガイ	左	完	24	26	2.8	8	6	中中	複孔	外→内	縦槽円	×	一括か④		18区	52		
117	タマキガイ	右	完	29	34	4.0	12	11	上中	複孔	内→外	縦槽円		剥離、中 数回	一括か④	18区	53		
118	タマキガイ	左	完	25	27	2.8	7	8	上中	单孔	内→外	円	×	×	一括か④	18区	54		
119	ホソスジイナミガイ	右	完	28	24	2.0	12	14	中中	单孔	内→外	横槽円	×	一括か④		18区	55		
120	キクザルガイ	不明	完	23	28	4	7.4	5.3	上中	複孔	内→外	縦槽円	剥離、 上縁	×	アバタ●	18区	74		
121	キクザルガイ	左	完	22.4	26.8	3.1	7.9	5.7	上中	複孔	内→外	縦槽円	剥離、 上縁	剥離、中 アバタ▲		18区	76		
122	メンガイ	左	完	32	35	3	7.5	8.2	上中	複孔	内→外	円	剥離、 上縁	剥離、中 ～後 (右)	アバタ▲ 突起無	19区	40		
123	ソメワケグリ	左	完	36	32	5	11	9	上中	複孔	内→外	縦槽円	摩耗	剥離、前 焼		20区	1		
124	タマキガイ	左	完	28	26	3	11	8	上中	单孔	内→外	縦槽円	-	×	摩耗	20区	2		
125	キクザルガイ?	右	完	32	42	11	11.1	8.8	上中	複孔	内→外	縦槽円	摩耗、 上縁	×	摩耗	25区	3		
126	キクザルガイ	左	完	34	42	11	10.7	7.9	上中	複孔	内→外	縦槽円	摩耗、 上縁	×	摩耗	25区	34		
127	ザルガイ	左	完	32	42	7	9.3	12.6	上中	单孔	内→外	横槽円	剥離、 全縁	×	摩耗	25区	35		図版29-4
128	キクザルガイ	左	完	28	38	8	9	9.4	上中	複孔	内→外	円	摩耗	摩耗	ヒモズレ 殻摩耗	26区	15		第79図13 図版29-8
129	キクザルガイ	左	完	27	31	3	10	8.8	上中	複孔	内→外	縦槽円	摩耗	破損→摩 耗	ヒモズレ 殻摩耗	26区	16		第79図12 図版29-8
130	メンガイ	左	完?	78	88	79	36	21	上中	複孔	内→外	縦槽円	×	×	アバタ◎	31区	1		
131	メンガイ	左	完	64	82	41	24	21	上中	複孔	内→外	不定形	×	-	アバタ▲	31区	2		
132	メンガイ?	左	破	61	61	20	16	20	上中	複孔	内→外	方形	×	剥離、左 摩耗		31区	3		
133	キクザルガイ	左	完?	24	26	2	12	10	上中	複孔	内→外	不定形	剥離	剥離、数 回	アバタ◎	31区	8		
134	メンガイ	左	完	58	51	31	16	19	上中	複孔	内→外	不定形	摩耗	破損→磨 耗	アバタ▲	31区	16		
135	メンガイ?	左	完	33	37	3	8	9	上中	複孔	内→外	不定形	-	-	摩耗	31区	17		
136	キクザルガイ	左	完?	23	32	2	10	9	上中	单孔	内→外	円	-	-	アバタ多	31区	18		
137	メンガイ?	右	完	59	70	23	41.2	30	中中	複孔	内→外	縦槽円	×	孔が大きい、貝 殻の弱い部分が とれた。	A区	7			
138	ツキガイ?	不明	破	61	-	11	-	39.4	中中	複孔	内→外	不明	×	自然?、孔が多 大きい、貝殻の弱 い部分がとれた。	A区	8	-		

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第29-e表 二枚貝有孔製品観察一覧

NO.	貝種	右 左	残 存	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔 位置	孔 単複	穿孔	孔形	孔縁	腹縁	観察事項	区	遺物 番号	層	第図 図版
139	メンガイ?	右	破	60	-	15	-	28.9	中中	複孔	内→外	不定形		×	自然の剥離、孔 が大きい、貝殻 の弱い部分がと れた。	A 区	9		
140	メンガイ	右	完	34	41	5	12.4	10.4	上中	複孔	内→外	不定形		×	摩耗	A 区	10		
141	キクザルガイ?	右	完	30	40	8	8.9	7.8	上中	複孔	内→外	縦槽円		×	アバタ▲	A 区	11		
142	オオカリガネ エガイ?	右	完	52	32	9	14.8	11	上中	複孔	内→外	横槽円		×	死貝である。	A 区	12		
143	コタマキガイ	右	完	37	36	5	12.6	11.8	上中	複孔	内→外	円		×	焼け、内殻ヒビ	A 区	13		
144	コタマキガイ	左	完	32	28	2.9	8.9	6.6	上中	複孔	内→外	縦槽円		×	色残	A 区	14		
145	キクザルガイ	左	完	26	31	4	9	7.5	上中		内→外	椭円	剥離	×	アバタ▲	B 区	1		
146	メンガイ	左	完	78	86	66	42	38	中中	複孔	内→外	縦槽円	剥離、 上縁	×	加工丁寧	B 区	2		第79図16 図版29-4
147	メンガイ	左	破	-	71	29	-	-	上中	不明	内→外	不明		×	自然か	B 区	3	第一文化層	
148	メンガイ	左	破	-	-	37	-	-	上中	不明	内→外	不明	×	剥離、前 (左)～ 中	摩耗	B 区	4	第一文化層	
149	メンガイ?	左	完	6.5	7.6	32	2.9	2.4	上中		内→外	方形		×	孔大きい	B 区	5	第一文化層	
150	メンガイ?	左	破	-	-	8	25	-	上中	不明	内→外	不明	×	×	摩耗	B 区	6	第一文化層	
151	メンガイ	左	破	-	-	9	-	-	上中	複孔	自然		×		摩耗、焼け	B 区	7	第一文化層	
152	メンガイ?	左	破	-	-	14	-	-	中中		自然	破損	不	剥離、中	破損、死貝	B 区	8	第一文化層	
153	メンガイ	左	破	-	-	5	-	-	上中	不明	内→外	不明	×	×	摩耗	B 区	9	第一文化層	
154	メンガイ?	左	破	-	-	6	-	-	上中		自然	不定形	不	×	破損	B 区	10	第一文化層	
155	メンガイ?	左	破	68	-	22	-	-	上中	不明	内→外	不明	×	×	アバタ▲	B 区	11	第一文化層	
156	メンガイ	左	破	-	-	25	18	-	上中	不明	内→外	不明	×	剥離、前 (左)～ 中	摩耗	B 区	12	第一文化層	
157	メンガイ	左	破	-	-	10	11	-	上中	不明	内→外	不明	×	×	摩耗	B 区	13	第一文化層	
158	メンガイ?	左	破	-	-	5	-	-		自然	不定形	不	剥離、中	破損	B 区	14	第一文化層		
159	メンガイ	左	完	52	62	18	25	23	中中	複孔	内→外	縦槽円	摩耗、 上縁	×	アバタ▲	B 区	15		
160	メンガイ?	左	破	-	-	11	-	-	上中		内→外	不定形	不	破損	破損	B 区	16	第一文化層	
161	メンガイ	左	破	-	-	14	-	-		内→外			×	破損	B 区	17	第一文化層		
162	メンガイ?	左	破	-	-	7	-	-	上中		自然	不定形	不	剥離、中	破損、孔は殻の 弱い部分から破 損	B 区	20	第一文化層	
163	メンガイ	左	破	-	-	15	-	-	上中		内→外	不定形	不	破損	破損、一部研磨	B 区	21	第一文化層	
164	ヒメジャコ	右	完	63	72	33	18	25	上前	複孔	内→外	縦槽円	×	×	アバタ●	表採	1		
165	メンガイ	左	完	59	56	19	12	17	上中	複孔	両面	横槽円	剥離、 上縁	×	アバタ●	表採	2		
166	メンガイ	左	完	50	56	15	15	16	上中	複孔		方形	×	×	アバタ▲、突起 無	表採	3		
167	タマキガイ	左	完	26	26	2	12	10	上中	複孔	内→外	縦槽円	×	×	複孔明瞭	表採	4		
168	ホソスジイナ ミガイ	左	完	37	30	5.5	8	12	上後	複孔	内→外	横槽円	×	×	-	表採	5		
169	タマキガイ	右	完	36	47	6	10	9	上中	複孔	内→外	縦槽円	摩耗、 上縁	剥離、中 ～後 (右)	アバタ▲	表採	7		
170	メンガイ	右	完	34	37	9	14	6	上中	複孔	内→外	縦槽円	×	×	摩耗	表採	8		
171	メンガイ	右	完	75	78	34	41	35	中中	複孔	内→外	不定形	×	×	アバタ◎	表採	12		
172	メンガイ	左	完	48	62	19	17	16	上中	複孔	内→外	不定形	×	×	アバタ●、突起 無	表採	13		
173	メンガイ	左	完	44	44.3	7	11	9	上中	複孔	内→外	不定形	×	剥離、中	摩耗	表採	14		
174	カララガイ	右	完	38	46	13	12	13	上中	複孔	内→外		×	剥離、中 ～後 (右)	摩耗	表採	15		
175	キクザルガイ	左	破	38	-	10	-	17	上中	单孔	内→外	縦槽円	×	×	アバタ●	表採	16		
176	メンガイ	左	完	45	46	7	29.3	11.8	上中	单孔	内→外	縦槽円	×	×	殻が薄い、突起 無	表採	18		

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→10数個、▲→数個、×→無を示す。

第29-1表 二枚貝具孔製品観察一覧

NO.	貝種	右 左	残 存	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔 位置	孔 単複	穿孔	孔形	孔縁	腹縁	観察事項	区	遺 物 番 号	層	第 図 図版
177	メンガイ	左	完	44	52	16	19.2	15.5	中中	単孔	内→外	方形	摩耗	剥離、前 ～後	アバタ▲	表採	20	一括?①	
178	メンガイ	左	完	46	50	15	23.6	23.1	中中	複孔	内→外	縦椭円	摩耗	剥離、前 ～後	アバタ▲	表採	21	一括?①	
179	メンガイ	左	完	38	46	7	21.8	11.8	上中	複孔	内→外	縦椭円	摩耗	剥離、前 ～後	殻薄い	表採	22	一括?①	
180	メンガイ	左	完	49	57	12	15.2	13.2	上中	複孔	内→外	縦椭円	摩耗	剥離、中	殻薄い	表採	23	一括?①	
181	メンガイ	左	完	44	50	16	14.2	8.9	上中	複孔	内→外	縦椭円	摩耗	×	やや摩耗	表採	24	一括?①	
182	メンガイ	左	完	42	50	11	24.2	19.4	上中	複孔	内→外	横椭円	摩耗	×	アバタ▲	表採	25	一括?①	
183	ソメワケグリ	右	完	32	34	4	22	18	上中	複孔	内→外	縦椭円	全縁摩耗	×	全体摩耗、色残	表採	30	-	
184	キクザルガイ	右	完	34	37	6	6.3	6.2	上中	複孔	内→外	円	剥離	摩耗	研磨?	表採	32		
185	キクザルガイ	左	完	28	37	7	7.8	7.4	上中	単孔	内→外	円	剥離	摩耗	アバタ多	表採	34		
186	オキシジミ	左	完	34	37	4	13.5	13.2	上中	複孔	内→外	不定形	-	-	-	表採	38		
187	ヒメジャコ	左	完	68	47	26	16.8	19	上中	複孔	内→外	横椭円	摩耗	摩耗	ヒモズレ?	表採	39		
188	メンガイ	左	完	34	47	8	15	5	中中	単孔	自然	縦椭円	全縁摩耗	×	孔は自然を利用	表採	40		
189	メンガイ	左	完	30	32	2	8.9	9.4	上中	単孔	内→外	円	剥離、 上縁	×	小形、摩耗	表採	41		
190	メンガイ	左	完	58	61	24	27.4	22.4	上中	複孔	内→外	不定形	×	剥離、中	アバタ◎	表採	42		
191	キクザルガイ	不明	完	33	-	9	-	10	上中	単孔	不明	不定形	×	×	アバタ●	表採	43		
192	タマキガイ	左	完	35	34	5	15.2	14.4	上中	単孔	内→外	円	全縁摩耗	剥離、中	アバタ●	表採	45		
193	タマキガイ	左	完	36	34	7	12.5	16.6	上中	単孔	内→外	横椭円	全縁摩耗	摩耗、全 縁	殻頂摩耗、焼け	表採	46		
194	メンガイ	右	完	76	97	66	26.2	22.4	上中	複孔	内→外	縦椭円	×	×	孔は打割が見ら れる。	表採	49		
195	メンガイ	左	完	72	95	35	31	39.8		複孔	内→外	不定形	摩耗、 上縁	×	アバタ▲	表採	63		
196	メンガイ	左	完	48	54	11	25.3	12.8		複孔	内→外	方形	×	×	アバタ▲	表採	64		
197	メンガイ	左	完	53	55	18	19.3	23	上中	複孔	内→外	横椭円	×	剥離、中	摩耗	表採	65		
198	メンガイ	左	完	57	54	18	18.6	15.2	上中	複孔	内→外	縦椭円	摩耗、 上縁	剥離、中	摩耗	表採	66		
199	ソメワケグリ	左	完	36	38	8	5.5	7.5	上中	複孔	内→外	横椭円	×	×	アバタ▲	表採	67		
200	キクザルガイ?	左	破	-	39	8	9	-	上中	複孔	両面	横椭円	剥離	摩耗	焼	表採	180		
201	メンガイ	左	完	57	68	21.8	13	14	上中	複孔	内→外	横椭円	剥離、 上縁	×	アバタ▲	表採	181	一括③	
202	メンガイ	左	完	57	63	31.8	11	16	上中	複孔	内→外	横椭円	-	×	アバタ▲、ヘビ 貝	表採	182	一括③	
203	メンガイ	左	完	64	73	20.2	36.8	25.9	中中	複孔	内→外	不定形	-	×	アバタ▲	表採	183	一括③	
204	メンガイ	左	完	62	61	22.7	27.3	28.3	中中	複孔	内→外	円	摩耗	×	アバタ▲	表採	184	一括③	
205	メンガイ	左	完	63	69	22	13.1	18.1	上中	複孔	内→外	不定形	-	×	アバタ▲	表採	185	一括③	
206	メンガイ	左	完	61	64	17.4	23.6	24.2	上中	複孔	外→内	縦椭円	-	×	アバタ▲	表採	186	一括③	
207	メンガイ	左	完	61	63	18.9	13.3	13.6	上中	複孔	内→外	不定形	剥離、 上縁	×	アバタ▲	表採	187	一括③	
208	メンガイ	左	完	57	70	22.3	16	18.5	上中	複孔	内→外	縦椭円	-	摩耗	アバタ▲	表採	188	一括③	
209	メンガイ	左	完	58	69.5	19.2	20.3	23.1	上中	複孔	内→外	縦椭円	-	×	アバタ▲	表採	189	一括③	
210	メンガイ	左	完	61	64	20.1	12	12.9	上中	単孔	内→外	横椭円	剥離、 上縁	剥離、左 1回	孔は丁寧	表採	190	一括③	
211	メンガイ	左	破	62	69	22.31	14		上中	複孔	内→外	横椭円	-	×	アバタ▲	表採	191	一括③	
212	シラナミ	左	完	77	51	35	11	8	上中	複孔	両面	横椭円	摩耗、 上縁	×	内殻に大きな剥 離、自然の可能 性	1・2 区	1		

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

第29-g表 二枚貝有孔製品観察一覧

NO.	貝種	右 左	残 存	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔 位置	孔 単複	穿孔	孔形	孔縁	腹縁	観察事項	区	遺 物 番 号	層	第図 図版	
213	メンガイ	左	完	55	64	16	11	10	上中	複孔	内→外	横楕円	摩耗、 上縁	剥離、左	丁寧な加工	1・2 区	2			
214	メンガイ？	左	完	69	69	36	17.9	21.7	上中	複孔	内→外	横楕円	-	摩耗	アバタ▲	15・ 16区	1			
215	ソメワケグリ	右	完	40	33	7	12	15	上中	複孔	内→外	不定形	-	剥離2~3 回	色残	15・ 16区	2			
216	メンガイ	左	完	74	74	39	24	23.2	上中	複孔	内→外	不定形	x	x	アバタ多	15・ 16区	2			
217	ウニメンガイ？	左	完	63	60	31	18.8	16.9	上中	複孔	内→外	不定形	x	剥離、前 ~後	突起無	15・ 16区	3			
218	メンガイ	左	完	64	64	36	-	2	上中	単孔	両面	不定形		x	孔は自然の可能 性が高い	15・ 16区	3			
219	メンガイ	左	完	39	49	9	12	11	上中	複孔	内→外	不定形		x	摩耗	15・ 16区	4			
220	メンガイ	左	完	60	70	39	19.4	17.5	上中	複孔	内→外	縱楕円	x	x	孔丁寧に穿孔。 アバタ多	15・ 16区	4			
221	メンガイ	左	完	41	47	7	10	16.5	上中	複孔	内→外	不定形		摩耗、全 縁	死貝、アバタ●	15・ 16区	5			
222	メンガイ？	左	完	32	49	8	10.7	11.6	上中	複孔	両	横楕円	x	摩耗、全 縁	アバタ▲、突起 無	15・ 16区	5			
223	キクザルガイ	左	完	48	48	9.5	7.4	12.8	中中	複孔	内→外	不定形	x	x	突起無	15・ 16区	6			
224	キクザルガイ	左	完	35	45	10	22	22	上中	複孔	内→外	不定形		x	自然	15・ 16区	6			
225	キクザルガイ	右	完	28	38	6	11	5	上中	複孔	内→外	縱楕円	x	x	摩耗	15・ 16区	7			
226	キクザルガイ	左	完	32	38	5	10.6	5.8	上中	複孔	内→外	縱楕円	x	x		15・ 16区	8			
227	チイロメンガイ？	左	完	33	30	3	7.2	7.3	上中	複孔	内→外	縱楕円	-	破損	アバタ▲	15・ 16区	9			
228	メンガイ	左	完	34	33	4	7	6	上中	複孔	内→外	縱楕円	摩耗、 上縁	摩耗	摩耗	15・ 16区	9			
229	シラナミ	右	完	46	32	7.2	7	11	上中	複孔	内→外	縱楕円	剥離、 上縁	摩耗、全 縁	やや摩耗	15・ 16区	9		第79図10 図版29-16	
230	ウミギク？	左	完	37	43	5	15.8	11.3	上中	複孔	内→外	不定形	-	x	アバタ▲	15・ 16区	10			
231	カワラガイ	右	完	48	44	18	14	11	上中	複孔	内→外	縱楕円	剥離、 ほぼ全 縁	剥離、中 1回	-		15・ 16区	10		第79図8 図版29-5
232	ソメワケグリ	左	破	28	32	4	13	10	中中	複孔	内→外	縱楕円	剥離、 上縁	破損、中	風化	15・ 16区	11			
233	シラナミ	右	完	55	39	13	7.8	10.8	上後	複孔	内→外	方形	-	摩耗	摩耗	15・ 16区	11			
234	ソメワケグリ	右	完	30	25	2	8.2	8.5	上中	複孔	内→外	縱楕円	x	摩耗、全 縁	腹縁 - 大きな剥 離、使用痕か。	15・ 16区	12			
235	ヒメジャコ	右	完	59	40	12.3	15.1	16.8	上中	複孔	内→外	円	剥離	-	摩耗	15・ 16区	12			
236	ウチワガイ	不明	破	32	-	4	17.6	-	上中	単孔	内→外	円	-	-	穿孔は成長線に 沿う	15・ 16区	13			
237	メンガイ	左	完	52	58	18	15.2	12.1	上中	複孔	内→外	縱楕円	剥離、 上縁	x	色残	15・ 16区	14			
238	メンガイ	左	完	38	43	5	15	11	上中	単孔	内→外	方形	-	x	色残	15・ 16区	15		図版29-15	
239	メンガイ	左	完	94	10.4	88	30	23.6	上中	複孔	内→外	横楕円	シャー ブ	x	アバタ●	15・ 16区	15			
240	キクザルガイ	右	完	28	28	4	9	8	上中	複孔	内→外	横楕円	剥離	剥離	摩耗	15・ 16区	17			
241	メンガイ？	右	完	45	67	13	25.1	15.8	上中	複孔	内→外	縱楕円	-	摩耗	摩耗	15・ 16区	19			
242	メンガイ	左	完	47	50	17	5.5	10.3	上中	複孔	内→外	横楕円	-	-	摩耗	15・ 16区	21			
243	チイロメンガイ？	左	完	56	71	23	21.4	15.1	上中	複孔	内→外	方形	剥離	剥離、3	アバタ◎	15・ 16区	22			

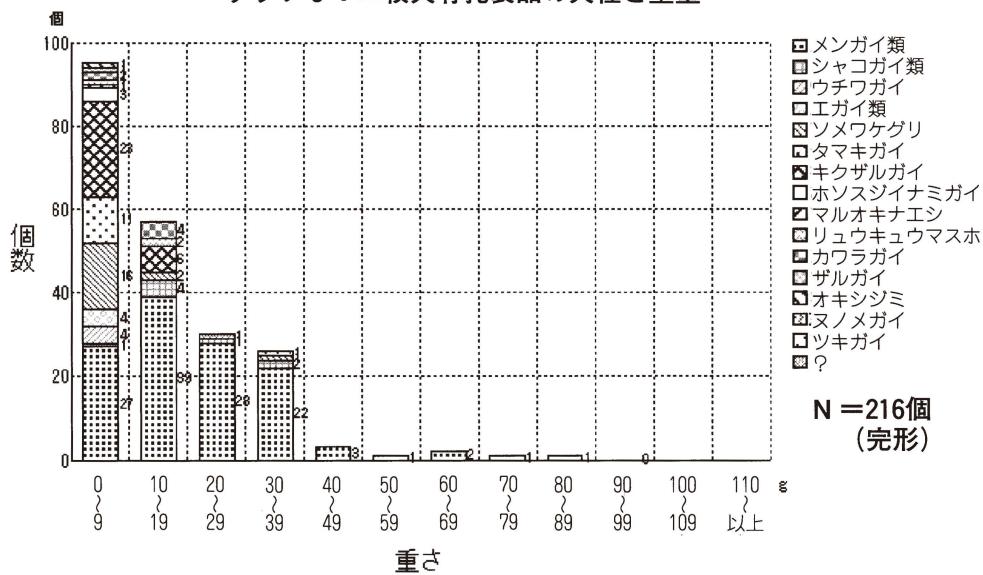
註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは○→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

第29-h表 二枚具有孔製品觀察一覧

NO.	貝種	右 左	残 存	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	孔 位置	孔 単複	穿孔	孔形	孔縁	腹縁	観察事項	区	遺 物 番 号	層	第図 図版
244	チイロメンガイ?	左	完	44	52	11	20.7	15.5	上中	複孔	内→外	縦椭円	-	剥離、前 ~後	アバタ▲	15・ 16区	23		
245	ウミギク?	左	完	54	57	11	25.1	20.7	上中	複孔	内→外	不定形	-	-	摩耗	15・ 16区	24		
246	カワラガイ	左	完	43	48	8	10.8	11.2	上中	複孔	内→外	円	-	剥離、後	-	15・ 16区	25		
247	キクザルガイ?	右	完	39	49	14	14	9.8	上中	複孔	内→外	縦椭円	剥離	-	摩耗	15・ 16区	26		
248	キクザルガイ	不明	完	14	18	1	7.8	6.8	上中	複孔	内→外	不定形	-	×	摩耗	15・ 16区	31		
249	メンガイ	左	完	64	87	51	14	11.5	上中	複孔	内→外	不定形	-	×	摩耗	15・ 16区	35		
250	メンガイ	左	完	36	44	5	10.4	7	上中	複孔	内→外	不定形	-	×	摩耗	15・ 16区	36		
251	メンガイ	右	完	42	48	8	11.3	11	上中	複孔	内→外	方形	-	×	摩耗	15・ 16区	37		
252	ヌノメガイ	左	完	78	78	38	31	25	上中	複孔	内→外	円	剥離	剥離	摩耗	15・ 16区	45		
253	メンガイ?	左	完	38	40	5	10	9.3	上中	複孔	内→外	縦椭円	-	×	摩耗	15・ 16区	46		
254	タマキガイ	左	完	34	36	5	16.5	12.9	中中	複孔	内→外	縦椭円	摩耗	×	色残	15・ 16区	47		
255	マルオキナエシ?	右	完	36	32	5	6.2	7.2	上中	複孔	内→外	不定形	剥離	-	色残	15・ 16区	48		第79図7 図版29-2
256	カワラガイ	完	42	48	13	10	10.2									15・ 16区	49		
257	メンガイ	左	完	40	42	5.1	13.5	12.2	上中	複孔	内→外	不定形	-	×	孔-複孔	15・ 16区	68	ビ	

註：「-」は計測不可。「観察事項」の項、アバタは◎→多量、●→普通、▲→確認、×→無を示す。

グラフ3：二枚具有孔製品の貝種と重量



最も多く出土したメンガイ類もヤコウガイ有孔製品と一括して出土したが、前述のタマキガイやソメワグリの一括遺物と比較するとヤコウガイ有孔製品の占める割合は低いようである。

ヤコウガイ有孔製品と二枚具有孔製品が一括して出土することは、両製品の用途を考える上で貴重な資料である。

②ムラサキチョウガイ有孔製品（図版29）

ムラサキチョウガイ（ウグイスガイ科）の殻頂近くあるいは中央部に粗孔を施したもので、4個出土した。貝の大きさの平均は、殻長26.7mm、殻高34.5mm、孔径8.6×6.8mm、重さ3.5gと他の二枚具有孔製品に比べて小さい。

粗孔は橢円形（9区15、16、17区49）と不定形（9区18）で光沢があり、真珠質で脆いことから、他の二枚具有孔製品とは異なる用途が想定される。表30に個別の観察一覧を示した。

第30表 ムラサキチョウガイ有孔製品

NO.	完 破	殻長 mm	殻高 mm	重さ g	孔 タテ mm	孔 ヨコ mm	穿孔	孔位 置	孔單 複	孔形	孔縁	観察事項	区 + 層	遺 物 番 号	第 図 図版
1	完	29	46	5	9	4	内→外	中中	複孔	縦橢円	上縁 剥離	左殻、貝は整っている	9区	15	図版28-1
2	完	26	25	2	9.5	8.5	内→外	上中	複孔	縦橢円	—	左殻	9区	16	図版28-2
3	完	34	45	3.2	10	11	両面	中前	複孔	不定形	—	左殻、アバタ、自然可能性高い	9区	18	図版28-3
4	完	18	21	0.5	6	4	内→外	上中	複孔	縦橢円	—	右殻	17区	49	図版28-4

③その他（第80図18・19、図版31-5・6）

シャコガイを用いた貝皿とリュウキュウマスオガイを用いた貝刃が各々1個ずつ出土した。

第80図19（図版31-5）はシラナミの左殻で、腹縁を大きく打ち割り、摩耗しているため、円味を帯びているもので「貝皿」とされているものである。アバタが見られ、貝全体が摩耗していることから、死貝を利用していると思われる。完形で貝の大きさは殻長132mm、殻高79mm、重さ167gを測る。12区（30）の第一文化層で出土している。

第80図18は、リュウキュウマスオガイの右殻で、腹縁に連続して剥離を施したものである。完形で貝の大きさは殻長80mm、殻高51mm、重さ22gを測る。6区（15）で出土している。

D. 貝種不明

加工が著しく、使用されている貝が明瞭でないものである。

①サメ歯状有孔製品（第78図18、図版27-7）

第78図18（表採171）は大形の貝を二等辺三角形に象り、長辺の両面に幅2mm前後の細かい刻み目を施し、サメ歯状に整形したものである。また、底辺に径4.0mmと4.5mmの孔を並列に施すものである。表面の中央はやや盛り上がりマウンド状を呈し、裏面は若干凹むもので、貝の成長線が2本確認できる、貝は石化が進んでいる。本品は裏面の貝の成長線の状況から肉厚のシャコガイを用いたものと思われる。

周縁に施された鋸歯文は、不揃いで、また、孔は裏面から磨って施している。大きさは幅31mm、高さ41mm、重さ5.68gを測る。

本品は表採品で、類例は沖縄諸島では津堅島キガ浜貝塚・宮城島シヌグ堂貝塚など縄文時代後期～晩期に出土する。これらの例に比べて鋸歯の部分は雑に仕上げられている。本遺跡では、縄文時代後晩期の遺物が出土しないことから所属年代に疑問を残す。

貝製品まとめ

以上、貝種別に略述した

これらの用途をみると最も多く出土した二枚具有孔製品やヤコウガイ有孔製品は両者が一括して出土していることから漁網錘（盛本1981・家田1983・島袋2004）と推定される。容器状の製品としてはヤコウガイ、ゴホ

ウラ、ホシダカラの貝匙、ホラガイ有孔製品、シャコガイ貝皿などある。利器としてはリュウキュウマスオの貝刃が出土している。

装飾品としてはサメ歯状貝製品、貝符、イモガイ円盤状製品、オオツタノハ・オオベッコウガサの貝輪、ノシガイ製品、小形イモガイのaタイプ・bタイプなどがある。用途の明らかでないムラサキチョウガイ有孔製品、ヤコウガイのリング状製品がある。

貝種でみると最も多く利用されているのはヤコウガイである。貝殻の腹面、背面、殻口部分などが用いられ、小形の有孔製品や貝匙は腹面が利用されている。また、製品に用いられた貝の中には被熱を受けたものもあり、製品の素材貝や食用として重宝な貝であったといえる。貝匙は複数の器形が見られ、中でもbタイプは精鍛された仕上がりで移出品の可能性を窺わせるものである。

ゴホウラや大形イモガイは貝輪や貝符などの素材貝であるが、質の悪い死貝が少量出土した。その製品となる貝符はいびつで未製品も多く、中には2~3個、接合できるものも見られた。沖縄諸島では貝集積遺構として検出されるが、本遺跡では材料の確保に苦慮していたようで、アンボイナを代用として用いていたようである。

小形の巻き貝（イモガイ・ノシガイ）の製品は多数出土している。その中には砂浜で採取される打ち上げ貝も少なくない。しかし、意図的に加工を施したものはマダライモやノシガイなど明瞭な文様を持つ貝のようである。

奄美諸島と沖縄諸島は貝製品が多数出土する点では共通するが、貝の種類や用い方では異なるようである。その中でもヤコウガイは奄美諸島では最も高い利用率を示すものである。その背景としては地理的・歴史的背景やサンゴ礁の海の貝類組成などに起因と思われる。

＜引用・参考文献＞

- 家田淳一 1983年 「しゃこがい科貝錘」の機能』『琉大史学』第13号
上江洲均 1973年 『沖縄の民具』慶友社
奥谷喬司（編）1986年 『決定版生物大図鑑 貝類』世界文化社
金武正紀・比嘉春美 1978年 「津堅島キガ浜貝塚発掘調査報告書」『沖縄県文化財調査報告書』第17集
金武正紀・比嘉春美・金子浩昌 1985年 「シヌグ堂遺跡－第1・2・3次発掘調査報告－」『沖縄県文化財調査報告書』第67集 沖縄県教育委員会
黒住耐二 1994年 「オオツタノハの供給地」『南島考古』NO.14. 沖縄考古学会
黒住耐二（金武正紀編） 1989年 「宮城島遺跡分布調査報告－1. 宮城島の遺跡分布 2. 高嶺遺跡」『沖縄県文化財調査報告書』第92集 沖縄県教育委員会
国分直一・盛園尚孝 1958年 「種子島南種子町広田の埋葬遺跡の調査概報『考古学雑誌』43巻3号
島袋春美 2004年 「奄美・沖縄諸島の漁網錘の形態的研究（その3）－考古資料－」『南島考古』第23号沖縄考古学会
島袋春美 1997年 「県内出土の「タカラガイ製品」について」『南島考古』NO.16沖縄考古学会
島袋春美（西銘章ほか編） 2001年 「ヤッチのガマ・カンジン原古墓群」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第6集』沖縄県立埋蔵文化財センター
当真嗣一・上原 静ほか1980年 「大原貝塚－久米島大原貝塚郡発掘調査報告－」『沖縄県文化財調査報告書』第32集 沖縄県教育委員会
中山清美 2004年 「アラゴウ遺跡」『笠利町文化財報告書』第26集笠利町教育委員会
広田遺跡学術調査研究会編 2003年 『種子島 広田遺跡』鹿児島歴史・資料センター黎明館
盛本 勲 1982年 「奄美・沖縄地方における貝製漁網錘の研究」『物質文化』no.34・35